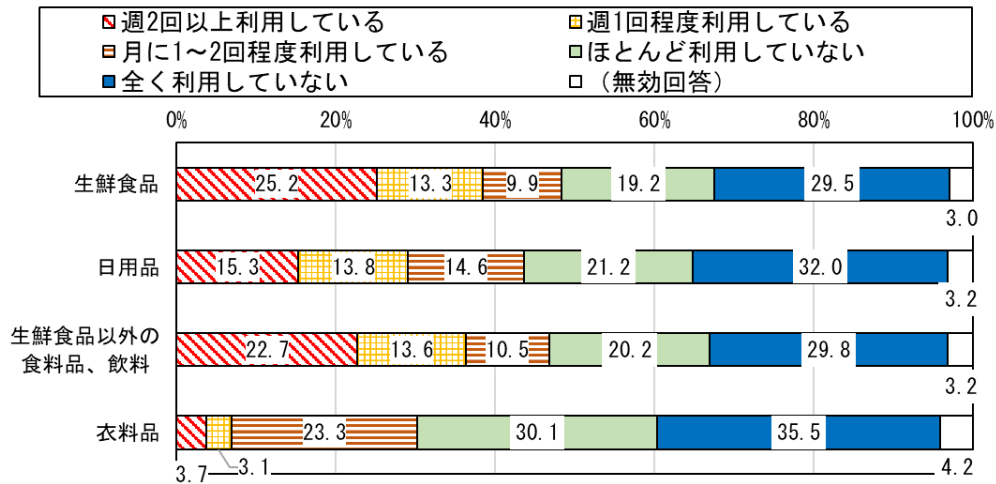


【産業・農業について】

問 42) あなたは、買物や飲食などで、地元の商店街（スーパーマーケットやコンビニ、チェーン店以外の個人商店など）をどのくらい利用していますか。

<全体 (n=1,367)>

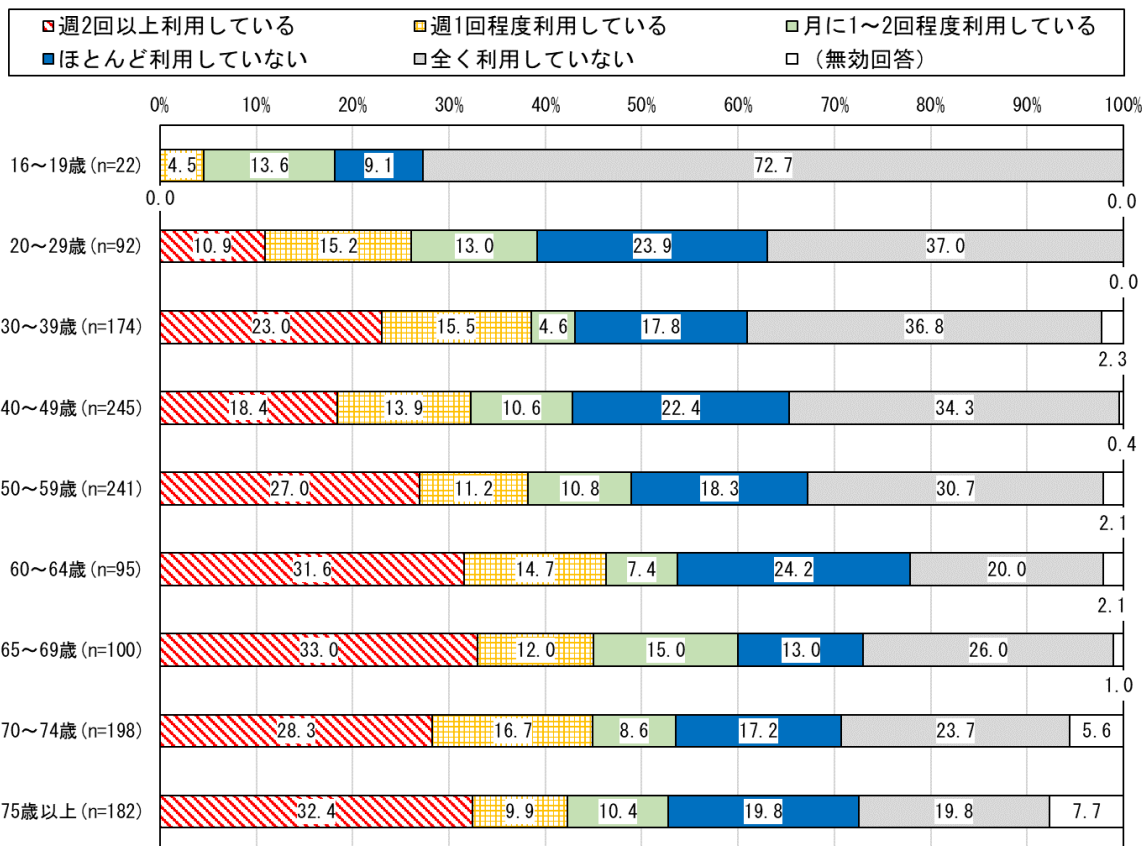
- 「週2回以上利用している」、「週1回程度利用している」、「月に1～2回程度利用している」の合計が40%を超えているのは、「生鮮食品」、「日用品」、「生鮮食品以外の食料品、飲料」となっています。
- 「衣料品」は、「ほとんど利用していない」と「全く利用していない」の合計が65.6%に上っています。



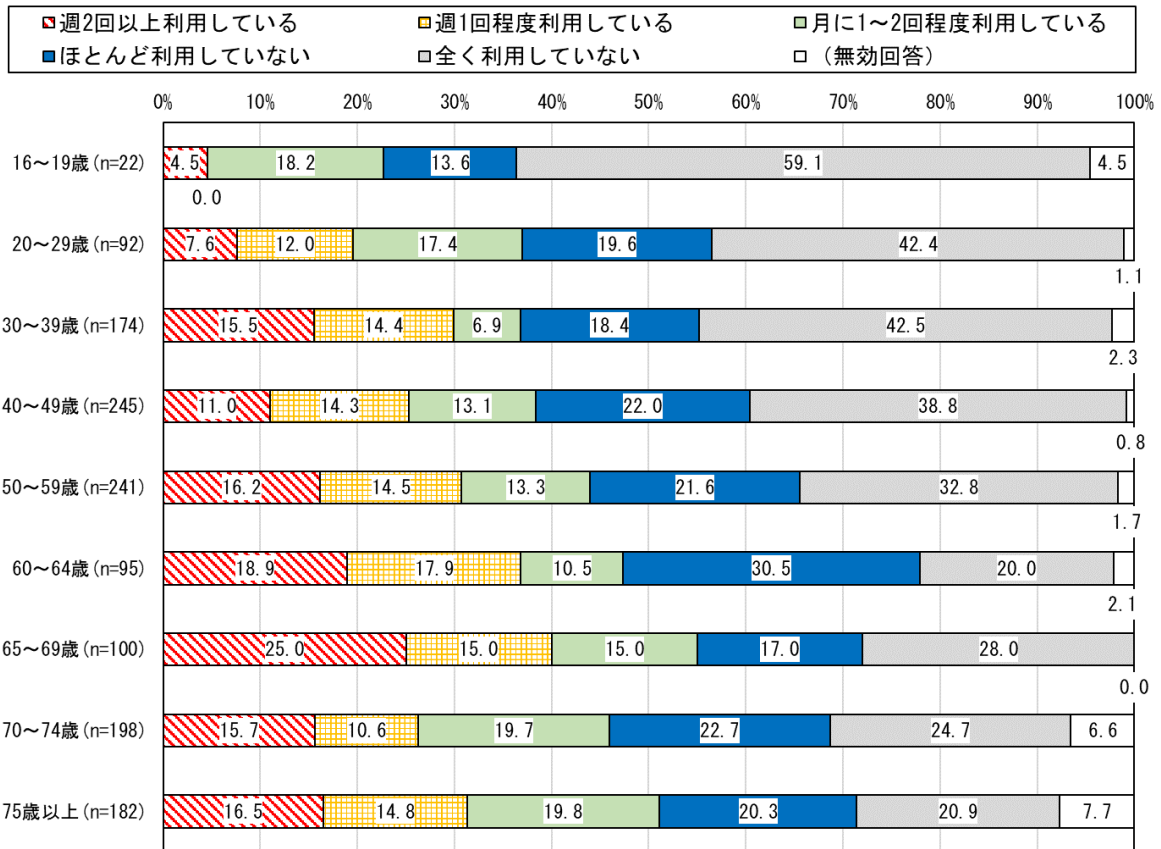
<年齢層別>

- 生鮮食料品や衣料品について、20～60歳代では年代が上がるほど、「週2回以上利用している」、「週1回程度利用している」、「月に1～2回程度利用している」の合計が上昇傾向にあります。

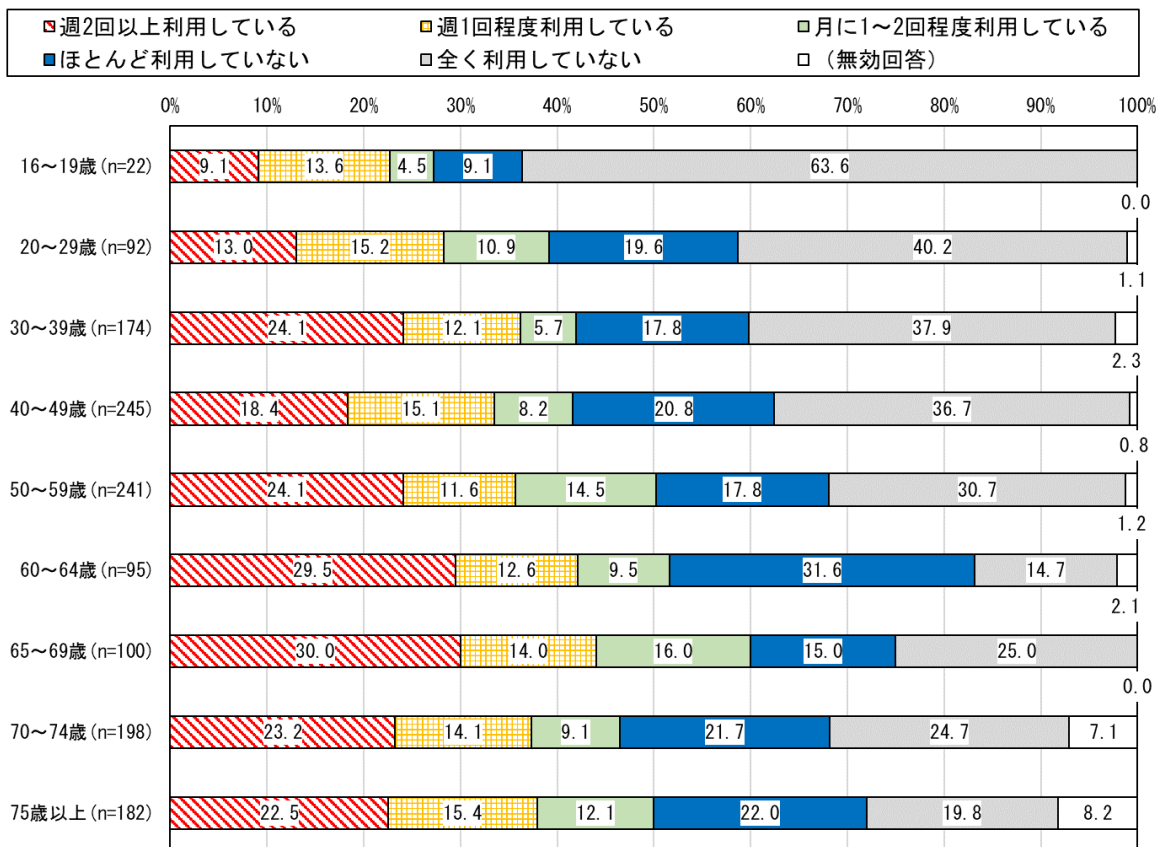
ア 生鮮食品



イ 日用品

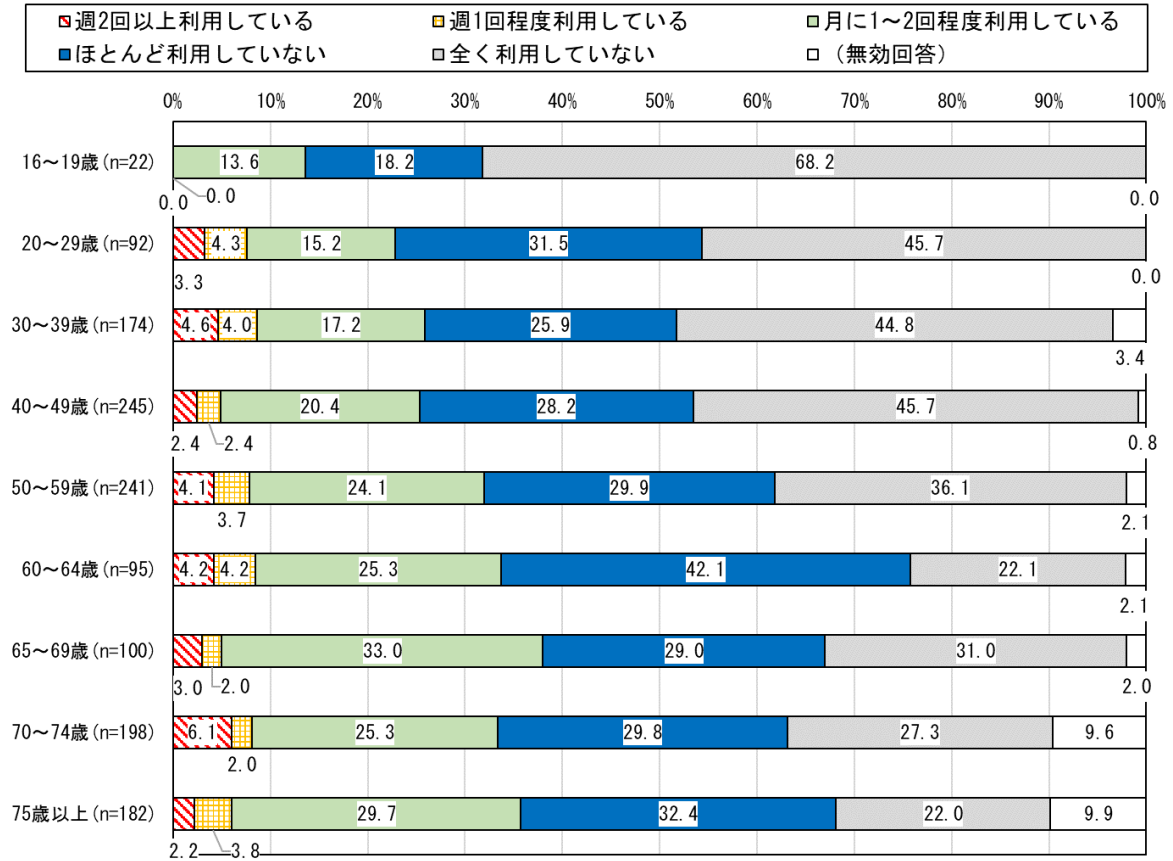


ウ 生鮮食品以外の食料品, 飲料

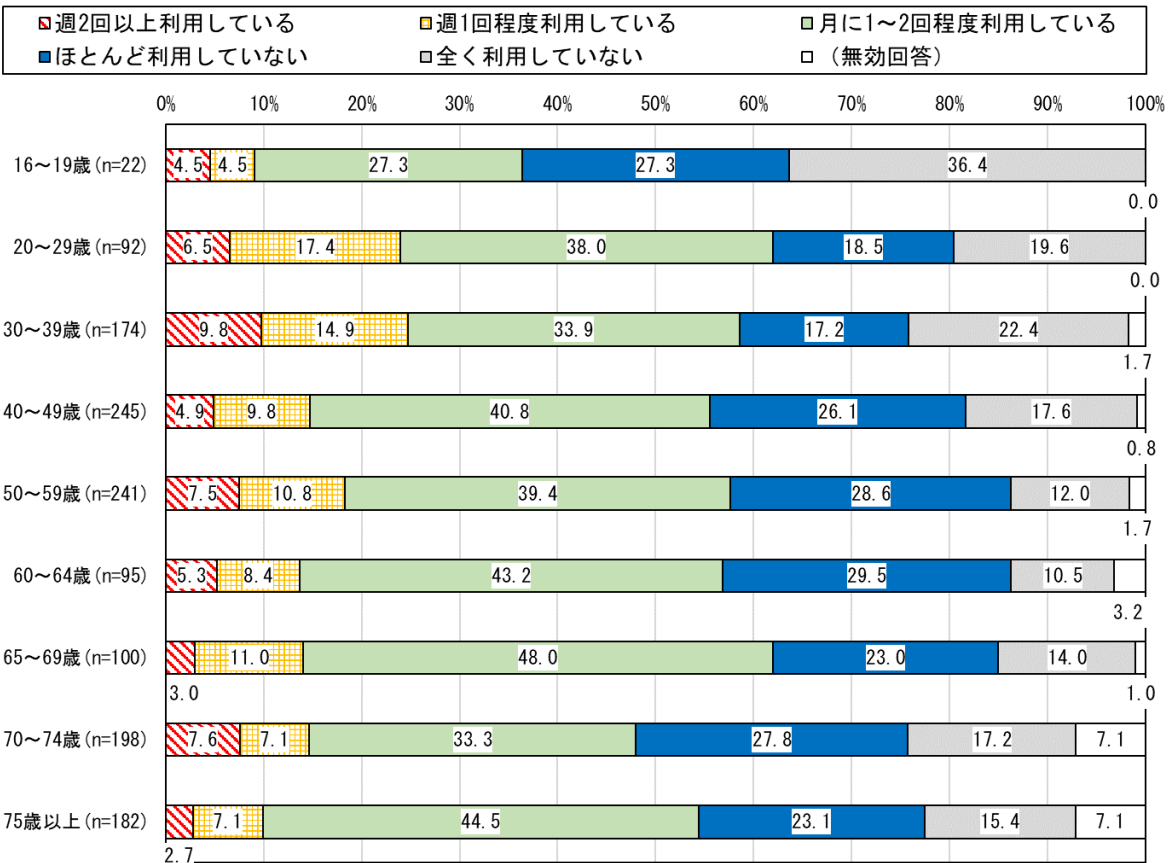


第3章 調査結果<日ごろの意識や行動>

エ 衣料品



オ 飲食（外食）

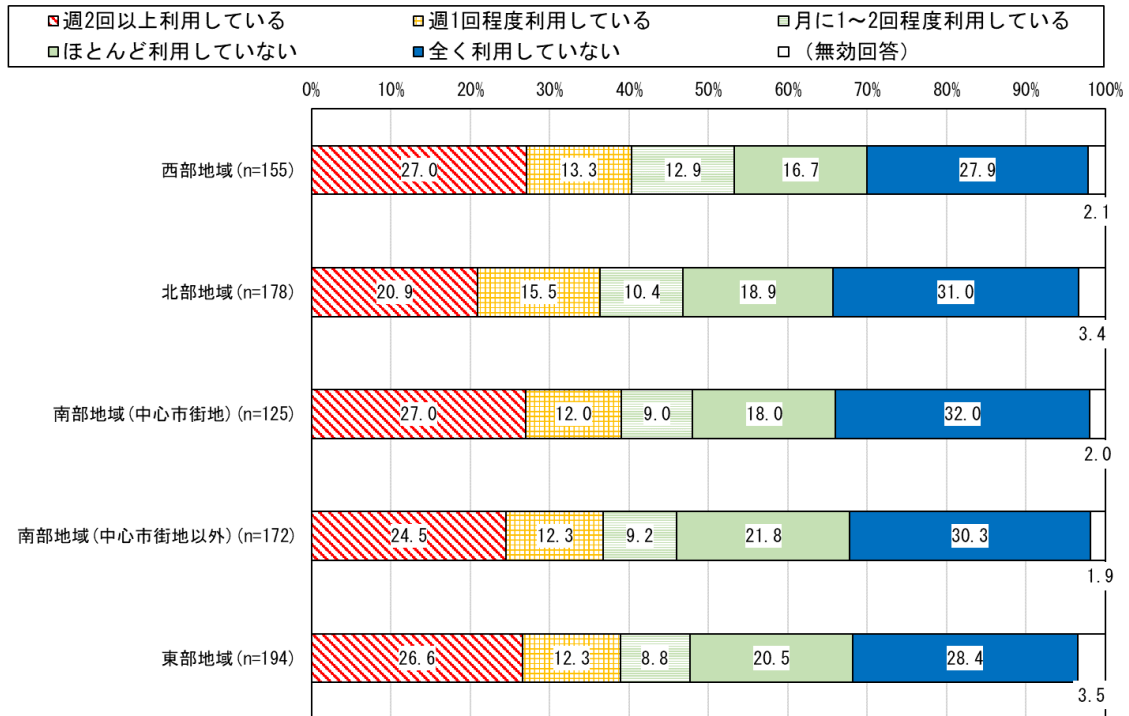


<地域別>

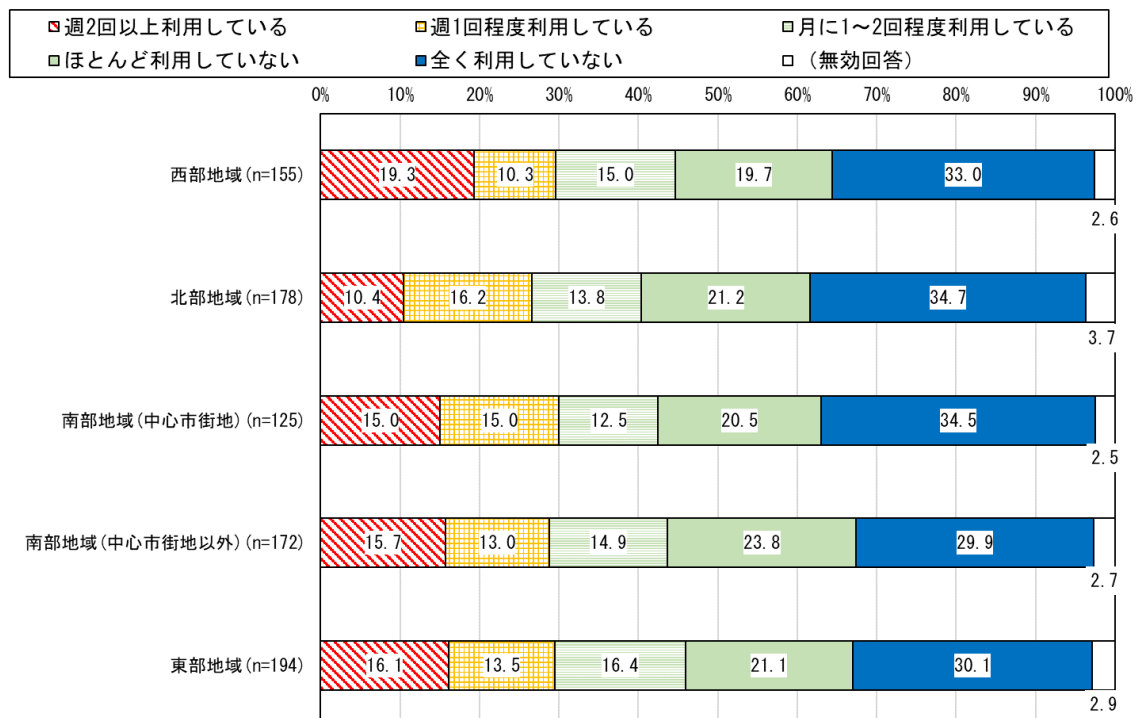
○飲食（外食）を除き、いずれの品目でも、「週2回以上利用している」、「週1回程度利用している」、「月に1～2回程度利用している」の合計値に地域間で大きな差はありません。

○飲食（外食）について、南部地域（中心市街地）は他の地域と比較すると、利用している割合が高くなっています。

ア 生鮮食品

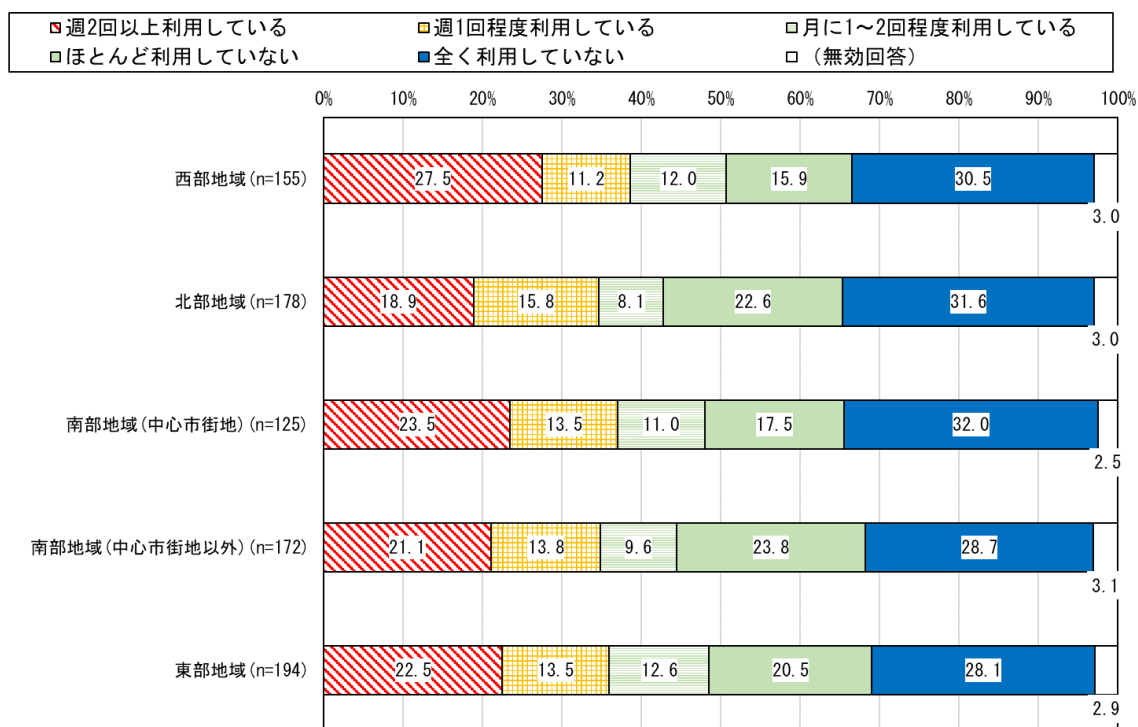


イ 日用品

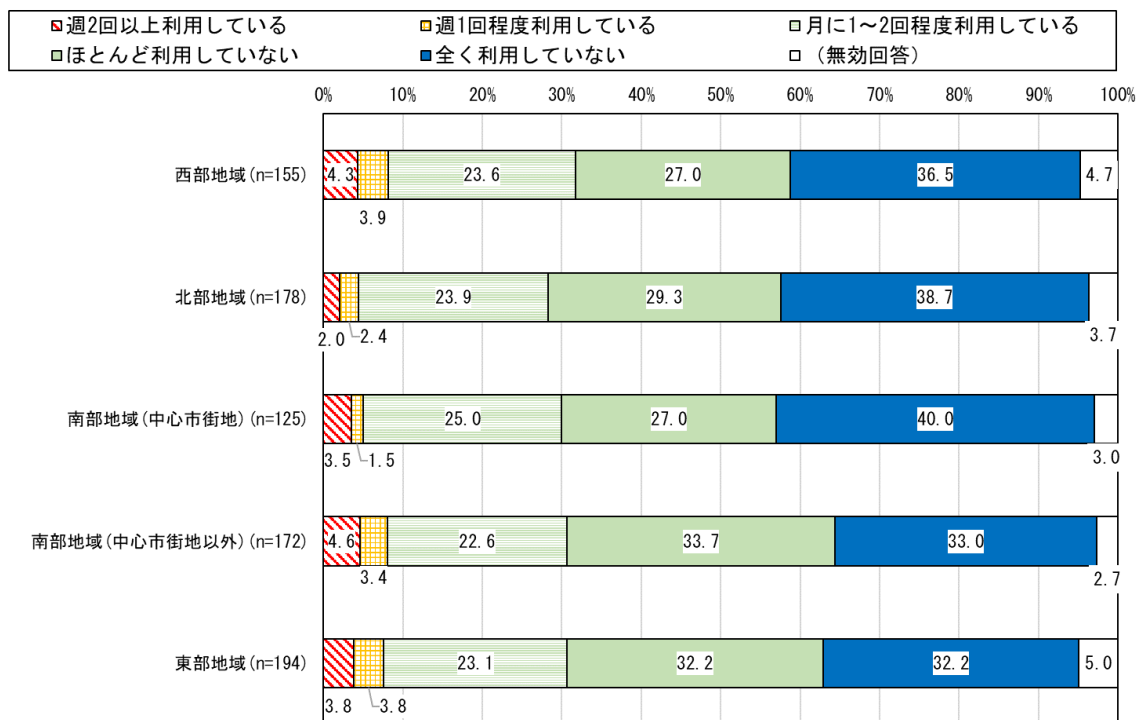


第3章 調査結果<日ごろの意識や行動>

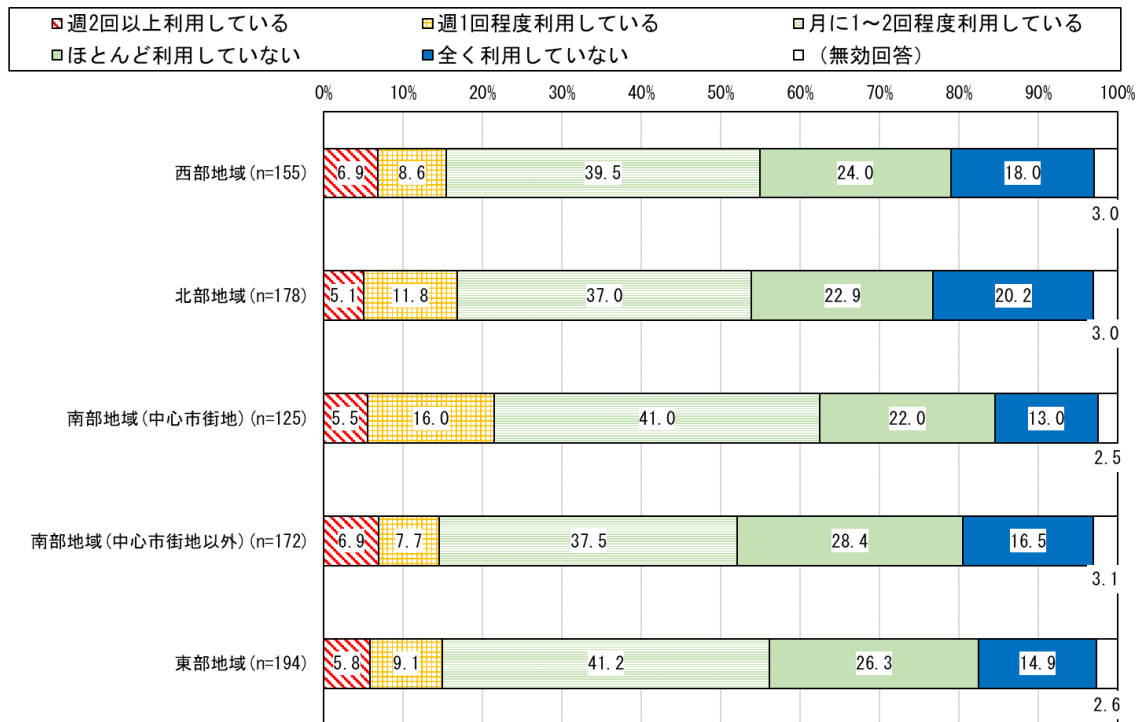
ウ 生鮮食品以外の食料品，飲料



エ 衣料品



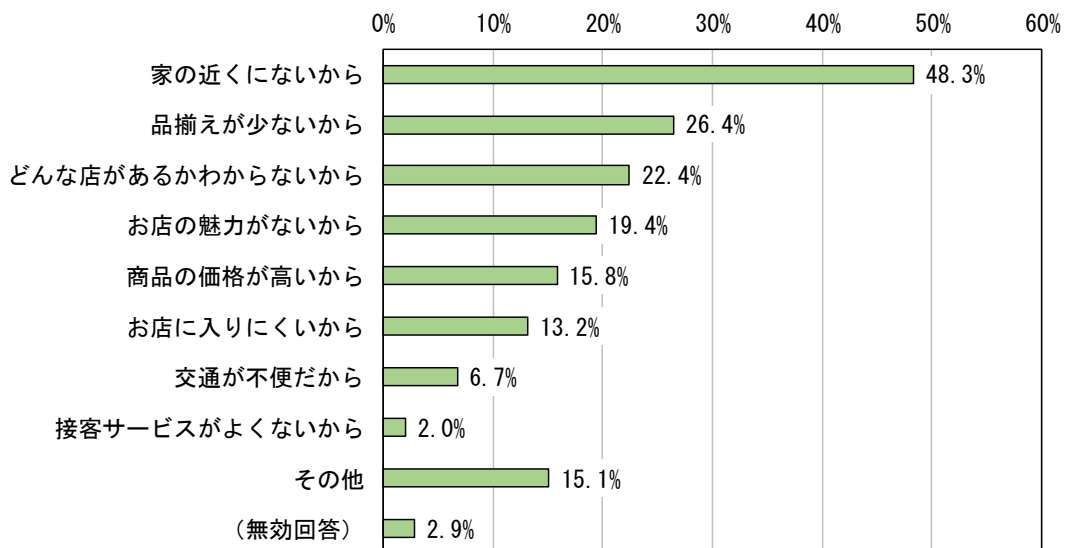
オ 飲食（外食）



問 42-1) 地元の商店街（スーパーマーケットやコンビニ，チェーン店以外の個人商店など）をほとんど利用していない・利用していない理由は何ですか。

<全体 (n=1,367) >

○「家の近くにないから」が48.3%で最も高く，次いで「品揃えが少ないから」の26.4%，「どんな店があるかわからないから」の22.4%の順となっています。



第3章 調査結果<日ごろの意識や行動>

<年齢層別>

○いずれの年齢層も「家の近くにないから」が最も高くなっています。

選択肢	合計	16～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75歳以上
全体	980	20	74	130	193	175	65	66	130	116
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
家の近くにないから	473	10	28	67	88	83	29	36	64	62
	48.3%	50.0%	37.8%	51.5%	45.6%	47.4%	44.6%	54.5%	49.2%	53.4%
品揃えが少ないから	259	1	16	30	50	50	18	17	34	41
	26.4%	5.0%	21.6%	23.1%	25.9%	28.6%	27.7%	25.8%	26.2%	35.3%
どんな店があるかわからないから	220	4	19	38	50	36	16	11	22	22
	22.4%	20.0%	25.7%	29.2%	25.9%	20.6%	24.6%	16.7%	16.9%	19.0%
お店の魅力がないから	190	2	10	22	33	40	15	15	25	28
	19.4%	10.0%	13.5%	16.9%	17.1%	22.9%	23.1%	22.7%	19.2%	24.1%
商品の価格が高いから	155	0	9	29	33	26	14	8	11	23
	15.8%	0.0%	12.2%	22.3%	17.1%	14.9%	21.5%	12.1%	8.5%	19.8%
お店に入りにくいから	129	1	8	26	28	28	2	10	14	11
	13.2%	5.0%	10.8%	20.0%	14.5%	16.0%	3.1%	15.2%	10.8%	9.5%
交通が不便だから	66	1	6	6	14	8	4	6	6	13
	6.7%	5.0%	8.1%	4.6%	7.3%	4.6%	6.2%	9.1%	4.6%	11.2%
接客サービスがよくないから	20	0	0	4	5	0	0	0	5	6
	2.0%	0.0%	0.0%	3.1%	2.6%	0.0%	0.0%	0.0%	3.8%	5.2%
その他	148	5	13	14	29	33	7	3	24	18
	15.1%	25.0%	17.6%	10.8%	15.0%	18.9%	10.8%	4.5%	18.5%	15.5%
(無効回答)	28	2	0	3	3	2	0	6	5	6
	2.9%	10.0%	0.0%	2.3%	1.6%	1.1%	0.0%	9.1%	3.8%	5.2%

(上段：実数(人)，下段：構成比)

回答割合が最も高い：

回答割合が2番目に高い：

<地域別>

○いずれの地域も「家の近くにないから」と「品揃えが少ないから」が主な理由になっています。

選択肢	合計	西部地域	北部地域	南部地域 (中心市街地)	南部地域 (中心市街地以外)	東部地域
全体	980	164	220	144	190	243
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
家の近くにないから	473	82	122	50	108	105
	48.3%	50.0%	55.5%	34.7%	56.8%	43.2%
品揃えが少ないから	259	39	58	53	44	60
	26.4%	23.8%	26.4%	36.8%	23.2%	24.7%
どんな店があるかわからないから	220	38	47	39	34	58
	22.4%	23.2%	21.4%	27.1%	17.9%	23.9%
お店の魅力がないから	190	23	41	41	32	51
	19.4%	14.0%	18.6%	28.5%	16.8%	21.0%
商品の価格が高いから	155	22	30	29	28	42
	15.8%	13.4%	13.6%	20.1%	14.7%	17.3%
お店に入りにくいから	129	20	26	24	22	34
	13.2%	12.2%	11.8%	16.7%	11.6%	14.0%
交通が不便だから	66	3	26	7	15	13
	6.7%	1.8%	11.8%	4.9%	7.9%	5.3%
接客サービスがよくないから	20	3	6	4	1	6
	2.0%	1.8%	2.7%	2.8%	0.5%	2.5%
その他	148	33	30	15	32	35
	15.1%	20.1%	13.6%	10.4%	16.8%	14.4%
(無効回答)	28	4	5	4	6	8
	2.9%	2.4%	2.3%	2.8%	3.2%	3.3%

(上段：実数(人)，下段：構成比)

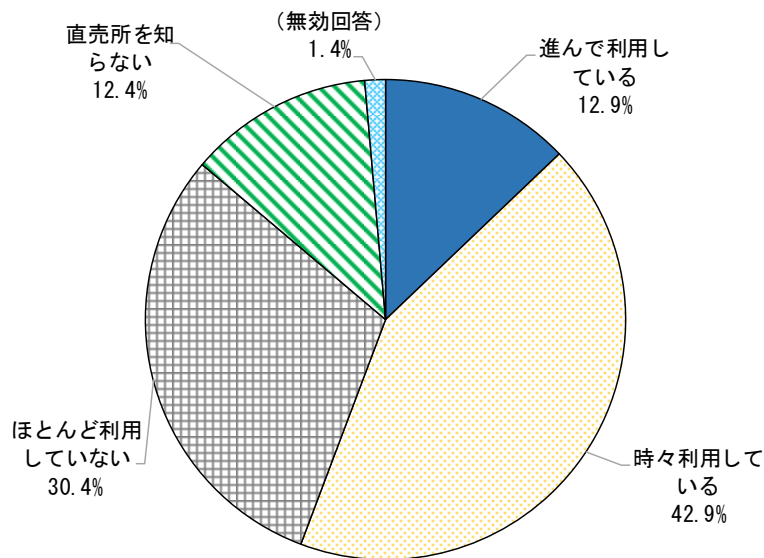
回答割合が最も高い：

回答割合が2番目に高い：

問 43) あなたは、市内農家の農産物直売所（市内スーパーの直売コーナー、農協直売コーナーを含む）を利用していますか。

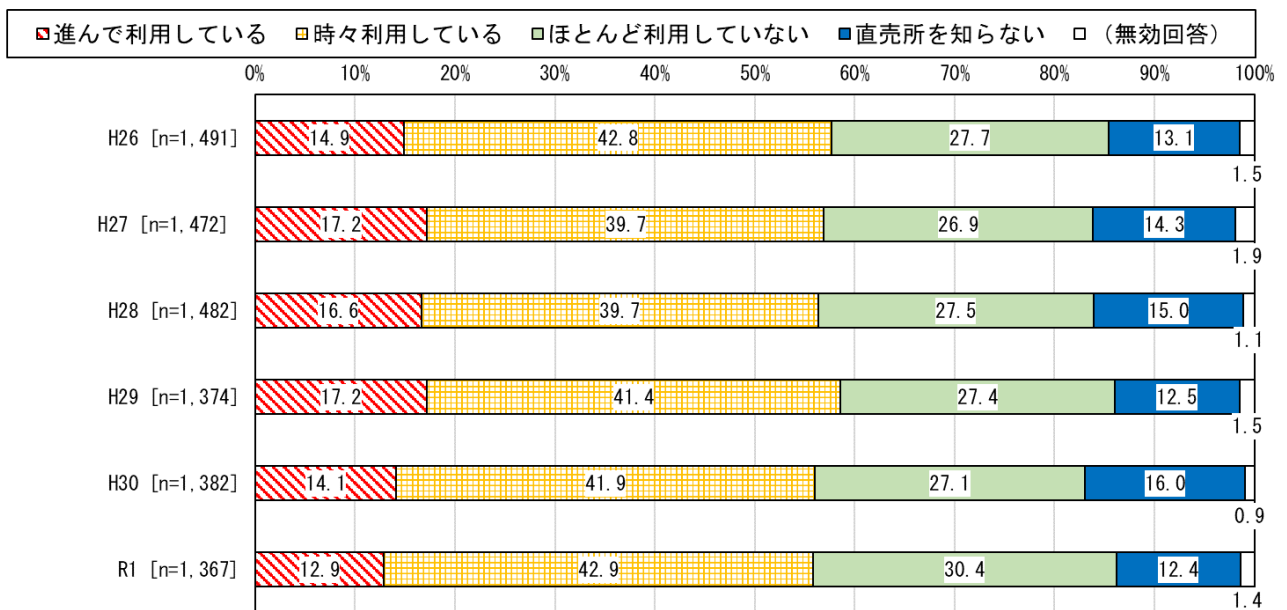
<全体 (n=1,367) >

- 「進んで利用している」は 12.9%、「時々利用している」は 42.9%となっており、合計で 55.8%を占めています。
- 「ほとんど利用していない」が 30.4%、「直売所を知らない」が 12.4%で、合計すると 42.8%となっています。



<経年比較>

- 「進んで利用している」と「時々利用している」の合計は、平成 26 年度以降減少傾向で推移しており、令和元年度では 55.8%で、平成 30 年度の 56.0%に比べて 4.2 ポイント減少しています。
- 「直売所を知らない」は、平成 30 年度に 16.0%に増加しましたが、令和元年度には 12.4%と 3.6 ポイント減少しています。

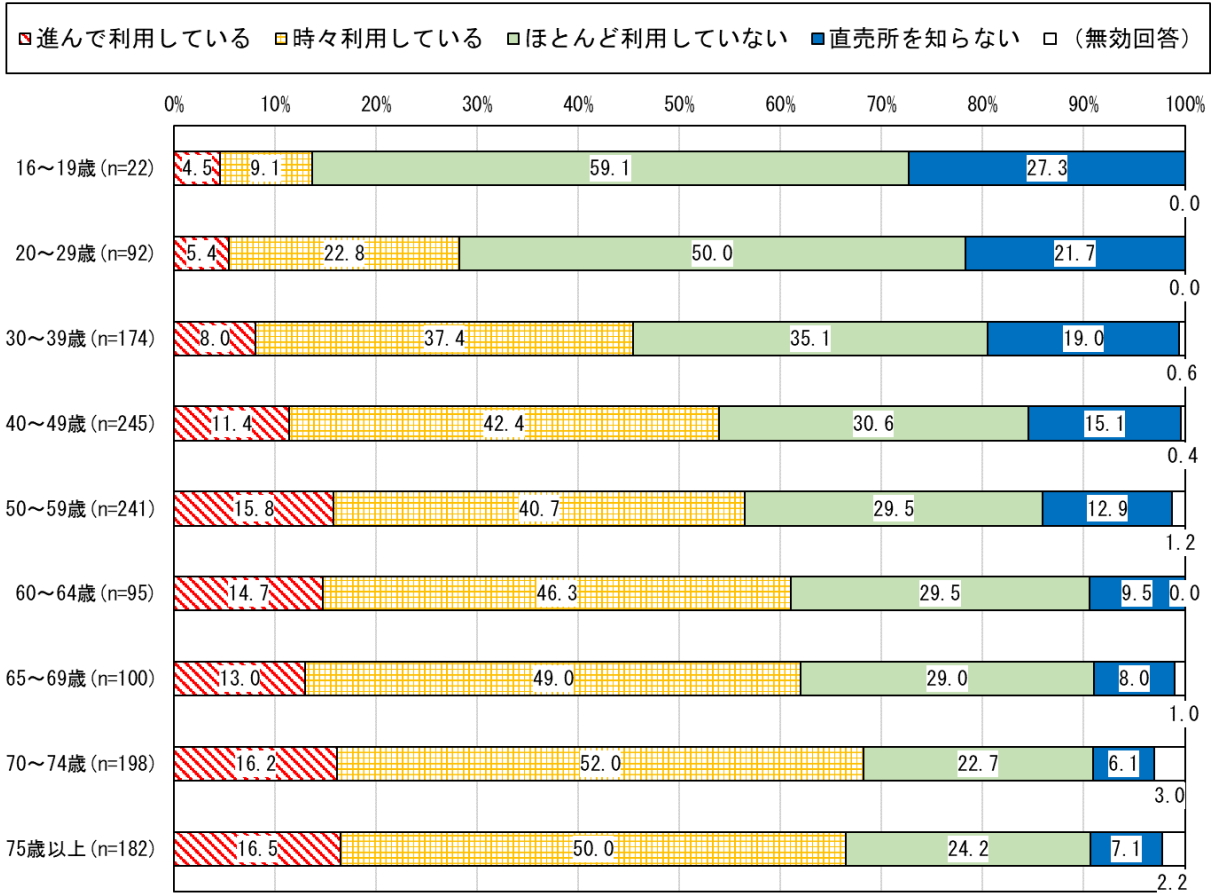


第3章 調査結果<日ごろの意識や行動>

<年齢層別>

○おおむね年齢を重ねるごとに「進んで利用している」と「時々利用している」の合計が高くなっています。

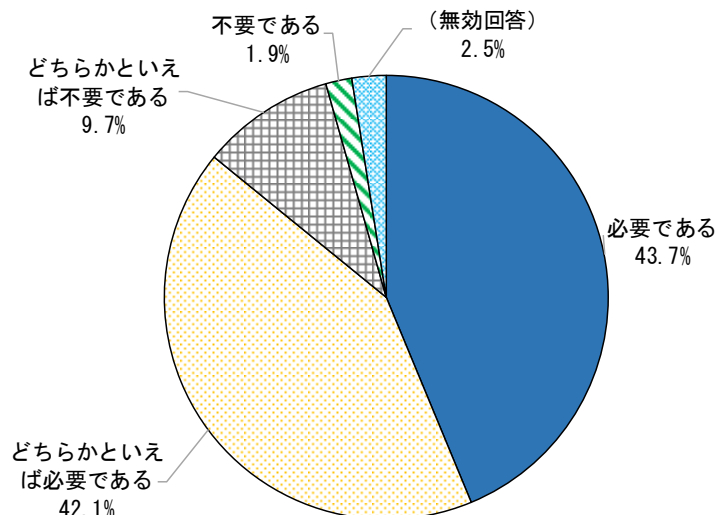
○16～19歳では、「ほとんど利用していない」と「直売所を知らない」の合計が86.4%となっています。



問 44) あなたは、市内に農地が必要だと思いますか。

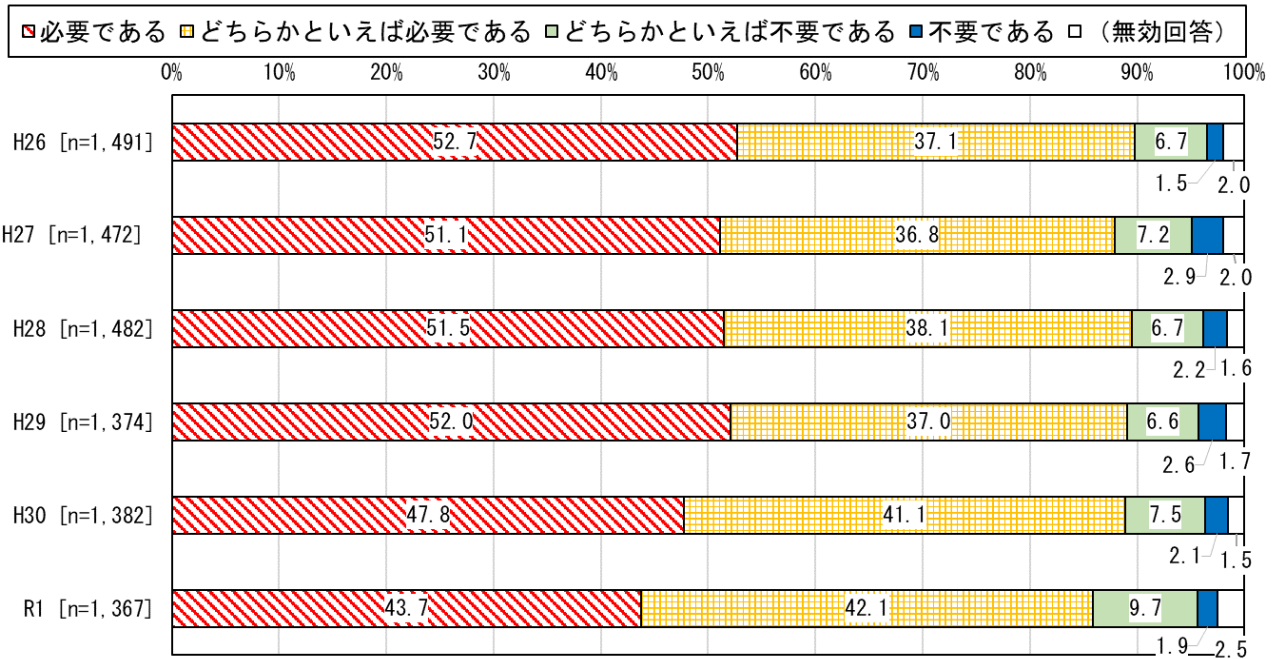
<全体 (n=1,367)>

○市内に農地が「必要である」は43.7%,「どちらかといえば必要である」は42.1%であり、合計で85.8%を占めています。



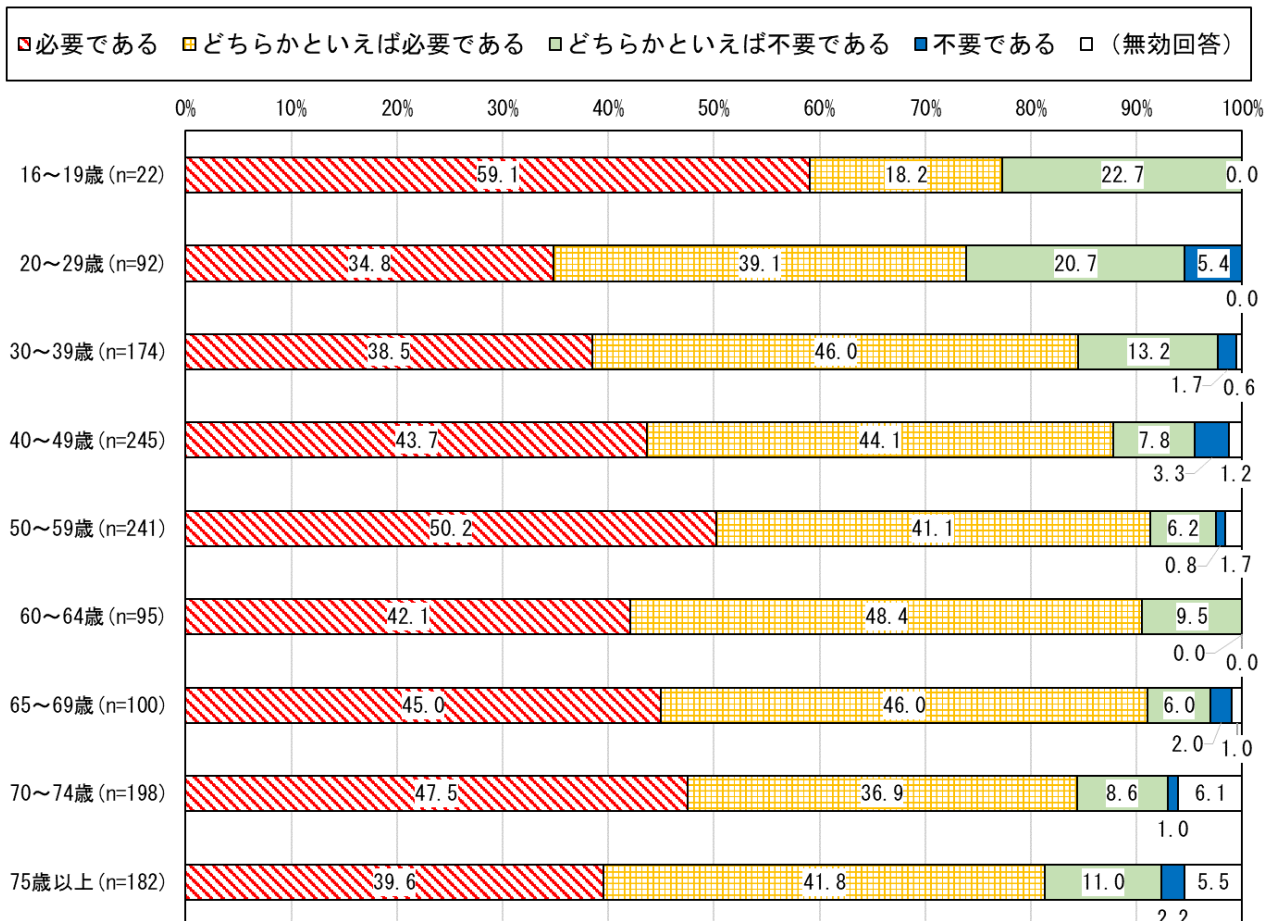
<経年比較>

○平成26年度以降、「必要である」と「どちらかといえば必要である」の合計は、一貫して80%台で推移しています。



<年齢層別>

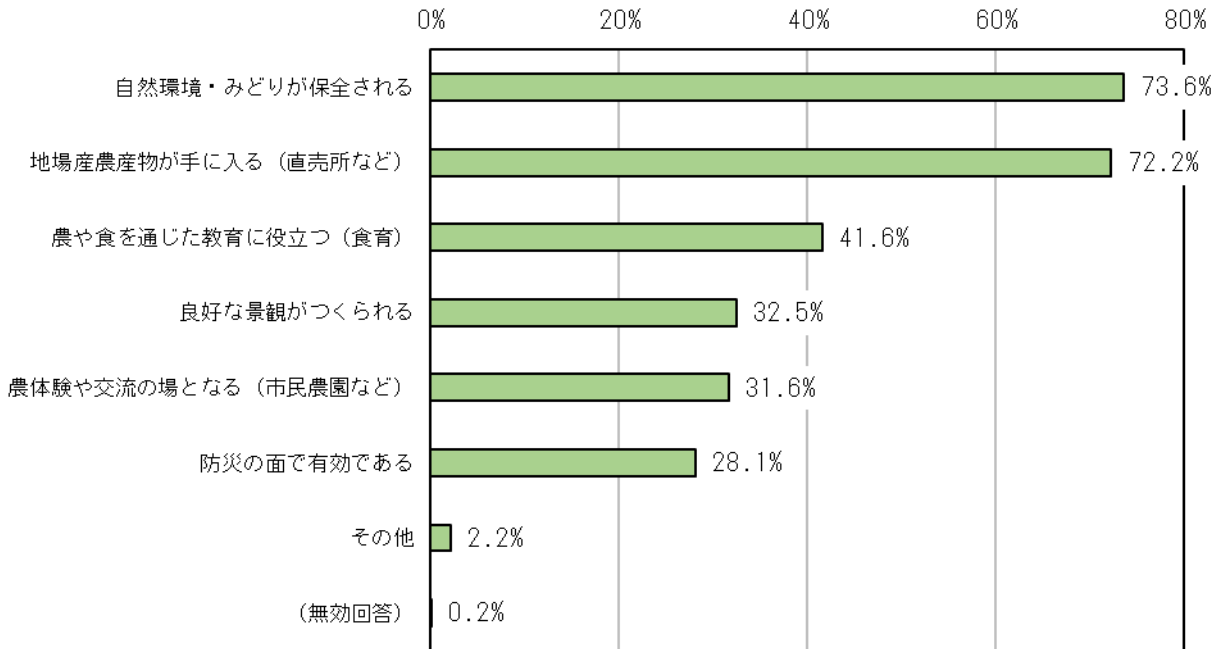
○29歳以下を除いていずれの年齢層でも「必要である」と「どちらかといえば必要である」の合計は、80%台となっています。



問 44-1) 市内に農地が必要だと思う理由は何ですか。

<全体 (n=1,367)>

○「自然環境・みどりが保全される」が73.6%で最も高く、次いで「地場産農産物が手に入る（直売所など）」の72.2%の順となっています。



<年齢層別>

○いずれの年齢層も、「自然環境・みどりが保全される」または「地場産農産物が手に入る（直売所など）」が高くなっています。また、20～29歳では「農や食を通じた教育に役立つ（食育）」が2番目に高くなっています。

選択肢	合計	16～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75歳以上
全体	1,174	17	68	147	215	220	86	91	167	148
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
自然環境・みどりが保全される	864	13	48	93	166	167	68	68	121	114
	73.6%	76.5%	70.6%	63.3%	77.2%	75.9%	79.1%	74.7%	72.5%	77.0%
地場産農産物が手に入る（直売所など）	848	10	33	100	154	165	61	68	133	114
	72.2%	58.8%	48.5%	68.0%	71.6%	75.0%	70.9%	74.7%	79.6%	77.0%
農や食を通じた教育に役立つ（食育）	488	3	39	84	113	97	24	30	47	45
	41.6%	17.6%	57.4%	57.1%	52.6%	44.1%	27.9%	33.0%	28.1%	30.4%
良好な景観がつけられる	381	7	24	41	64	79	29	26	59	51
	32.5%	41.2%	35.3%	27.9%	29.8%	35.9%	33.7%	28.6%	35.3%	34.5%
農体験や交流の場となる（市民農園など）	371	4	26	64	87	77	20	21	41	29
	31.6%	23.5%	38.2%	43.5%	40.5%	35.0%	23.3%	23.1%	24.6%	19.6%
防災の面で有効である	330	3	22	25	45	69	25	25	63	50
	28.1%	17.6%	32.4%	17.0%	20.9%	31.4%	29.1%	27.5%	37.7%	33.8%
その他	26	1	0	3	4	6	3	2	5	2
	2.2%	5.9%	0.0%	2.0%	1.9%	2.7%	3.5%	2.2%	3.0%	1.4%
（無効回答）	2	0	0	1	0	0	0	0	1	0
	0.2%	0.0%	0.0%	0.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.6%	0.0%

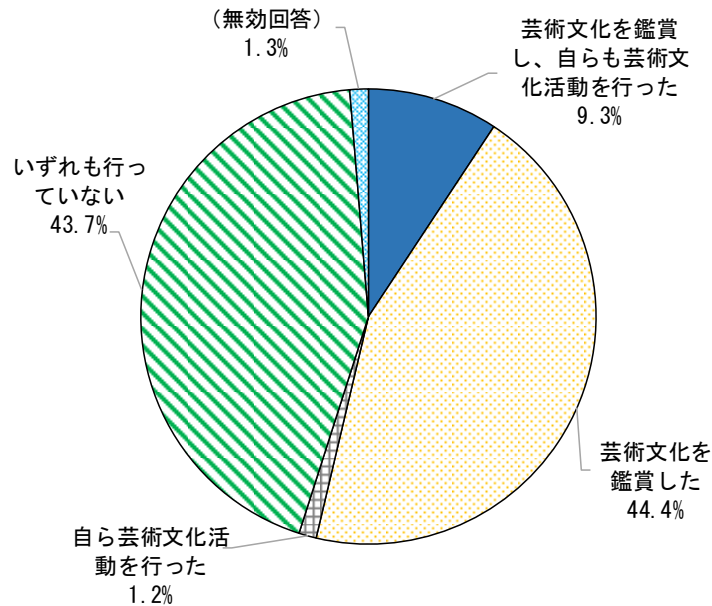
（上段：実数（人）、下段：構成比）
 回答割合が最も高い： 回答割合が2番目に高い：

【芸術・歴史文化について】

問 45) あなたは、おおむね 1 年の間に、市内・市外を問わず、芸術文化（音楽、演劇、美術、舞踊等伝統芸能、映画など）の鑑賞や、自ら芸術文化活動を行いましたか。

<全体 (n=1,367) >

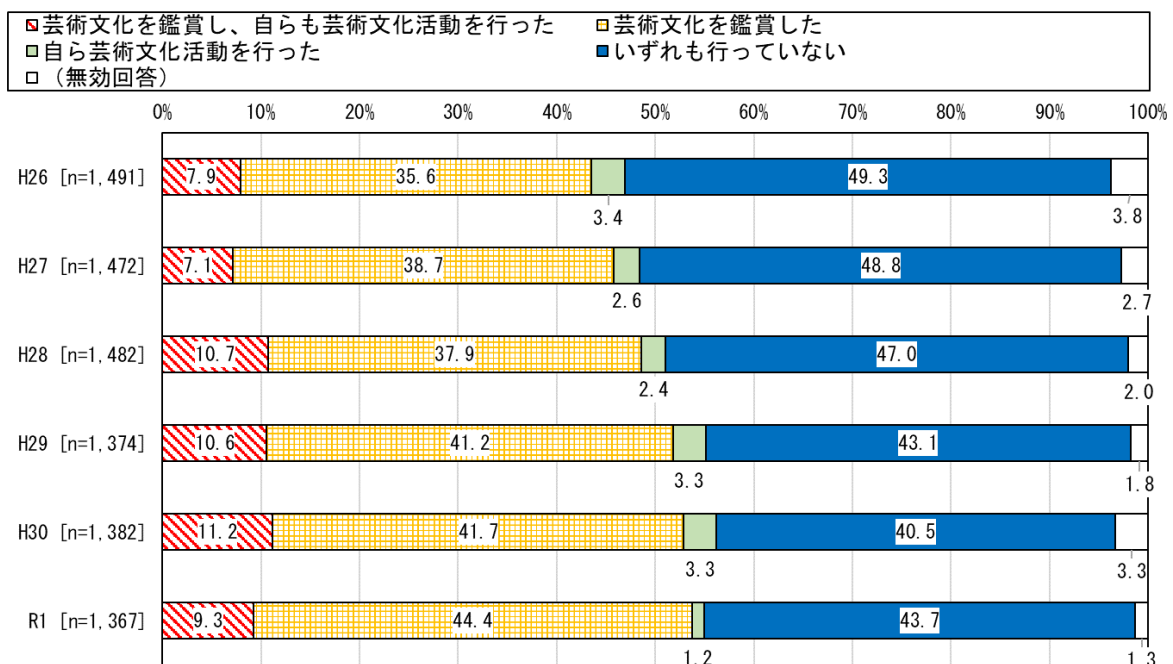
○「芸術文化を鑑賞し、自らも芸術文化活動を行った」が 9.3%、「芸術文化を鑑賞した」が 44.4%、「自ら芸術文化活動を行った」が 1.2%で、これらの合計が 54.9%となっています。



<経年比較>

○「芸術文化を鑑賞し、自らも芸術文化活動を行った」、「芸術文化を鑑賞した」、「自ら芸術文化活動を行った」の合計は、平成 27 年度以降増加傾向にあり、令和元年度は平成 26 年度の 46.9%と 8 ポイント増加しています。

○一方、「いずれも行っていない」は、平成 27 年度以降おおむね減少傾向にありましたが、令和元年度は平成 30 年度の 40.5%と比べて 3.2 ポイント増加しています。

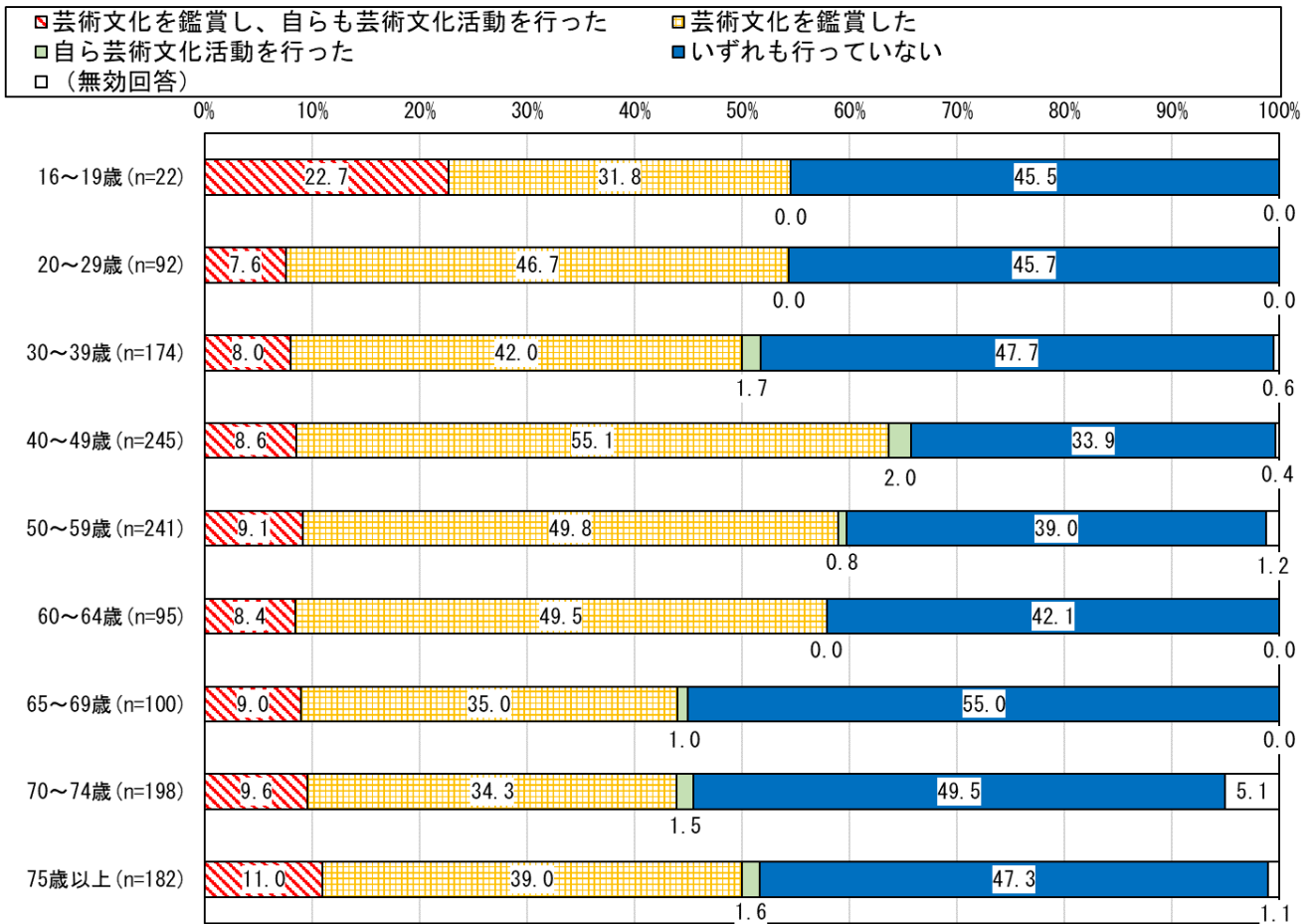


第3章 調査結果<日ごろの意識や行動>

<年齢層別>

○65～69歳及び70～74歳を除き、いずれの年齢層でも「芸術文化を鑑賞した」、「自ら芸術文化活動を行った」、「芸術文化を鑑賞し、自らも芸術文化活動を行った」の合計が50%以上となっています。

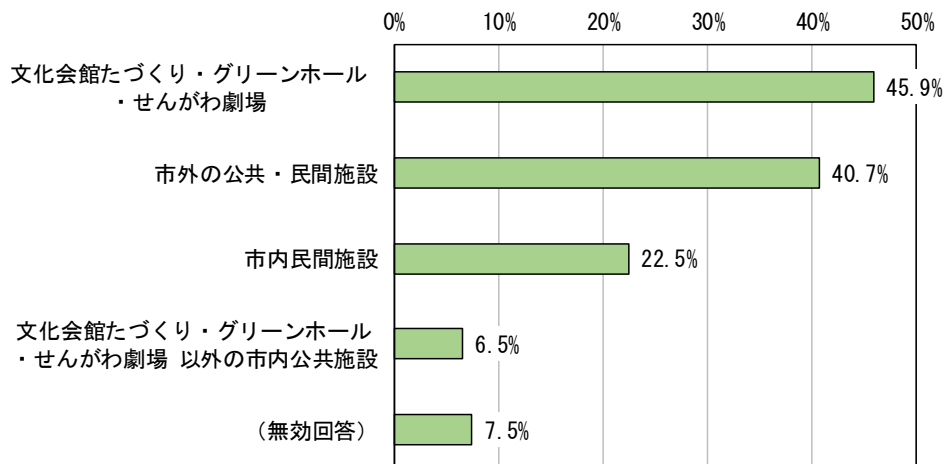
○特に40～49歳では、「芸術文化を鑑賞した」、「自ら芸術文化活動を行った」、「芸術文化を鑑賞し、自らも芸術文化活動を行った」の合計が63.7%で、他の年齢層に比べ高くなっています。



問 45-1) 芸術文化を鑑賞した、または芸術文化活動を行った場所はどこですか。

<全体 (n=751) >

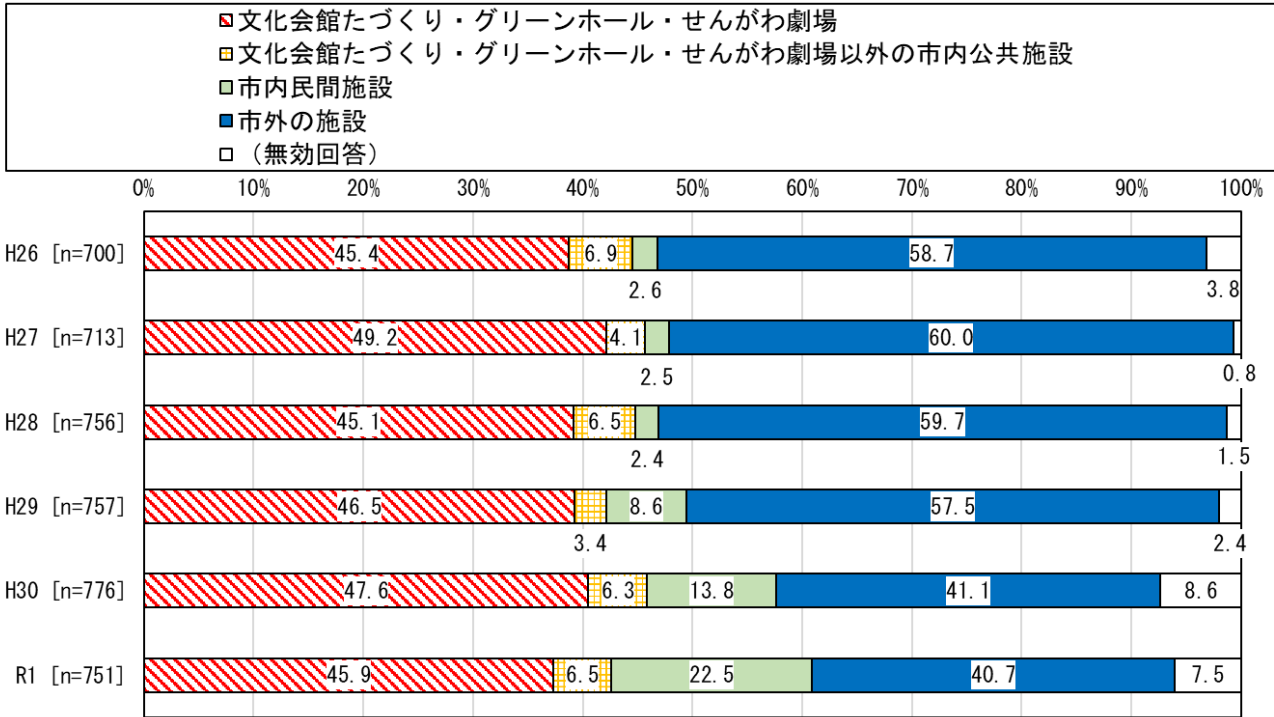
○「文化会館たづくり・グリーンホール・せんがわ劇場」が45.9%で最も高く、次いで「市外の公共・民間施設」の40.7%の順となっています。



<経年比較>

○市内の施設（文化会館たづくり・グリーンホール・せんがわ劇場及びそれ以外の市内公共施設、市内民間施設）は、平成26年度の54.9%から令和元年度の74.9%と20ポイント増加しており、その内訳をみると、「市内民間施設」が2.6%から22.5%に大きく増加しているのが目立ちます。

○一方、「市外の施設」は、平成28年度以降、減少傾向で推移しており、平成30年度及び令和元年度は40%台に低下しています。



<年齢層別>

○40歳以上では、「文化会館たづくり・グリーンホール・せんがわ劇場」、「市外の公共・民間施設」が高くなっています。

選択肢	合計	16~19歳	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~64歳	65~69歳	70~74歳	75歳以上
全体	751	12	50	90	161	144	55	45	90	94
文化会館たづくり・グリーンホール・せんがわ劇場	345	2	8	21	69	57	19	31	63	70
市外の公共・民間施設	306	6	26	34	66	73	22	19	25	27
市内民間施設	169	1	12	30	51	38	12	5	13	7
文化会館たづくり・グリーンホール・せんがわ劇場 以外の市内公共施設	49	3	3	9	9	9	2	4	5	5
(無効回答)	56	1	8	9	10	8	7	1	5	6

(上段：実数(人)，下段：構成比)

回答割合が最も高い：

回答割合が2番目に高い：

【主な市外の施設（主な回答）】

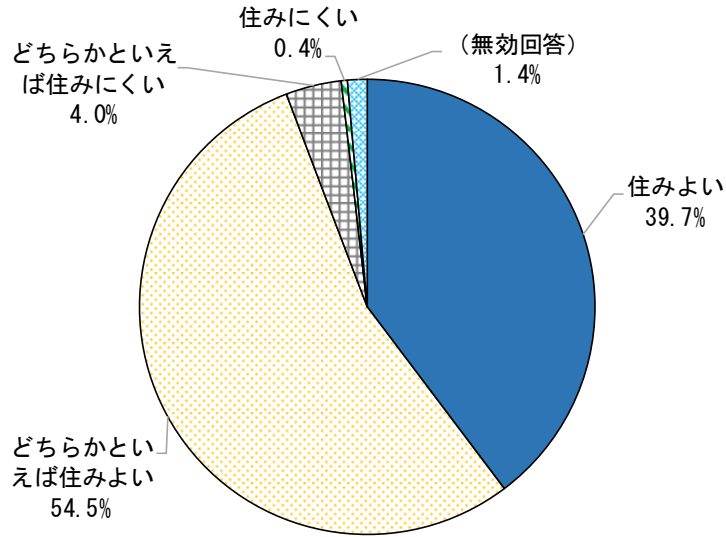
TOHOシネマズ府中（府中市）	国立西洋美術館（台東区）
東京オペラシティ（新宿区）	新国立劇場（渋谷区）
サントリーホール（港区）	府中の森芸術劇場（府中市）

【良好な市街地について】

問 46) あなたは、調布市を住みよいまちだと思えますか。

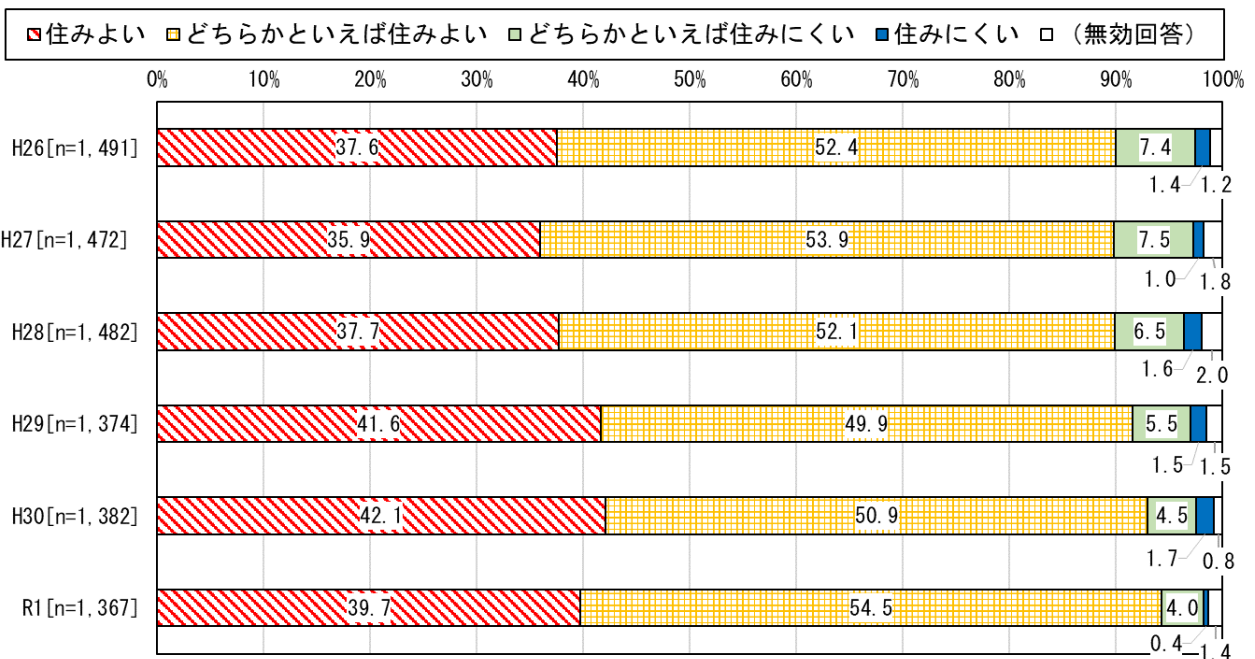
<全体 (n=1,367) >

○「住みよい」は 39.7%, 「どちらかといえば住みよい」は 54.5%であり、合計で 94.2%を占めています。



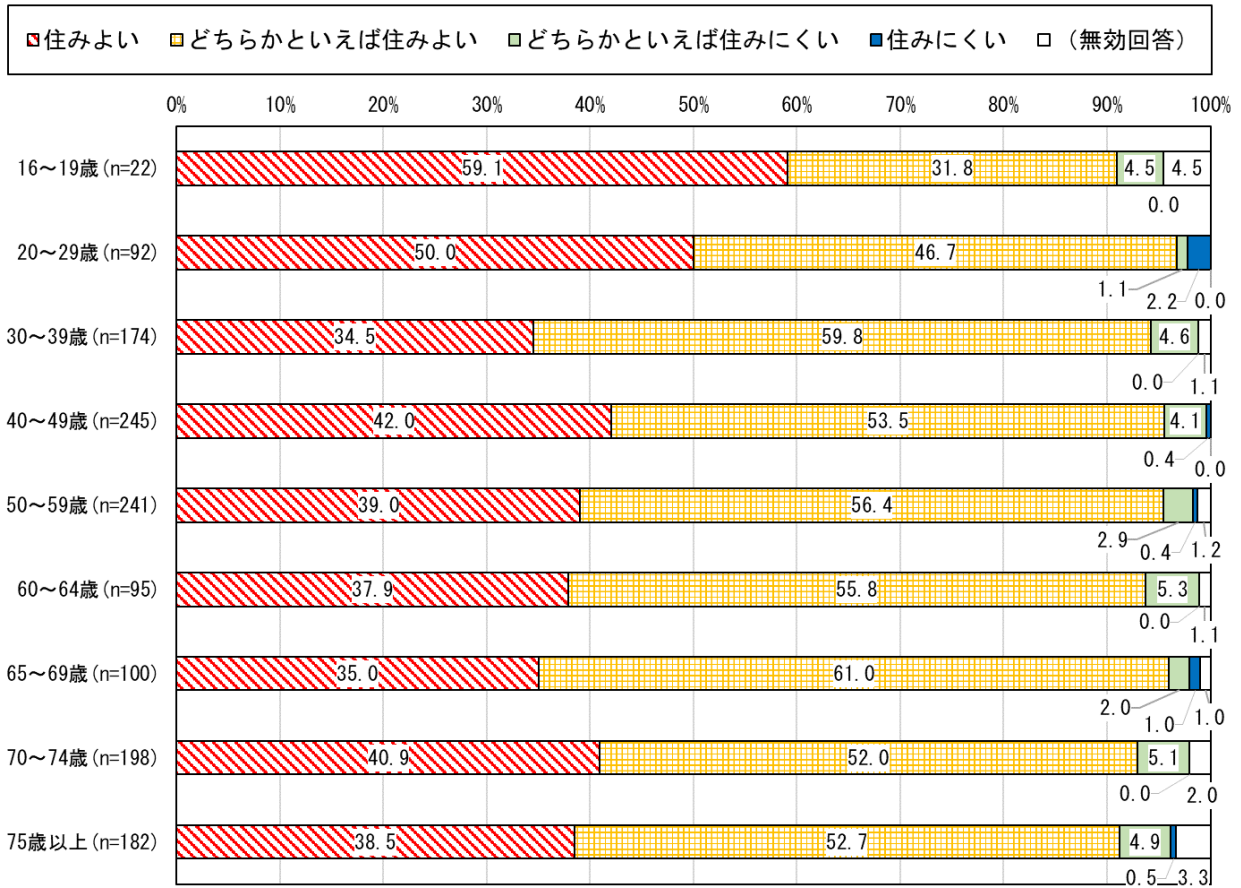
<経年比較>

○「住みよい」と「どちらかといえば住みよい」の合計は、平成 26 年度以降、いずれもおおむね 90%台で推移しています。



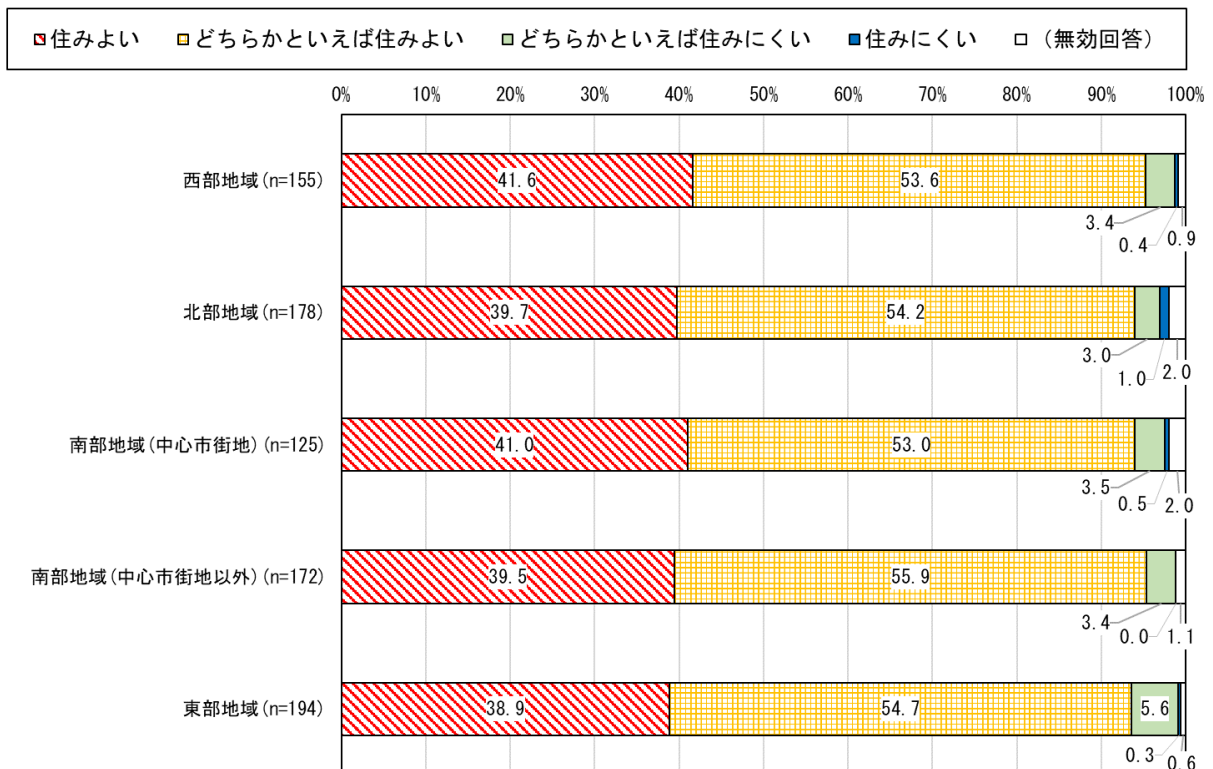
<年齢層別>

○いずれの年齢層も、「住みよい」と「どちらかといえば住みよい」の合計は90%台となっています。



<地域別>

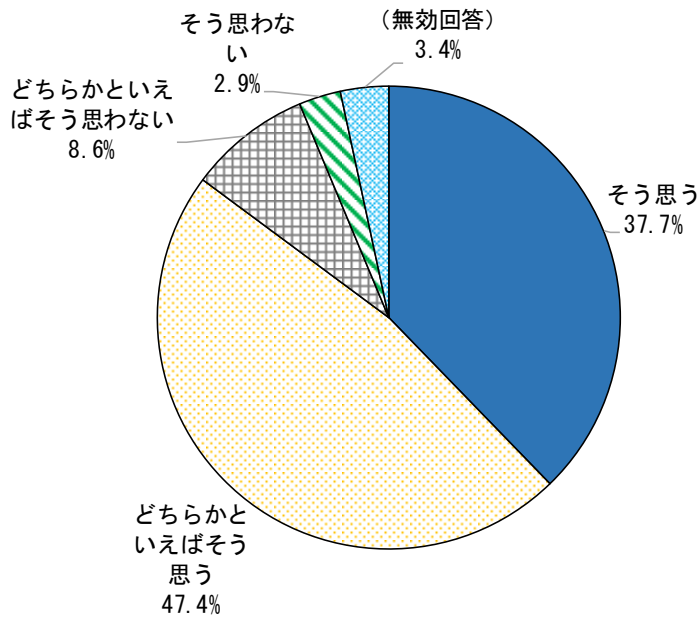
○いずれの地域も、「住みよい」と「どちらかといえば住みよい」の合計が90%台となっています。



問 47) あなたは、調布市内に優れた景観の場所があると思いますか。

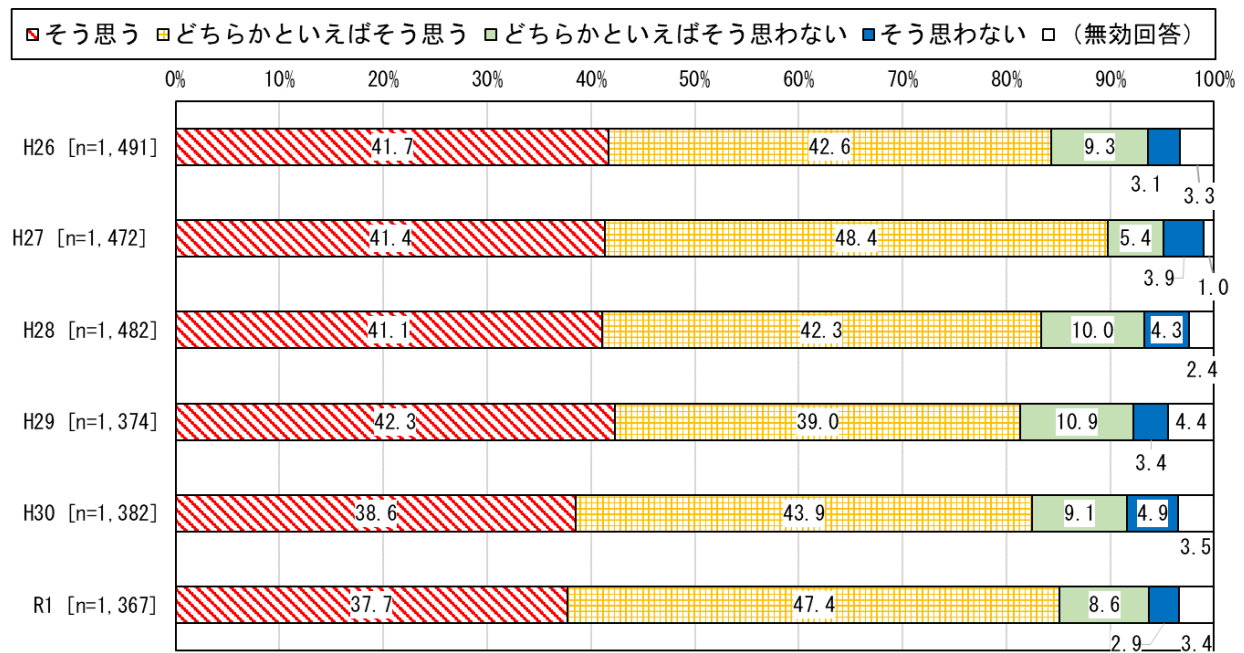
<全体 (n=1,367) >

○「そう思う」は 37.7%, 「どちらかといえばそう思う」は 47.4%であり、合計で 85.1%を占めています。



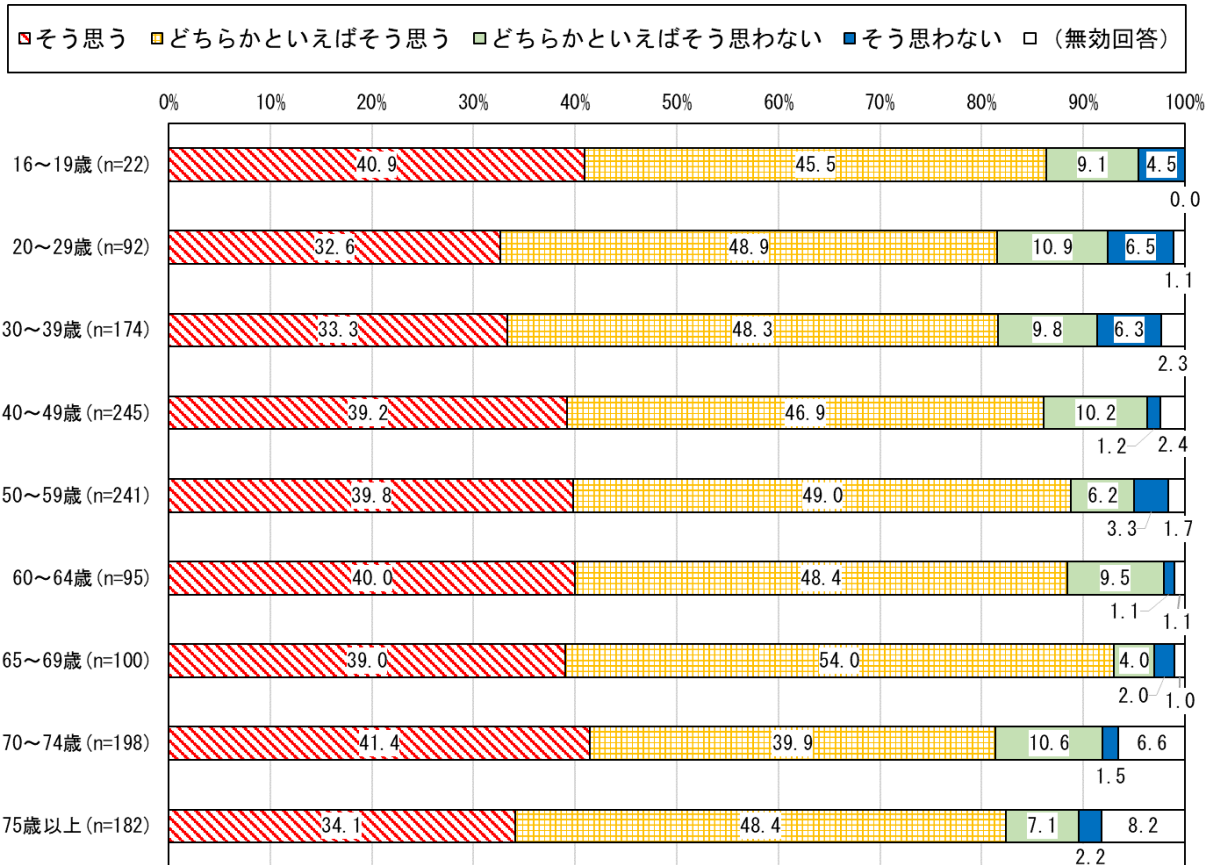
<経年比較>

○「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計は、平成 27 年度以降おおむね減少傾向にありましたが、令和元年度は平成 30 年度と比べ 2.6 ポイント増加しています。



<年齢層別>

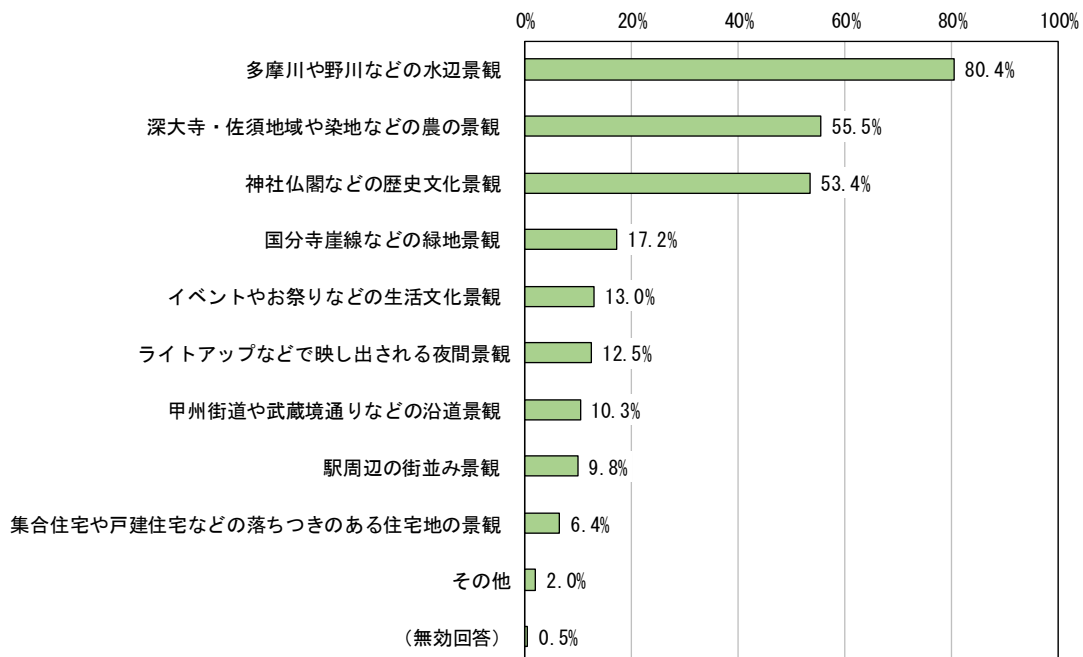
○いずれの年齢層でも、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計が80%以上を占めています。



問 47-1) 優れた景観だと思う場所はどこですか。

<全体 (n=1,164)>

○「多摩川や野川などの水辺景観」が80.4%で最も高く、次いで「深大寺・佐須地域や染地などの農の景観」の55.5%、「神社仏閣などの歴史文化景観」の53.4%の順となっています。



第3章 調査結果<日ごろの意識や行動>

<年齢層別>

○20～29歳では、「深大寺・佐須地域や染地などの農の景観」、その他の年齢層では、「多摩川や野川などの水辺景観」が最も高くなっています。

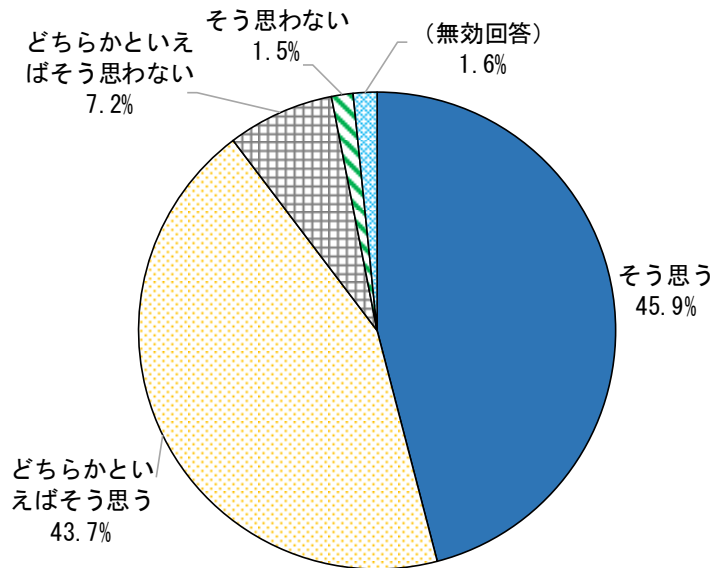
選択肢	合計	16～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75歳以上
全体	1,164	19	75	142	211	214	84	93	161	150
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
多摩川や野川などの水辺景観	936	12	45	101	169	180	72	79	139	129
	80.4%	63.2%	60.0%	71.1%	80.1%	84.1%	85.7%	84.9%	86.3%	86.0%
深大寺・佐須地域や染地などの農の景観	646	9	48	85	112	102	50	51	94	87
	55.5%	47.4%	64.0%	59.9%	53.1%	47.7%	59.5%	54.8%	58.4%	58.0%
神社仏閣などの歴史文化景観	622	9	29	60	110	128	46	51	97	85
	53.4%	47.4%	38.7%	42.3%	52.1%	59.8%	54.8%	54.8%	60.2%	56.7%
国分寺崖線などの緑地景観	200	0	7	12	33	28	16	20	43	38
	17.2%	0.0%	9.3%	8.5%	15.6%	13.1%	19.0%	21.5%	26.7%	25.3%
イベントやお祭りなどの生活文化景観	151	3	13	22	25	32	4	9	23	19
	13.0%	15.8%	17.3%	15.5%	11.8%	15.0%	4.8%	9.7%	14.3%	12.7%
ライトアップなどで映し出される夜間景観	145	1	10	10	21	25	10	14	30	23
	12.5%	5.3%	13.3%	7.0%	10.0%	11.7%	11.9%	15.1%	18.6%	15.3%
甲州街道や武蔵境通りなどの沿道景観	120	1	5	12	15	22	12	11	18	24
	10.3%	5.3%	6.7%	8.5%	7.1%	10.3%	14.3%	11.8%	11.2%	16.0%
駅周辺の街並み景観	114	2	11	19	21	17	4	4	12	23
	9.8%	10.5%	14.7%	13.4%	10.0%	7.9%	4.8%	4.3%	7.5%	15.3%
集合住宅や戸建住宅などの落ちつきのある住宅地の景観	75	1	6	10	14	16	3	3	9	13
	6.4%	5.3%	8.0%	7.0%	6.6%	7.5%	3.6%	3.2%	5.6%	8.7%
その他	23	2	1	4	4	3	1	1	3	3
	2.0%	10.5%	1.3%	2.8%	1.9%	1.4%	1.2%	1.1%	1.9%	2.0%
(無効回答)	6	1	0	0	1	0	0	0	1	2
	0.5%	5.3%	0.0%	0.0%	0.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.6%	1.3%

(上段：実数(人)，下段：構成比)
 回答割合が最も高い：
 回答割合が2番目に高い：

問48) あなたは、深大寺周辺の景観が優れていると思いますか。

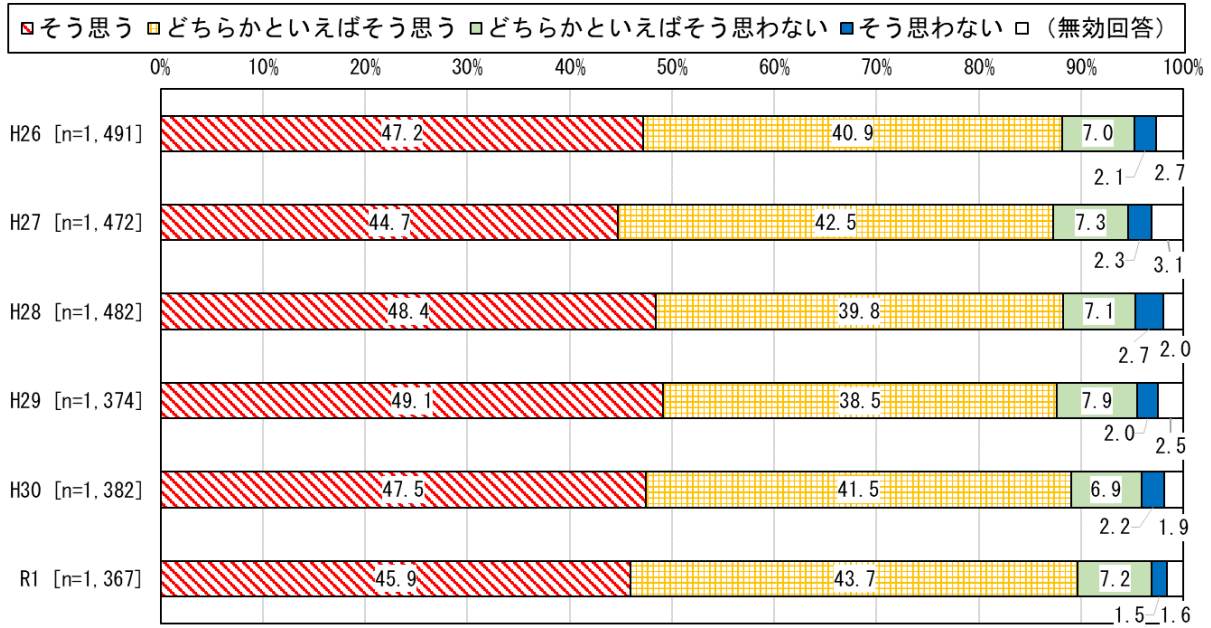
<全体 (n=1,367) >

○「そう思う」は45.9%、「どちらかといえばそう思う」は43.7%であり、合計で89.6%を占めています。



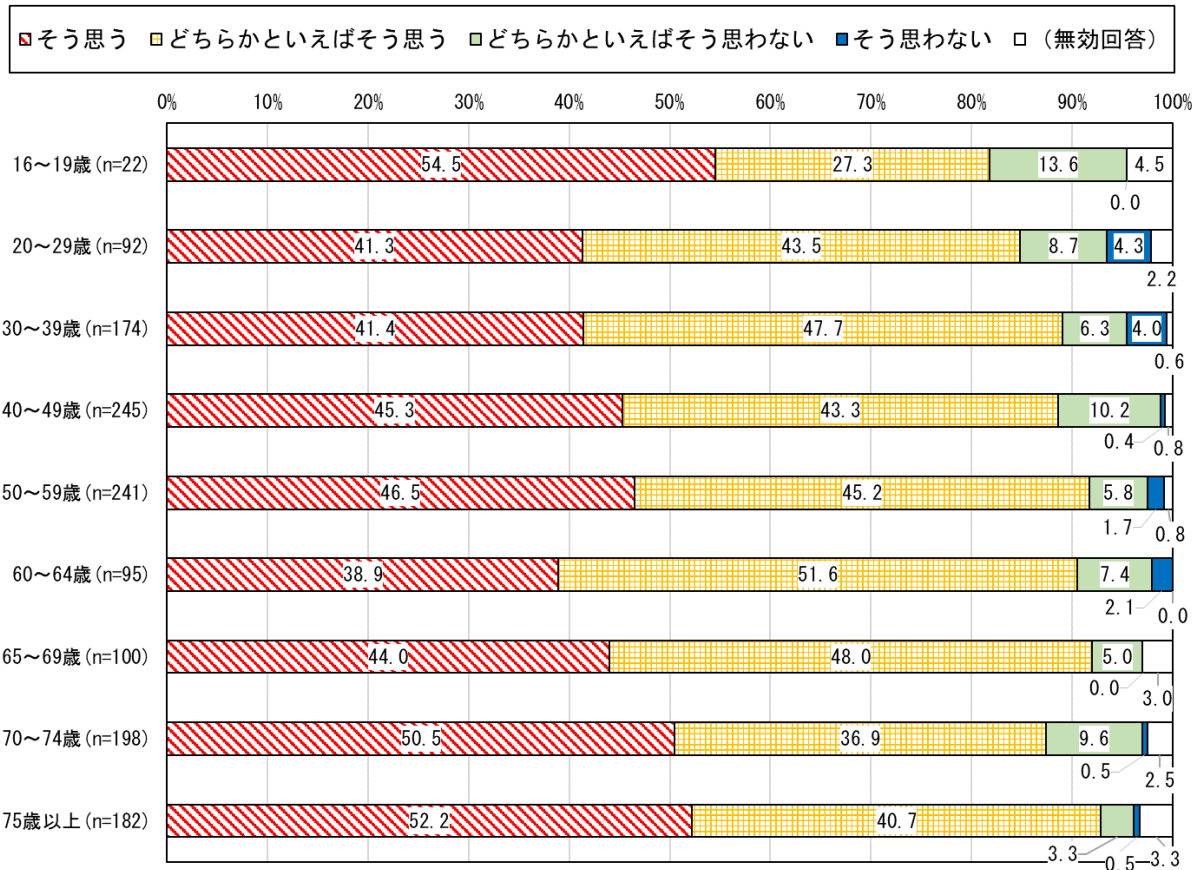
<経年比較>

○「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計は、平成26年度以降、一貫して80%台で推移しています。



<年齢階層別>

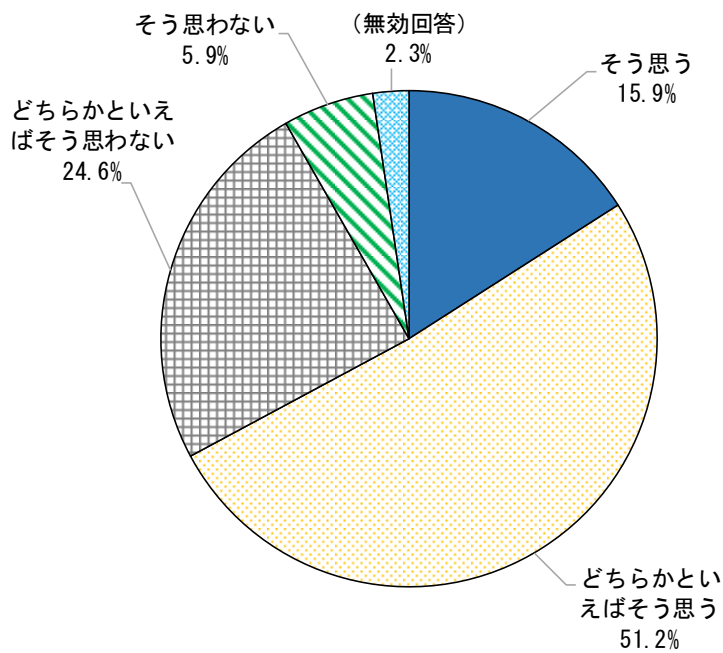
○65～69歳が、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計が92.0%と最も高く、次いで50～59歳の91.7%、60～64歳の90.5%となっています。



問 49) あなたは、中心市街地（調布・布田・国領駅周辺）が魅力的な街であると思いますか。

<全体 (n=1,367)>

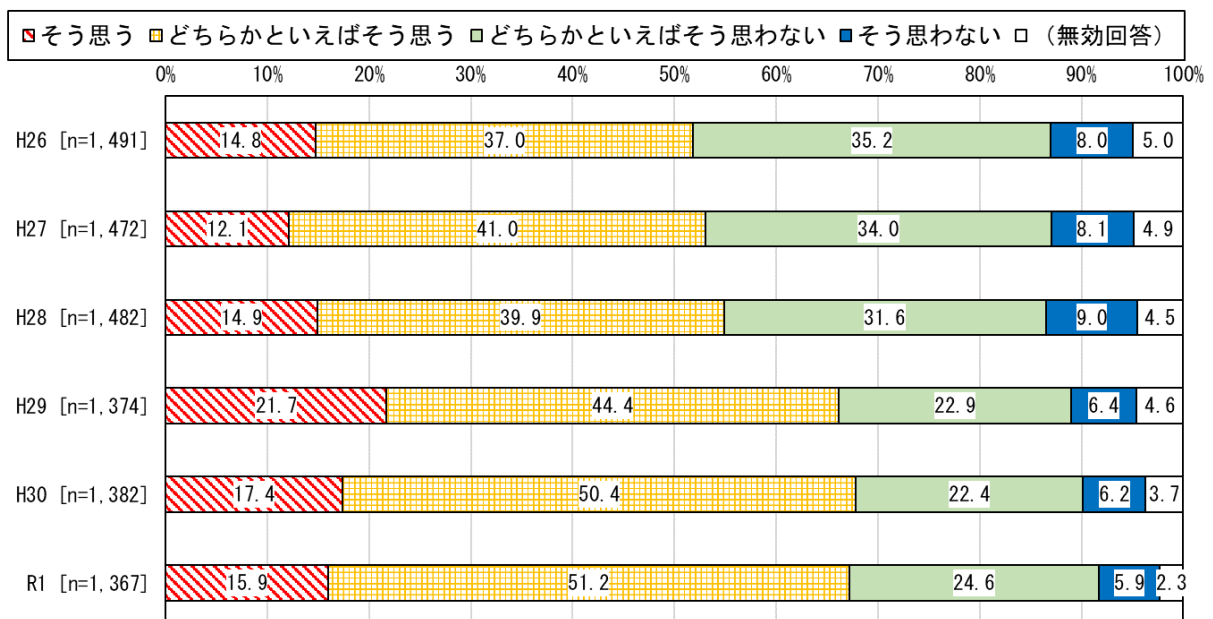
○「そう思う」が15.9%、「どちらかといえばそう思う」が51.2%で、合計で67.1%を占めています。



<経年比較>

○「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計は、平成27年度以降、おおむね増加傾向で推移しており、平成29年度以降はいずれも60%台となっています。

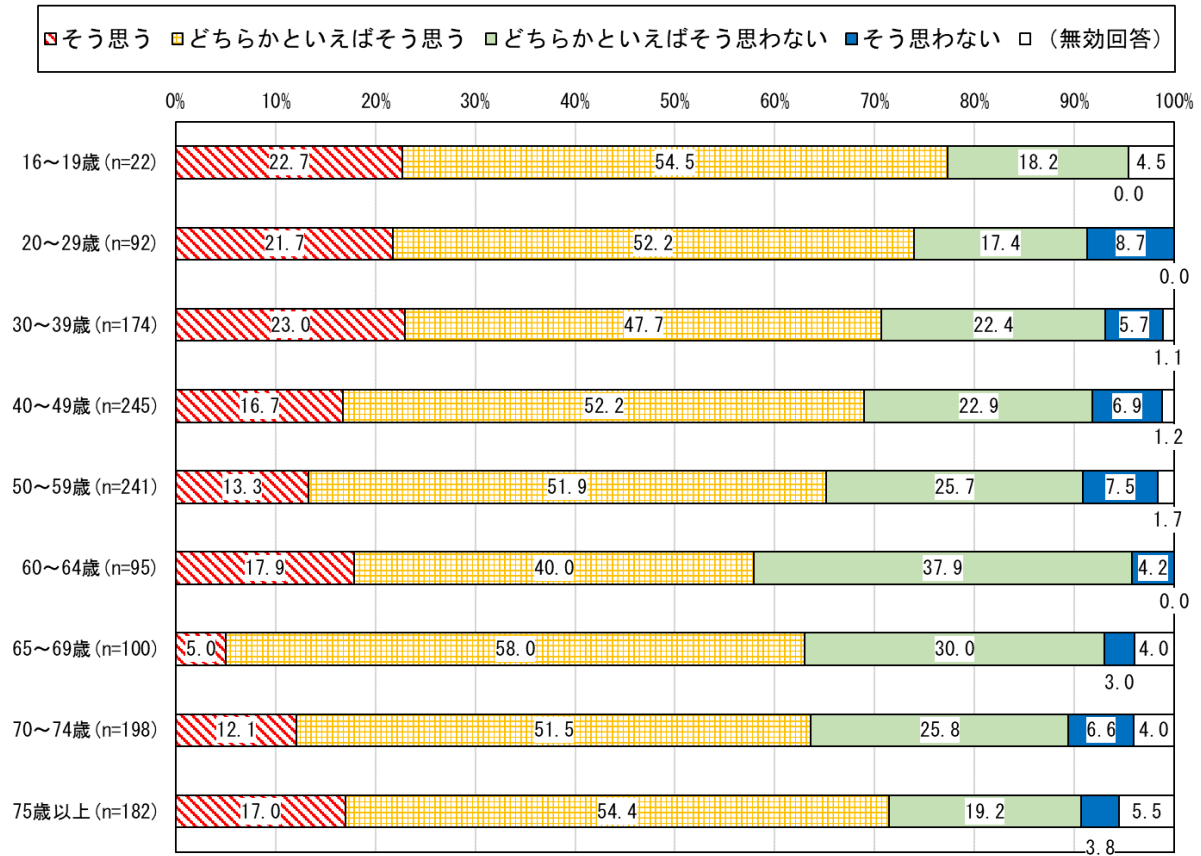
○一方、「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」の合計は、平成29年度以降、30%前後で推移しています。



<年齢層別>

○16～39歳及び75歳以上では、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計が70%台となっています。

○50～74歳では、「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」の合計が33.2～42.1%と、他の年齢層に比べて高くなっています。

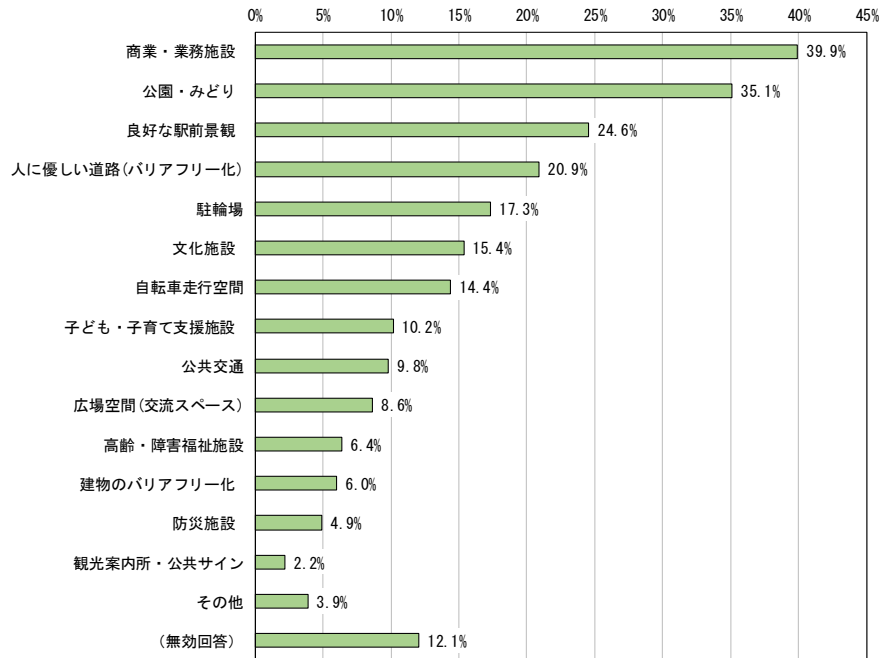


第3章 調査結果<日ごろの意識や行動>

問 50) あなたは、中心市街地（調布・布田・国領駅周辺）の魅力を高めるために必要なものは何だと思いますか。

<全体 (n=1,367) >

○「商業・業務施設」が 39.9%で最も高く、次いで「公園・みどり」の 35.1%、「良好な駅前景観」の 24.6%の順となっています。



<年齢層別>

○16～64 歳では「商業・業務施設」、65 歳以上では「公園・みどり」が最も高くなっています。

選択肢	合計	16～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75歳以上
全体	1,367	22	92	174	245	241	95	100	198	182
商業・業務施設	546	11	48	91	122	108	37	32	47	46
公園・みどり	480	9	34	76	74	75	28	41	75	63
良好な駅前景観	336	3	16	34	65	59	24	22	56	54
人に優しい道路(バリアフリー化)	286	3	14	23	41	54	24	30	47	48
駐輪場	237	7	15	25	52	46	14	14	30	32
文化施設	210	3	15	18	41	37	13	20	30	31
自転車走行空間	197	7	7	33	34	32	17	10	35	18
子ども・子育て支援施設	139	0	14	49	27	16	3	4	12	12
公共交通	134	2	12	15	27	26	10	8	17	16
広場空間(交流スペース)	118	0	5	12	18	28	11	11	16	15
高齢・障害福祉施設	87	1	5	3	5	8	8	8	13	33
建物のバリアフリー化	82	2	6	12	12	20	6	8	8	8
防災施設	67	2	2	3	10	11	5	5	10	17
観光案内所・公共サイン	30	0	2	2	3	7	4	4	4	3
その他	53	1	4	9	11	10	5	3	6	3
(無効回答)	165	1	11	17	22	31	11	12	28	29

(上段：実数(人)，下段：構成比)

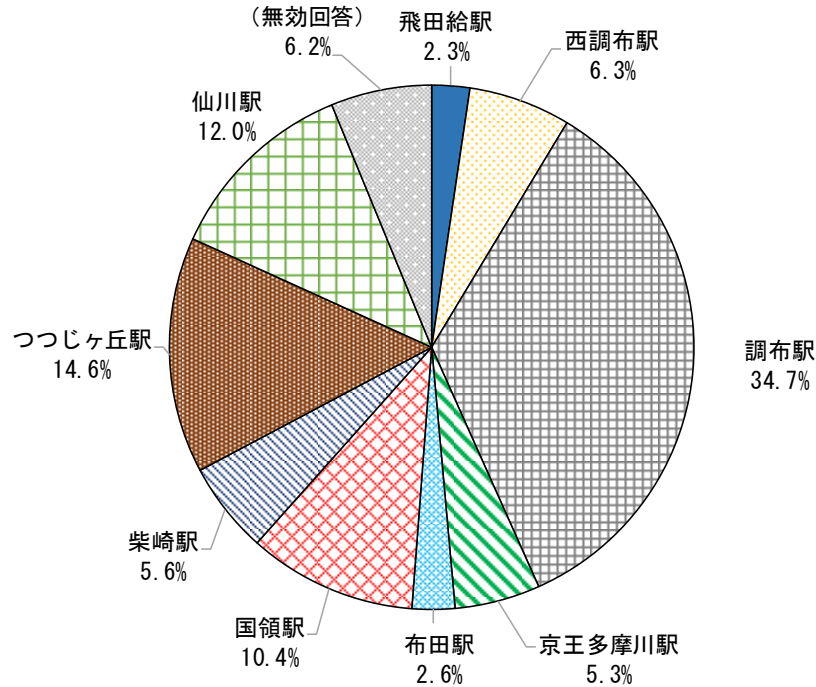
回答割合が最も高い：

回答割合が2番目に高い：

問51) あなたは、普段どの駅を利用しますか。

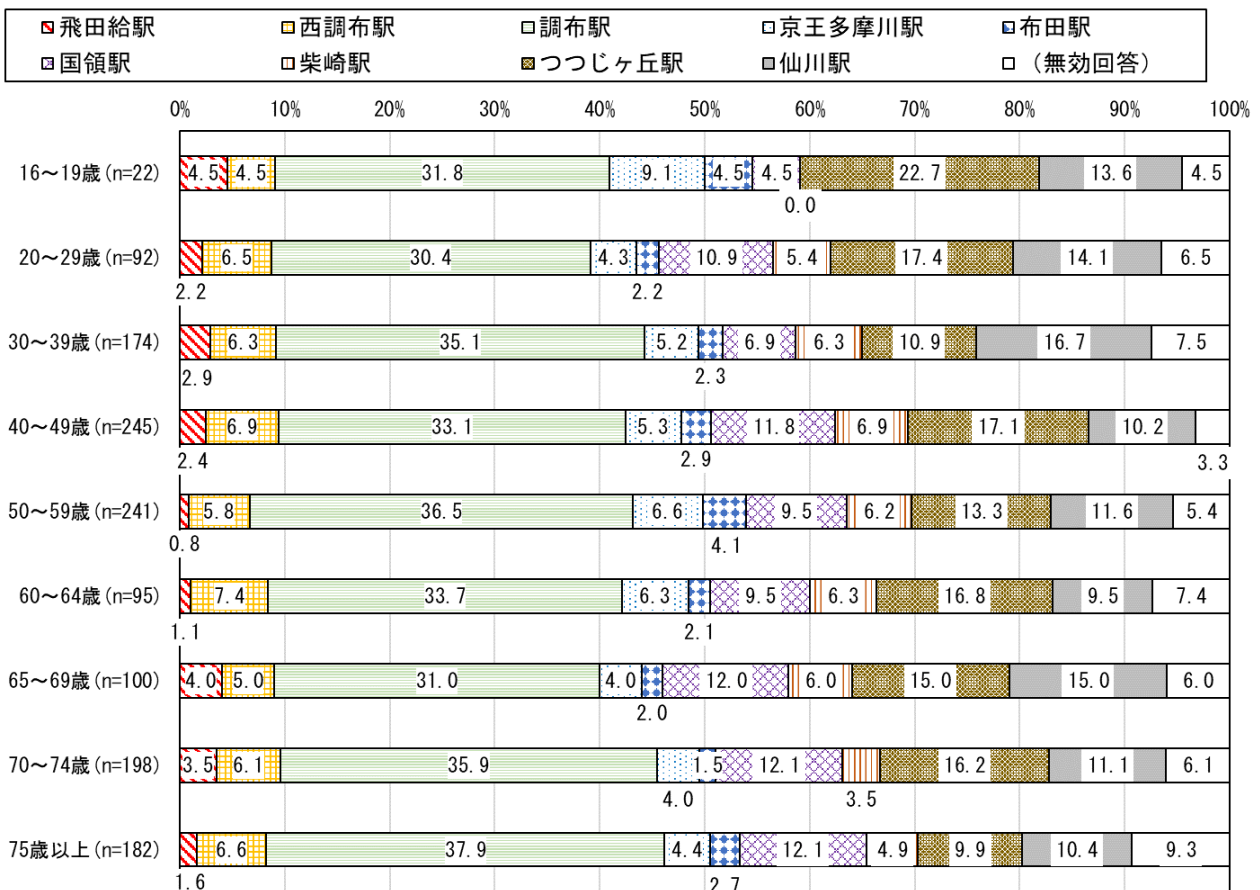
<全体 (n=1,367)>

○「調布駅」が34.7%で最も高く、次いで「つつじヶ丘駅」の14.6%、「仙川駅」の12.0%、「国領駅」の10.4%の順となっています。



<年齢層別>

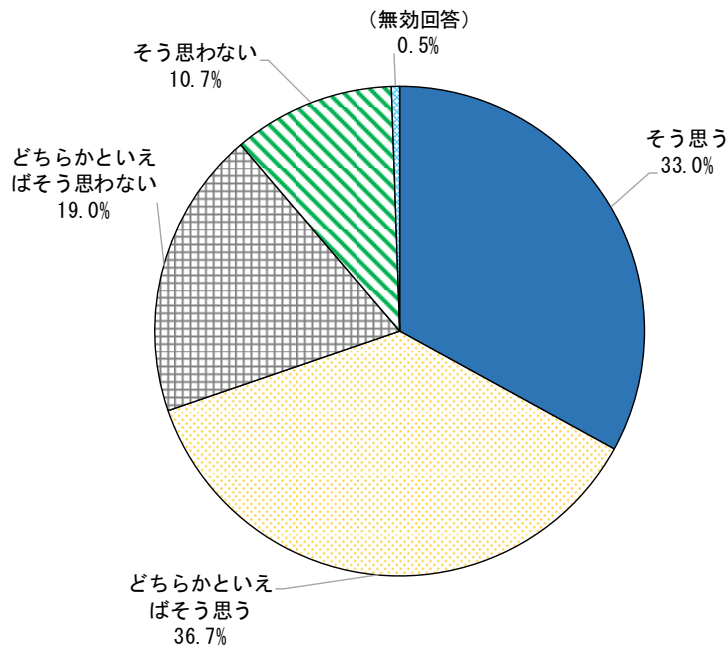
○いずれの年齢層も、調布駅が最も高くなっています。



問 51-1) あなたはその駅の周辺は利便性が高いと思いますか。

<全体 (n=1,367) >

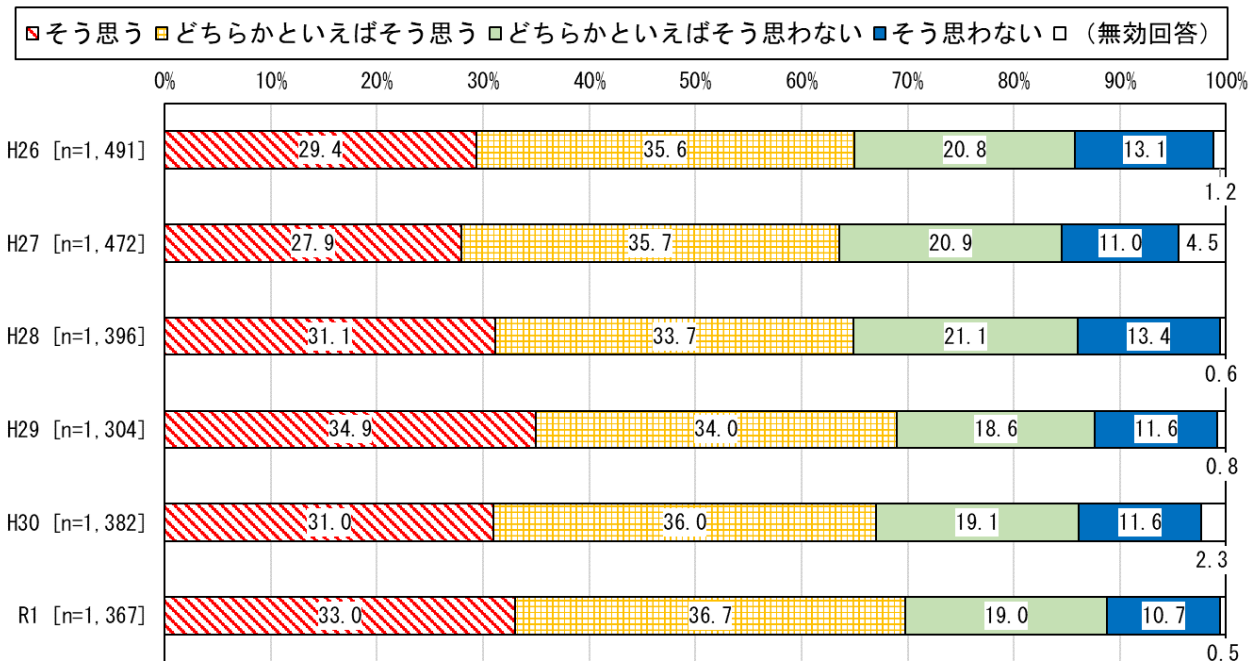
○「そう思う」が 33.0%、「どちらかといえばそう思う」が 36.7%で、合計 69.7%を占めています。



<経年比較>

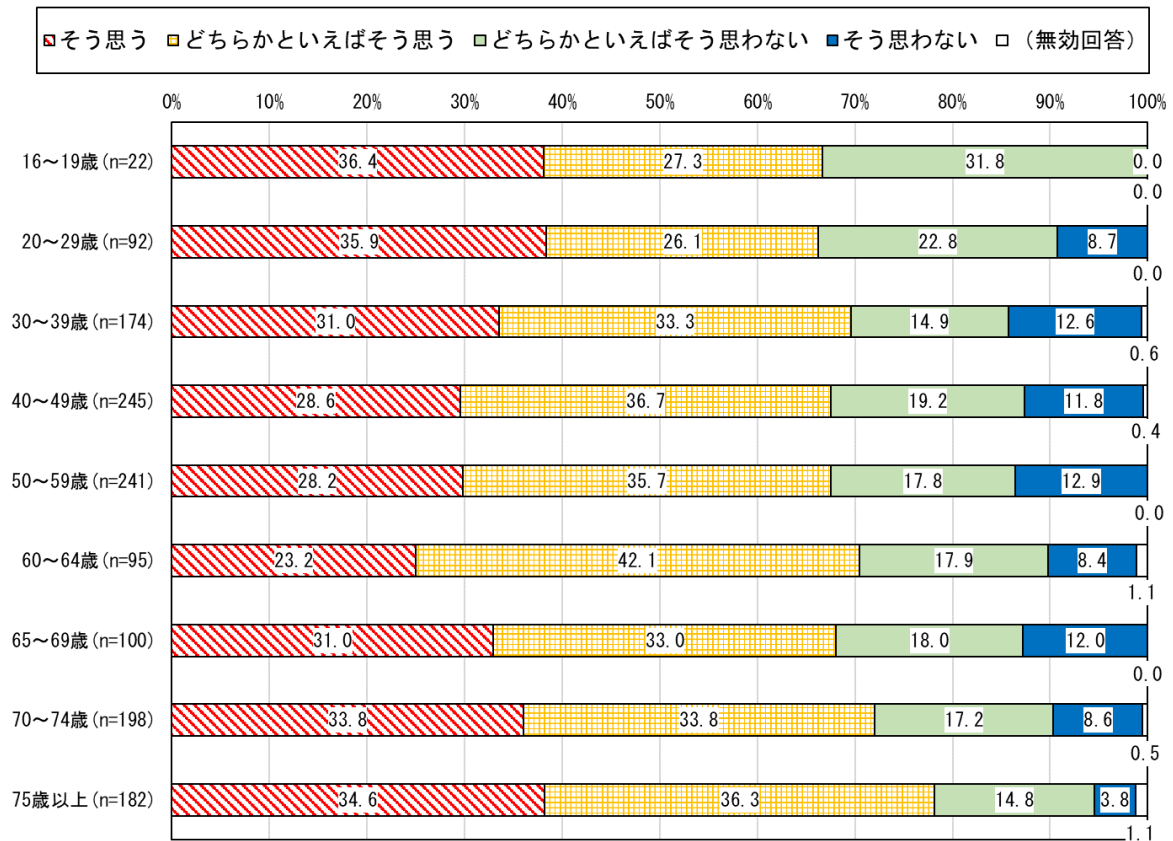
○「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計は、平成 26 年度以降、いずれも 60%台となっています。

○一方、「どちらかといえばそう思う」と「そう思わない」の合計は、平成 26 年度以降、いずれも 30%台で推移しています。



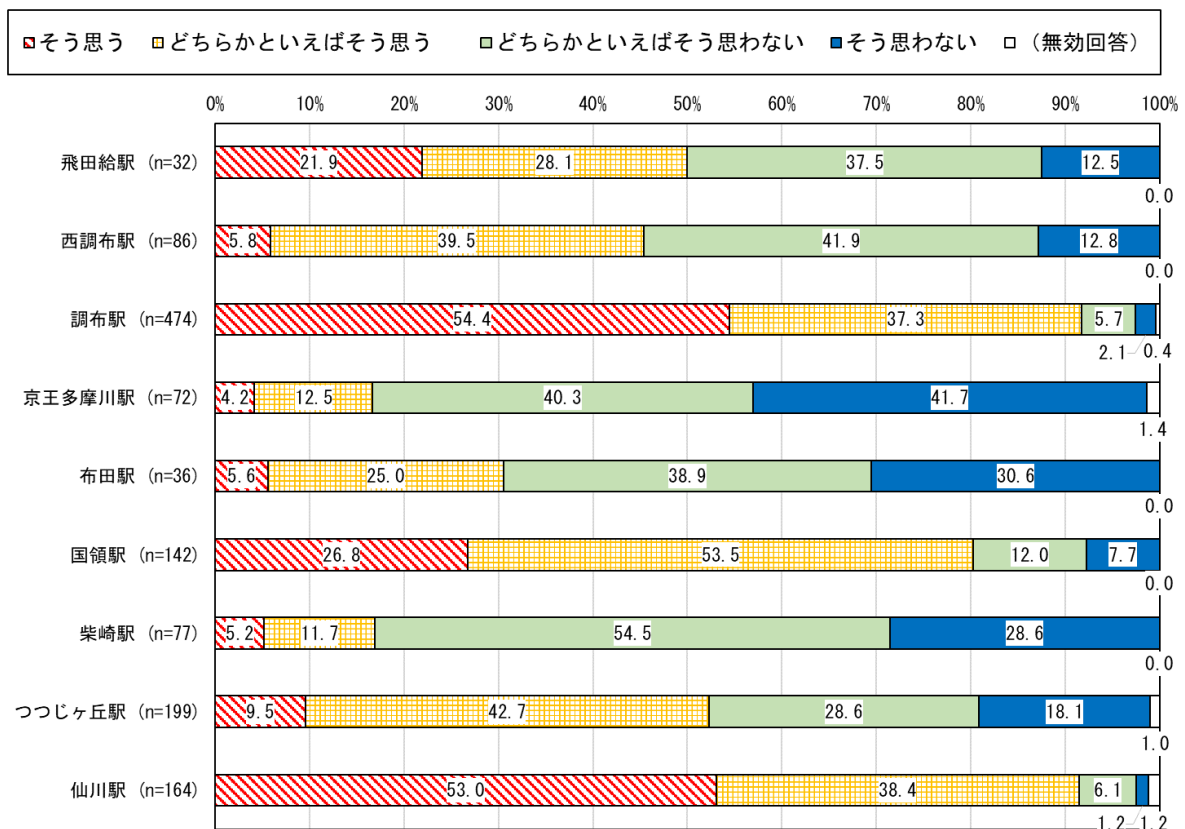
<年齢層別>

○75歳以上が、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計が70.9%と最も高く、次いで70～74歳の67.6%、60～64歳の65.3%の順となっています。



<駅別比較>

○「そう思う」について、「調布駅」及び「仙川駅」では50%台となっている一方、それ以外の駅ではいずれも30%を下回っています。

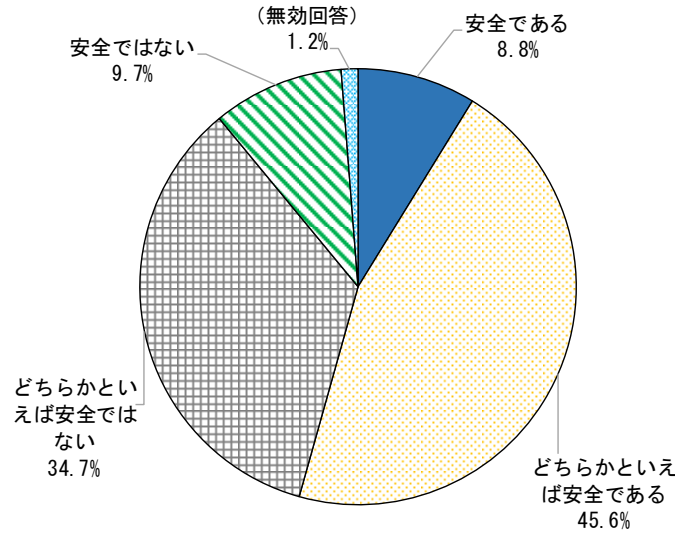


【道路・交通について】

問 52) あなたは、普段利用する市内の道路が安全だと思いますか。

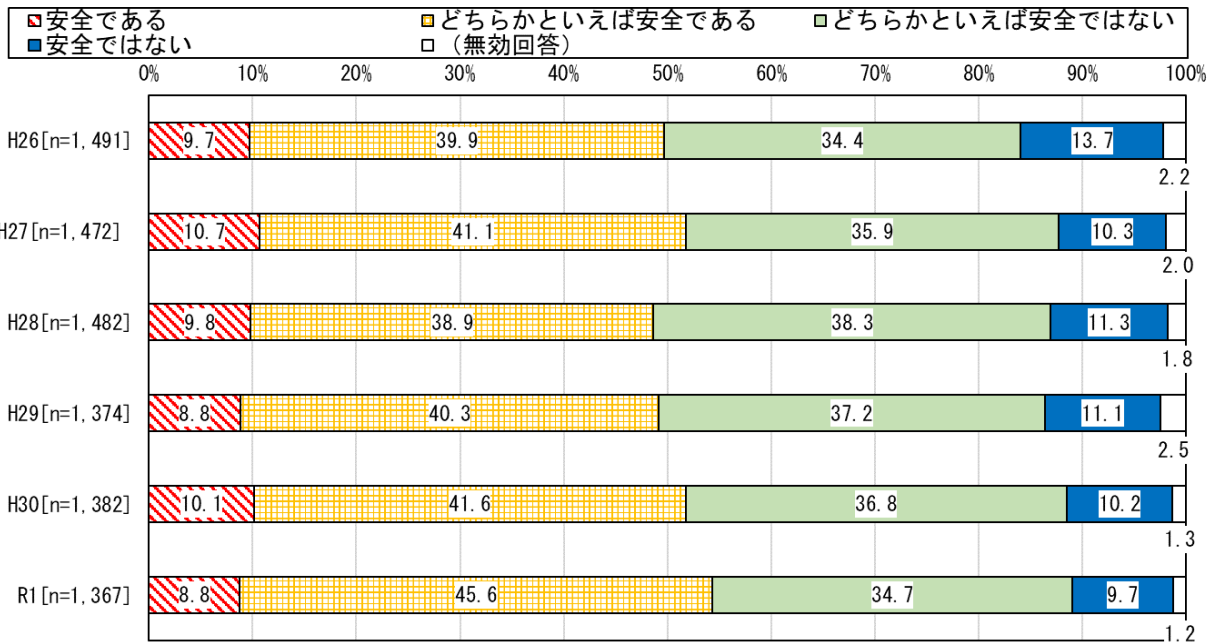
<全体 (n=1,367) >

○「安全である」が 8.8%、「どちらかといえば安全である」が 45.6%で、合計で 54.4%を占めています。
 ○一方、「安全ではない」は 9.7%、「どちらかといえば安全ではない」は 34.7%で、合計で 44.4%となっています。



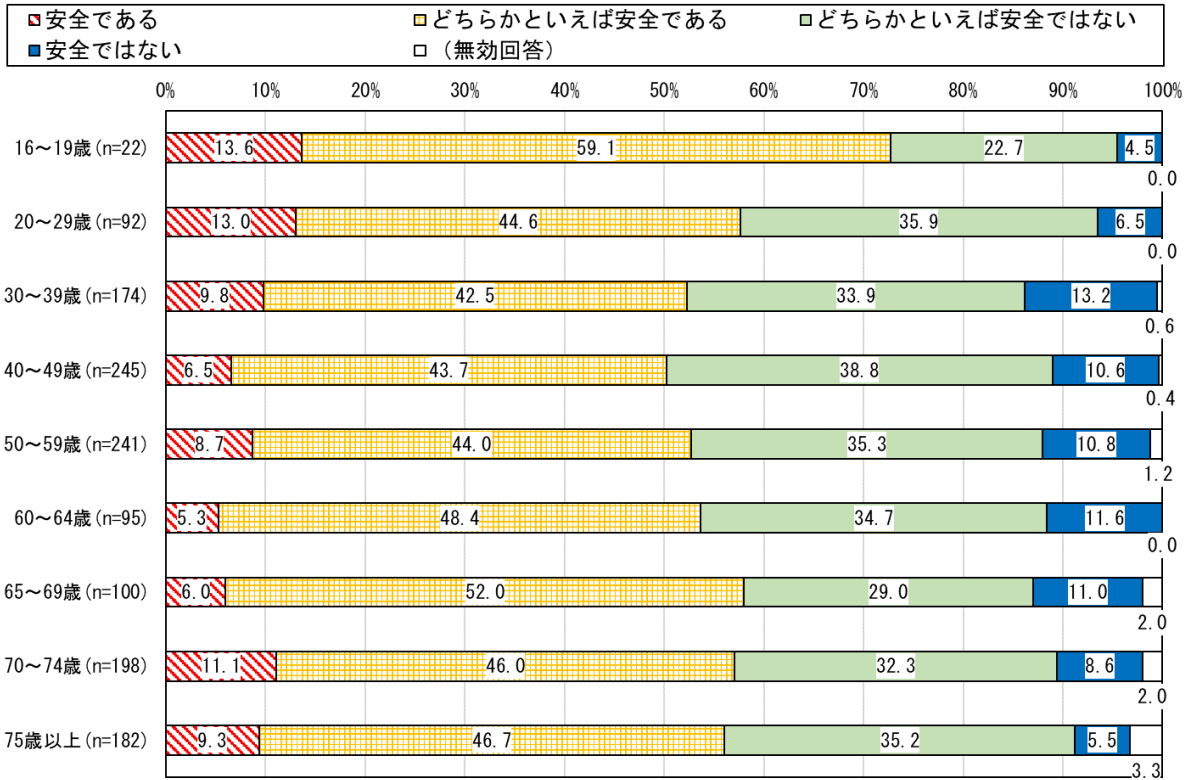
<経年比較>

○「安全である」と「どちらかといえば安全である」の合計は、平成 27 年度以降おおむね増加傾向で推移しており、令和元年度は平成 30 年度の 51.7%と比べて 2.7 ポイント増加しています。
 ○一方、「安全ではない」と「どちらかといえば安全ではない」の合計は、平成 30 年度の 47.0%から令和元年度では 2.6 ポイント減少しています。



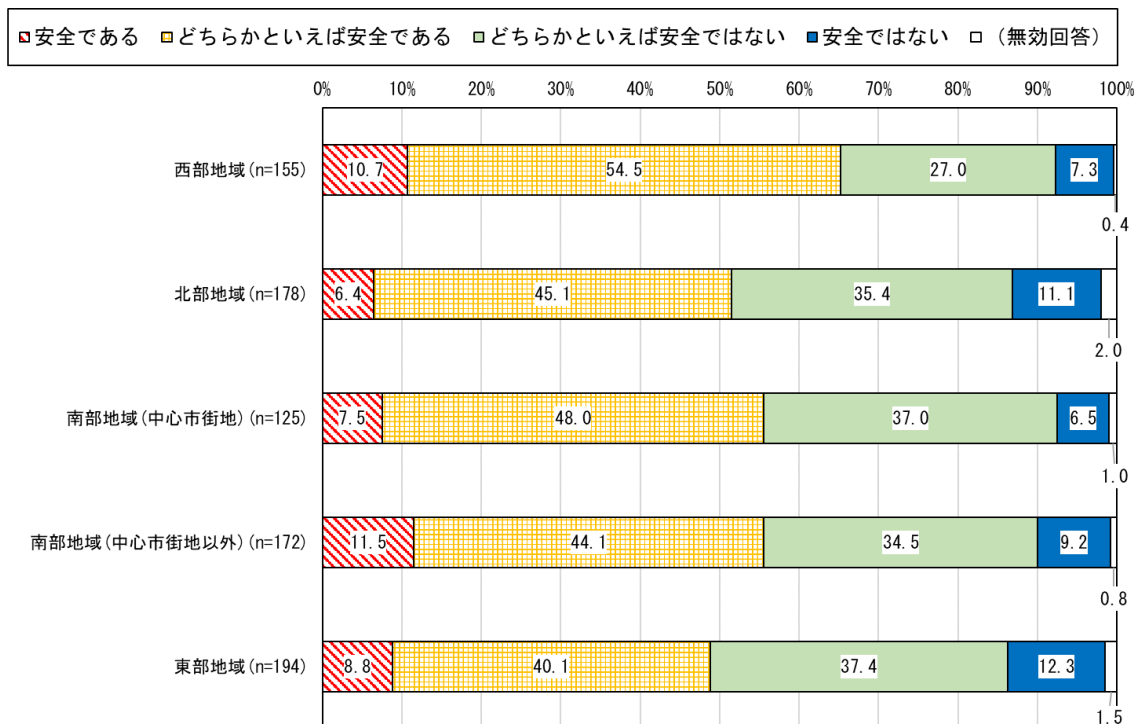
<年齢層別>

○いずれの年齢層も、「安全である」と「どちらかといえば安全である」の合計が50%以上となっている一方、20歳以上では、「安全ではない」と「どちらかといえば安全ではない」の合計も40%台を占めています。



<地域別>

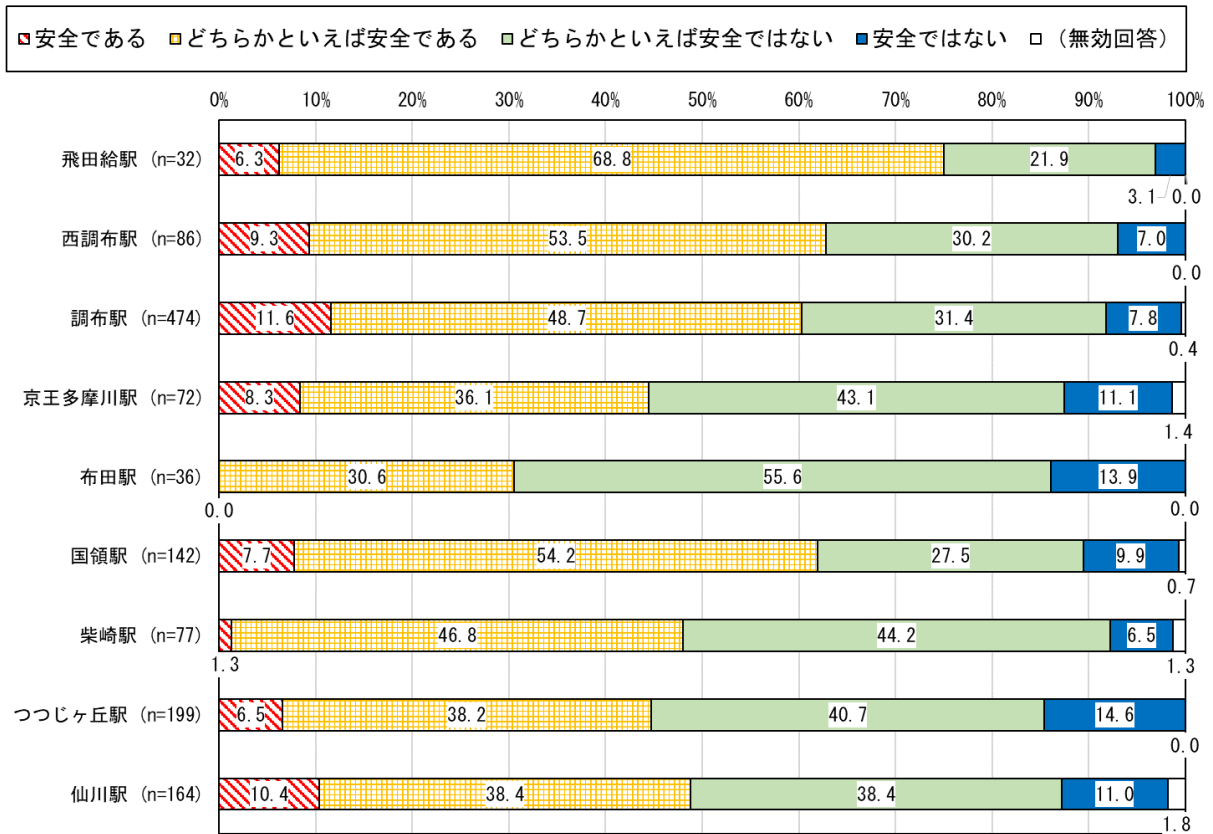
○東部地域以外の地域では、「安全である」と「どちらかといえば安全である」の合計が50%を超えています。東部地域では、「どちらかといえば安全ではない」と「安全ではない」の合計が49.7%で、「安全である」と「どちらかといえば安全である」の合計（48.9%）ときっ抗しています。



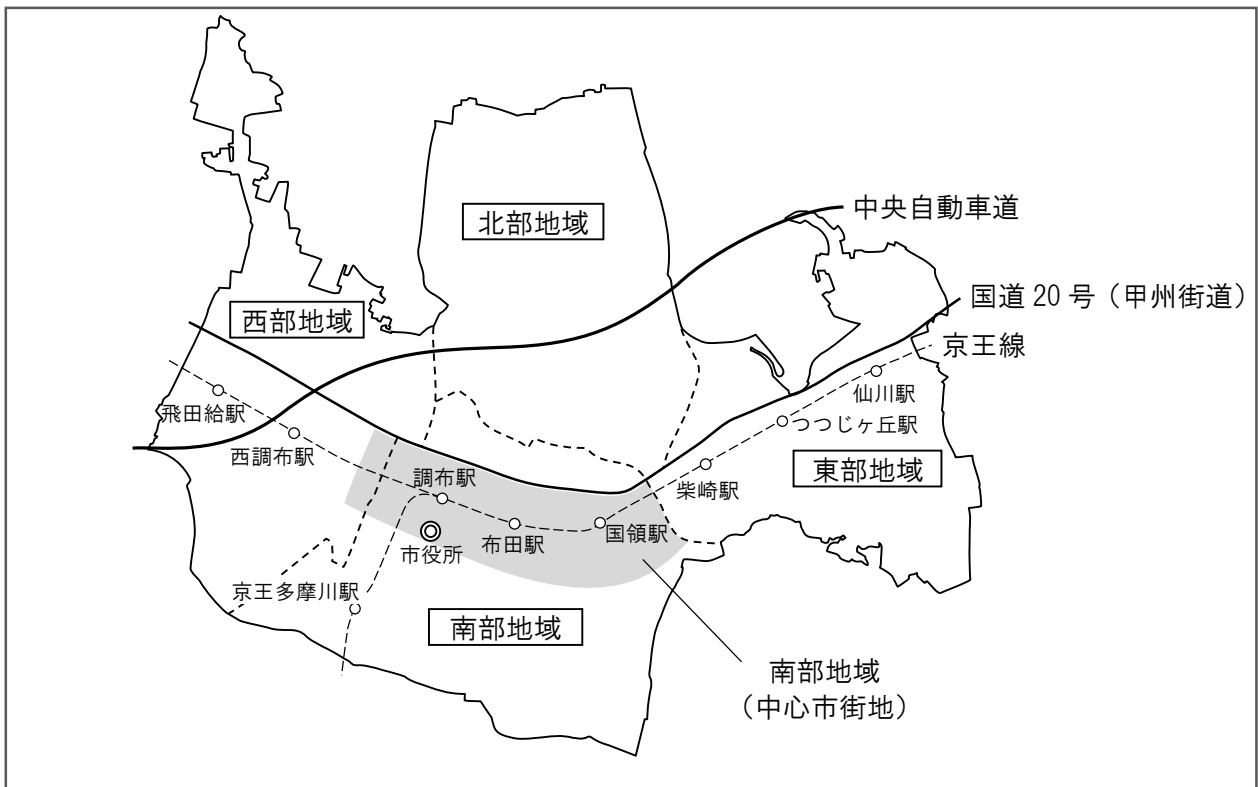
第3章 調査結果<日ごろの意識や行動>

<利用駅別>

○「安全である」と「どちらかといえば安全である」の合計が最も高いのは、飛田給駅の75.1%であり、次いで西調布駅の62.8%、国領駅の61.9%の順となっています。



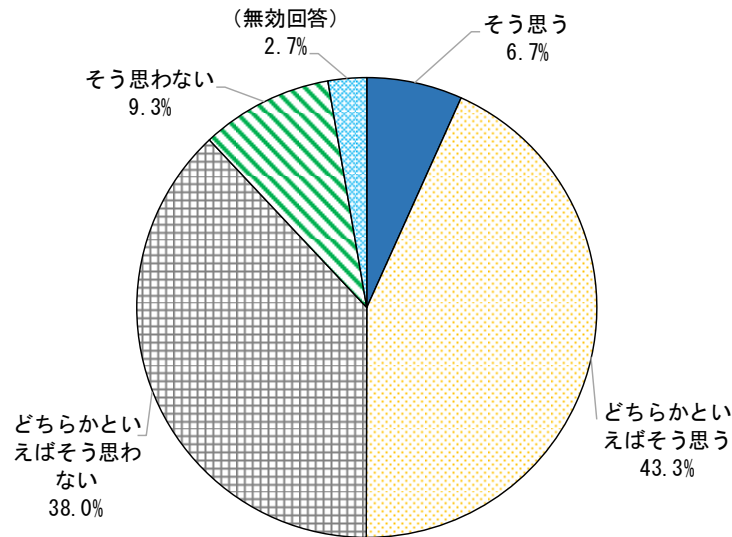
(参考) 各地域と市内主要道路の位置関係



問 53) あなたは、市内の道路について、道路の利用者が目的地まで行きやすく、利便性の高い道路ネットワークが形成されていると思いますか。

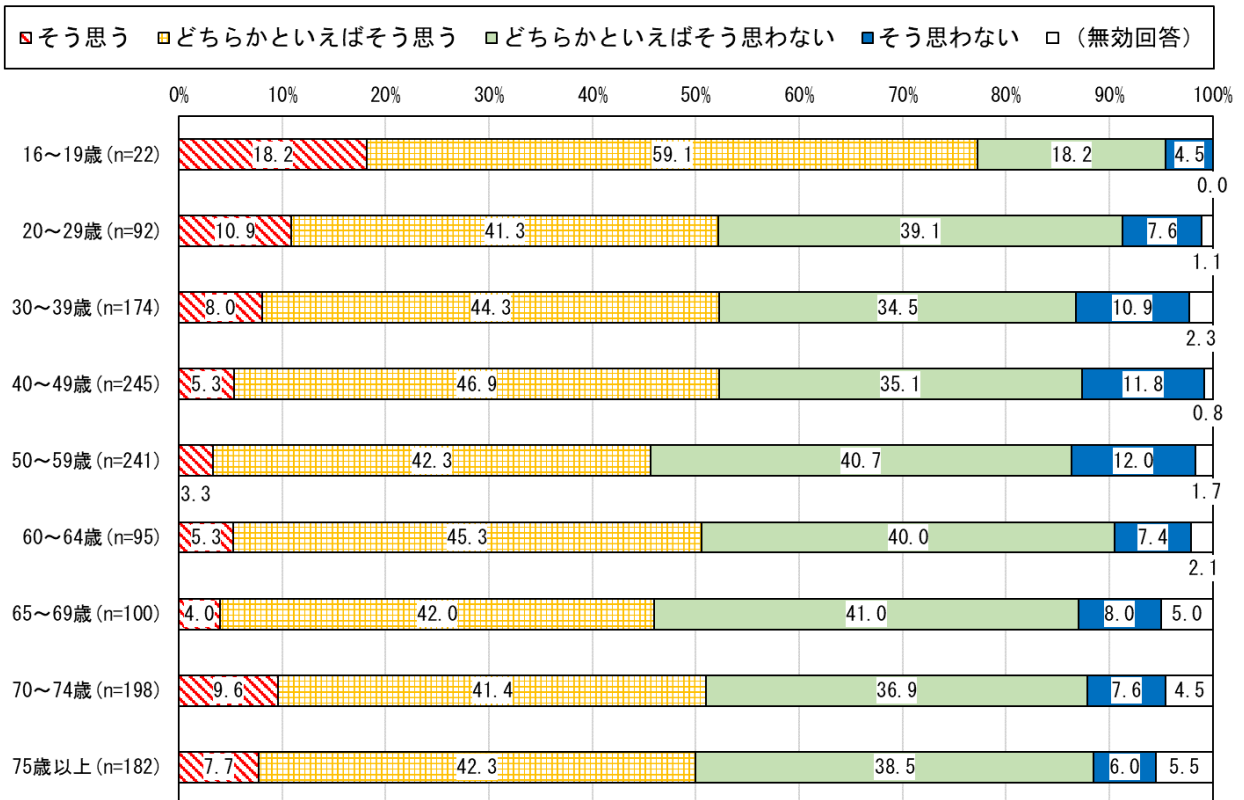
<全体 (n=1,367) >

○「そう思う」が6.7%、「どちらかといえばそう思う」が43.3%で、合計で50.0%を占めています。



<年齢層別>

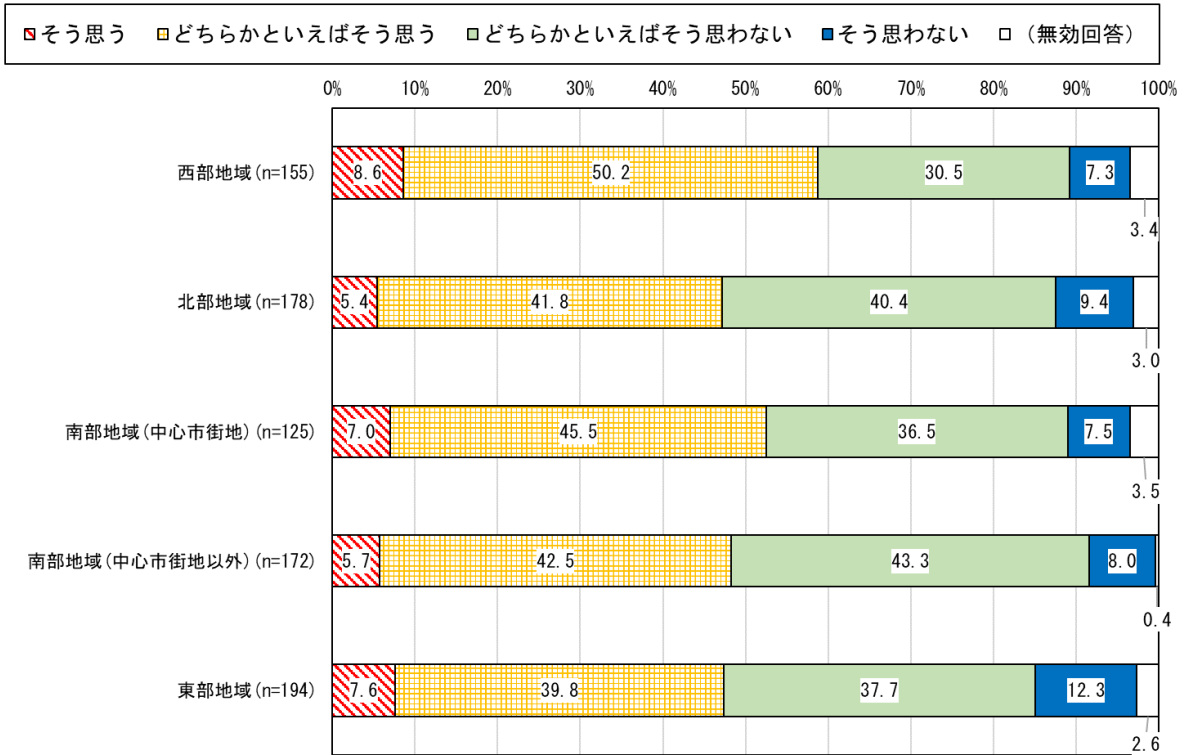
○16～19歳が、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計が77.3%で最も高く、次いで30～39歳の52.3%、20～29歳と40～49歳の52.2%の順となっています。



第3章 調査結果<日ごろの意識や行動>

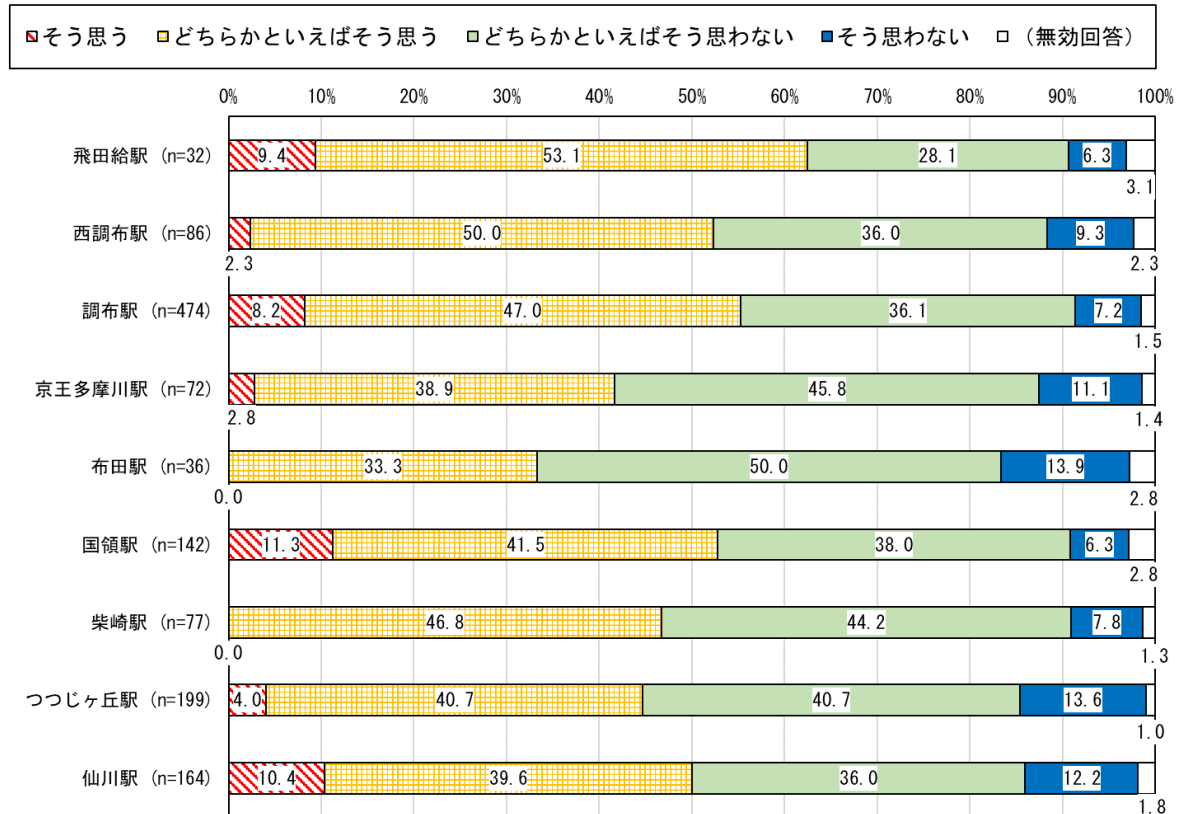
<地域別>

○西部地域と南部地域（中心市街地）では、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計が50%を超えています。



<利用駅別>

○「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計は、飛田給駅では62.5%で最も高いほか、西調布駅、調布駅、国領駅、仙川駅でも50%台となっています。

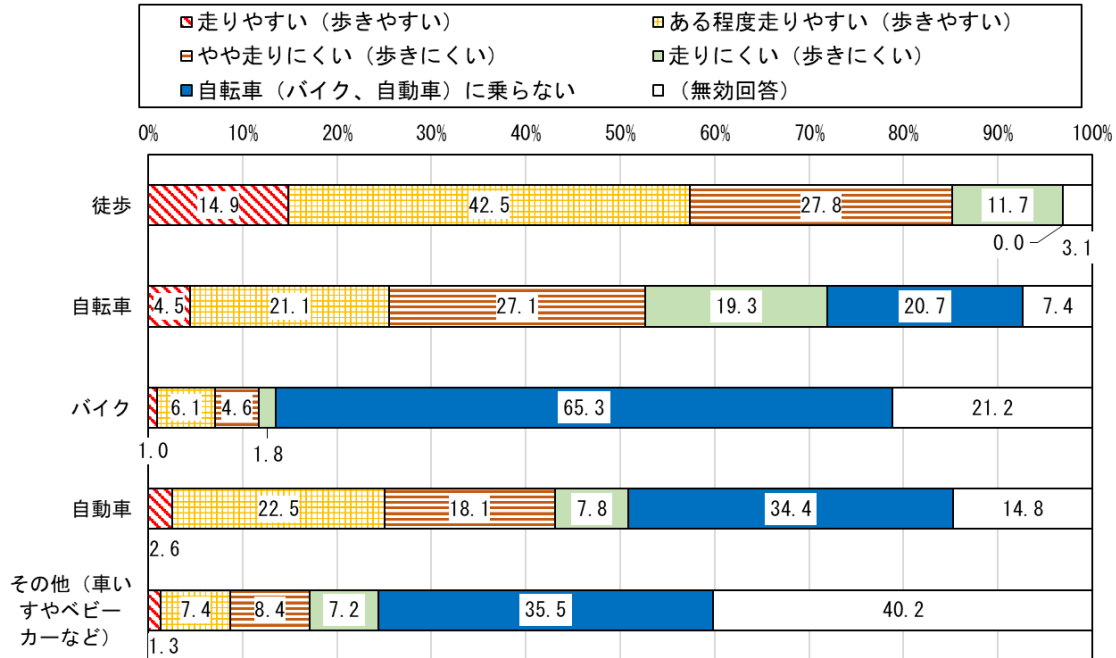


問 54) あなたは、ふだん利用する道路について、通行しやすいと感じていますか。

<全体 (n=1,367) >

○徒歩では、「歩きやすい」が14.9%、「ある程度歩きやすい」が42.5%で、合計で57.4%を占めています。

○自転車では、「やや走りにくい」が27.1%、「走りにくい」が19.3%で、合計で46.4%を占めています。

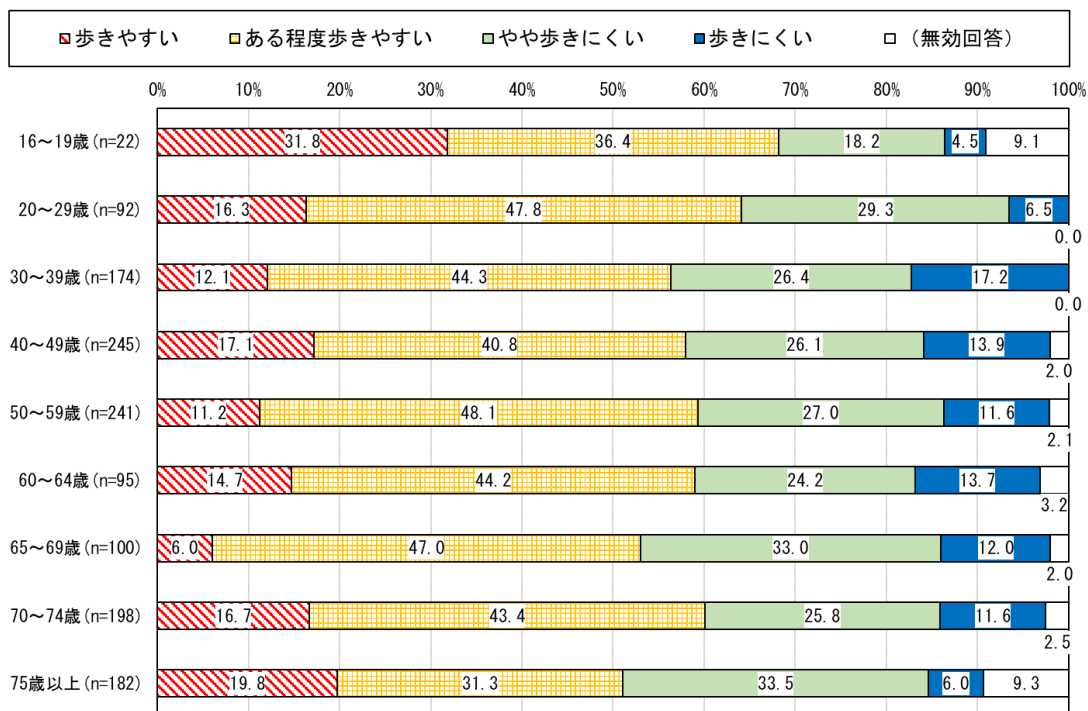


<年齢層別>

○徒歩では、いずれの年齢層も「歩きやすい」と「ある程度歩きやすい」の合計が50%を超えています。

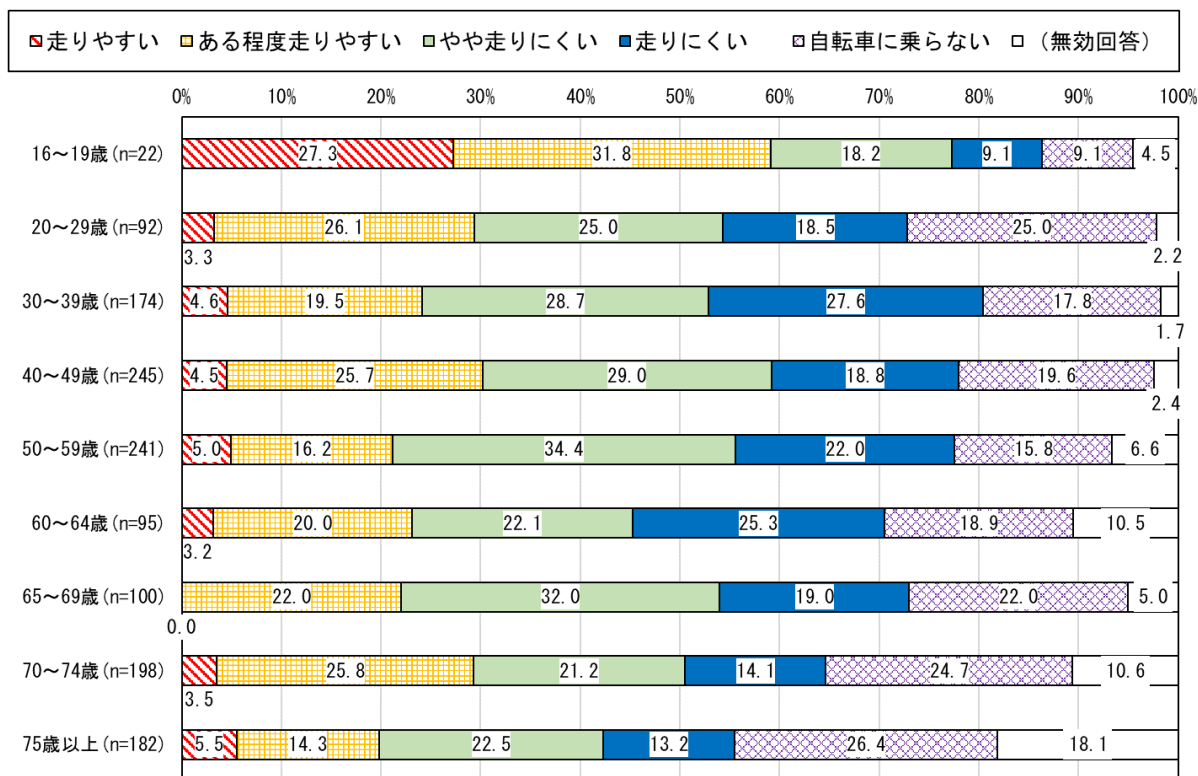
○自転車では、16~19歳で「走りやすい」が27.3%、「ある程度走りやすい」が31.8%、両者の合計が59.1%となっています。

ア 徒歩

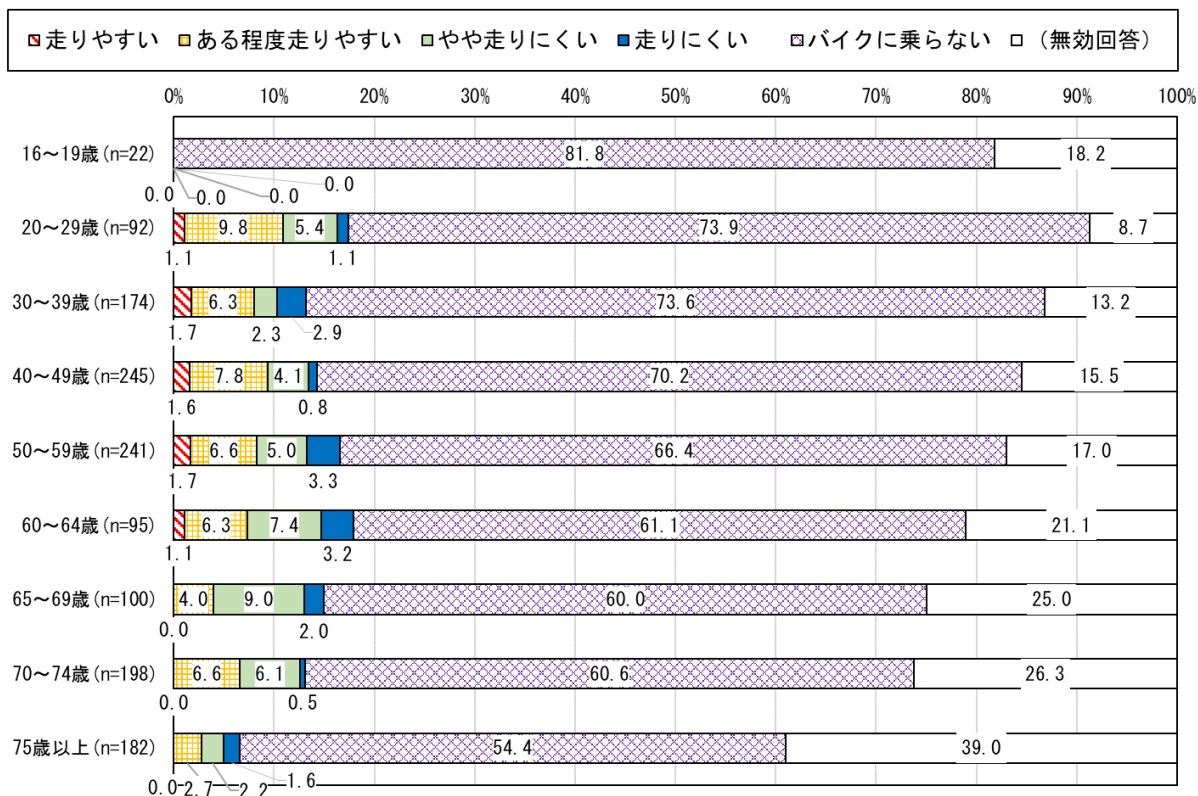


第3章 調査結果<日ごろの意識や行動>

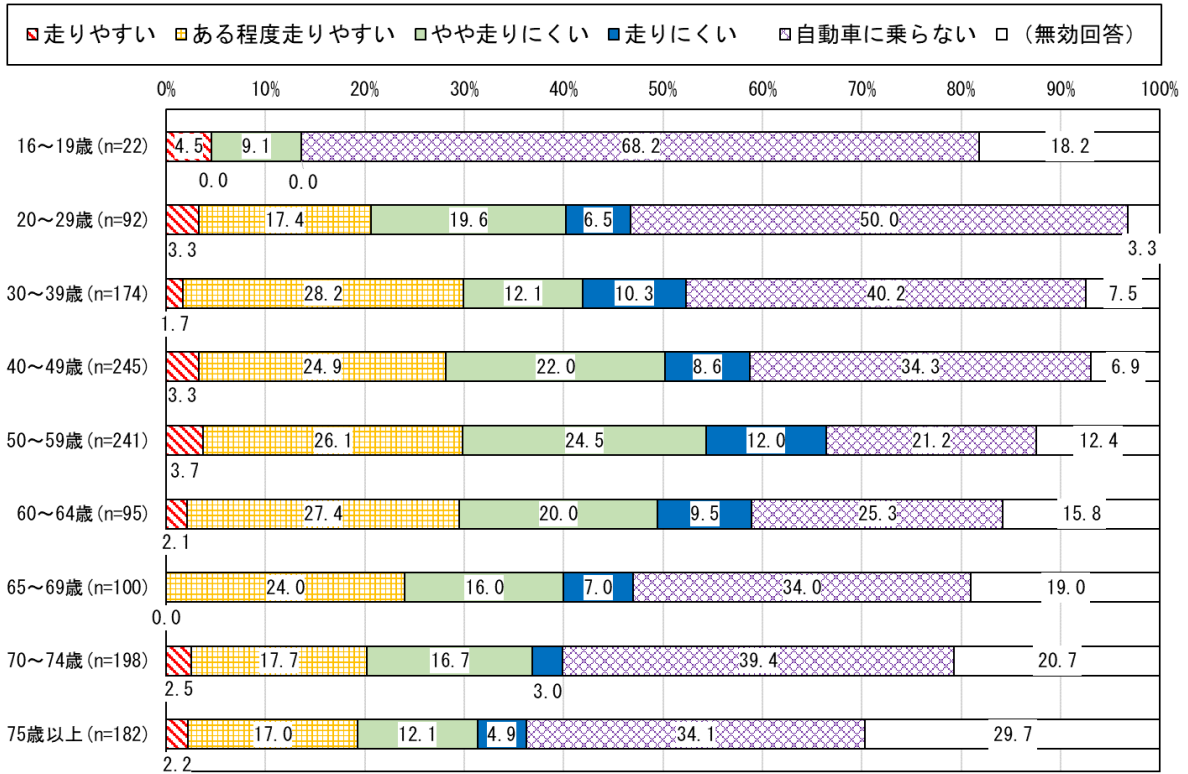
イ 自転車



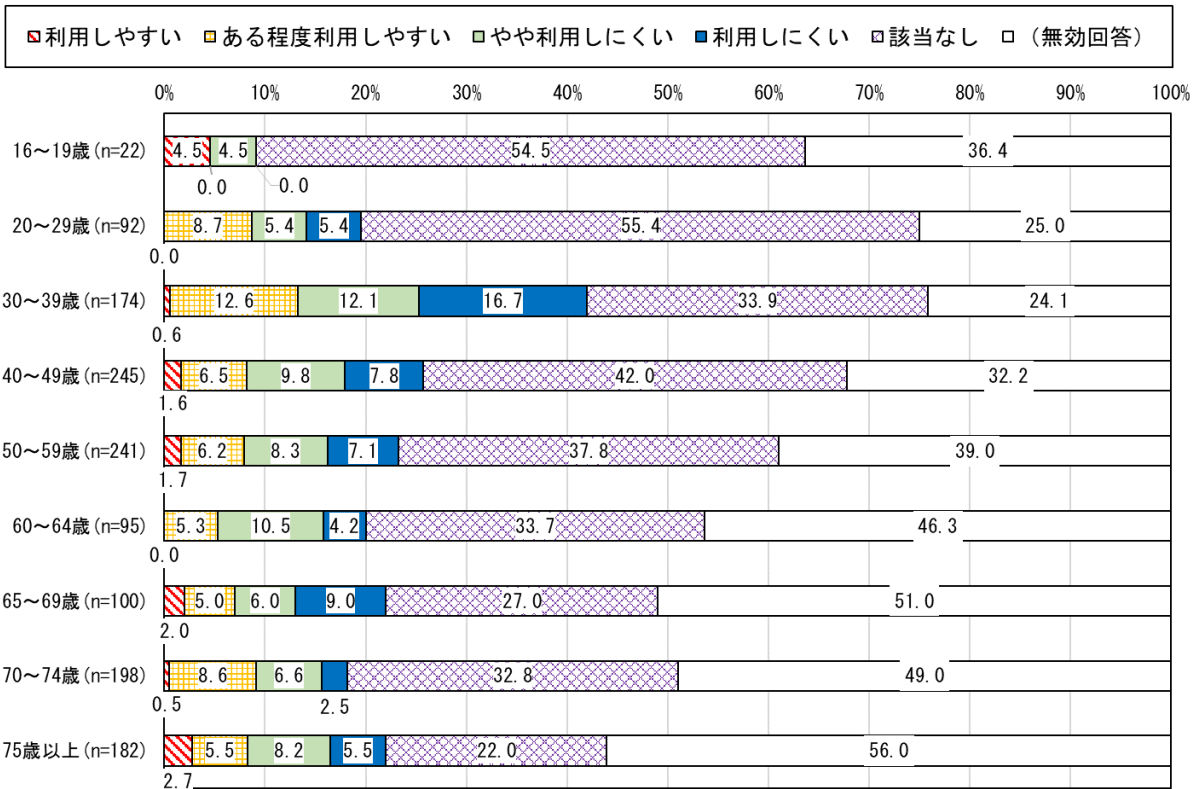
ウ バイク



エ 自動車



オ その他（車いすやベビーカーなど）



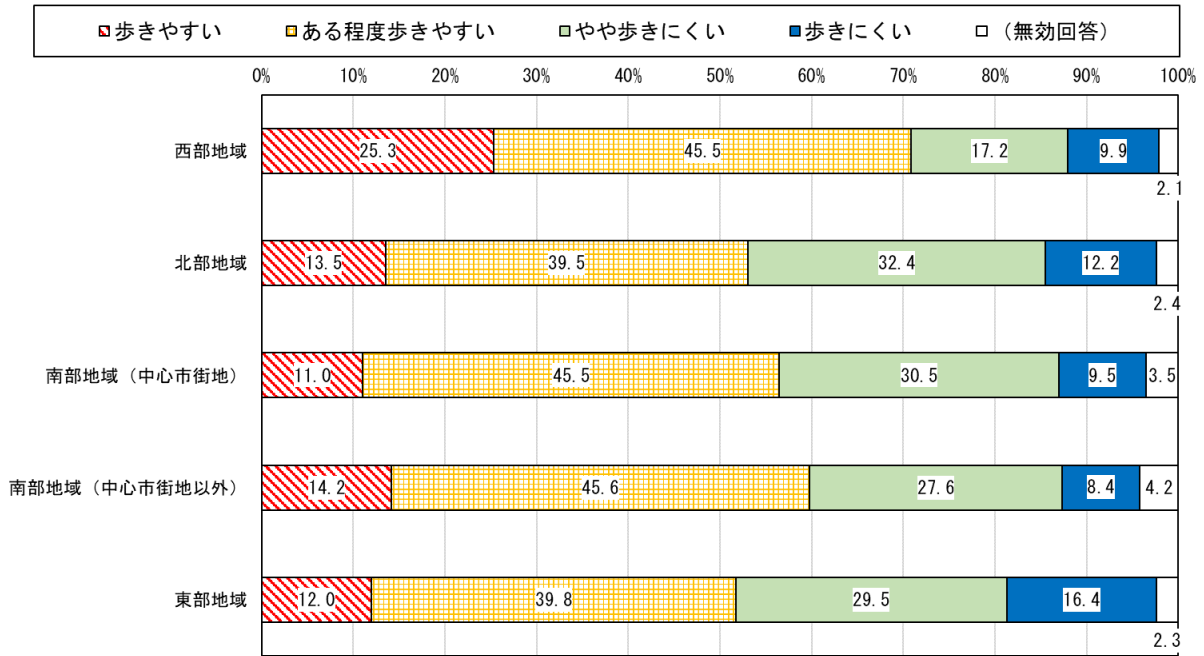
第3章 調査結果<日ごろの意識や行動>

<地域別>

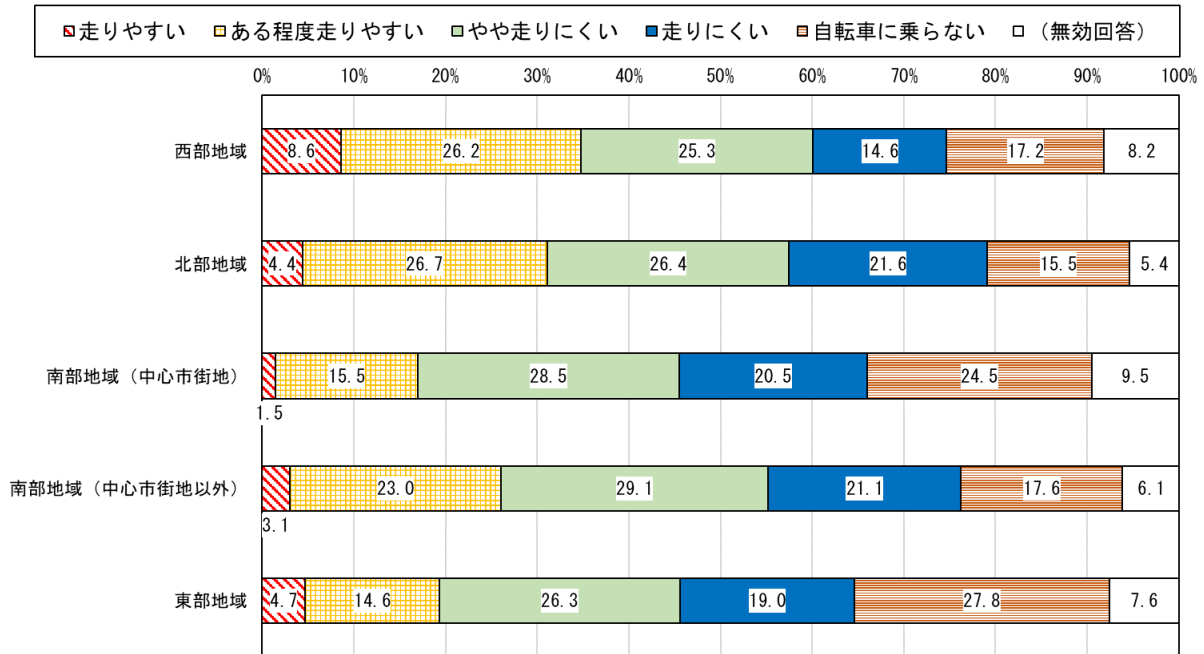
○徒歩では、西部地域が「歩きやすい」、「ある程度歩きやすい」の合計が70.8%で最も高くなっています。

○自転車では、南部地域（中心市街地以外）が「やや走りにくい」、「走りにくい」の合計が50.2%となっています。

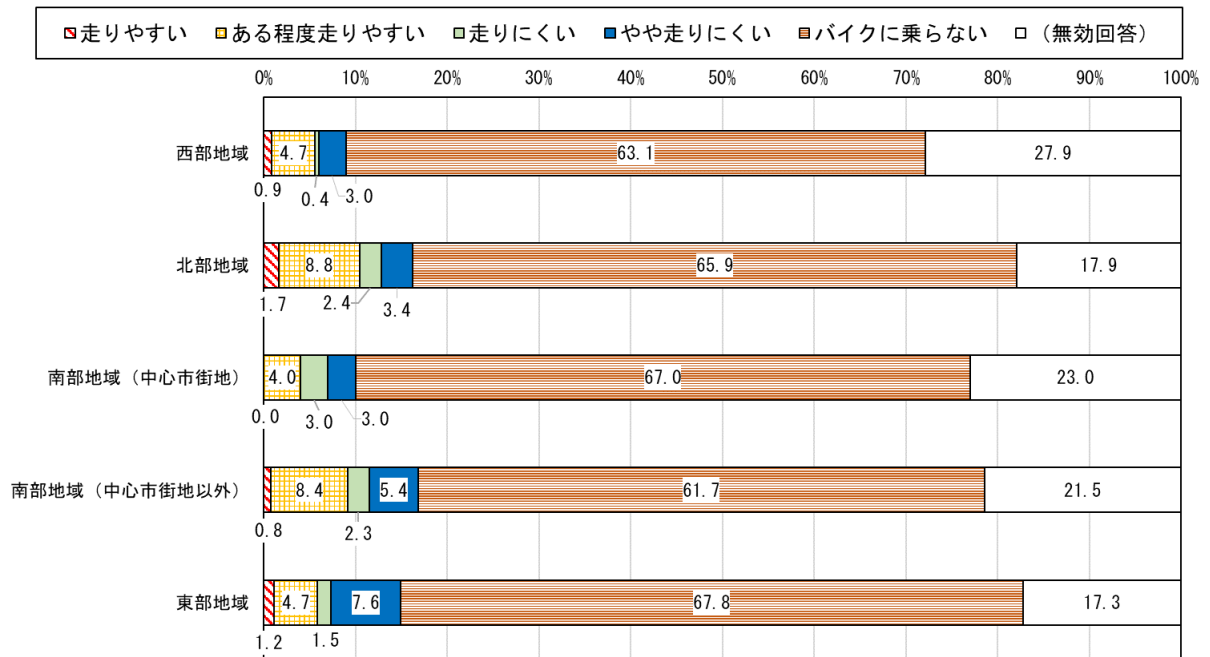
ア 徒歩



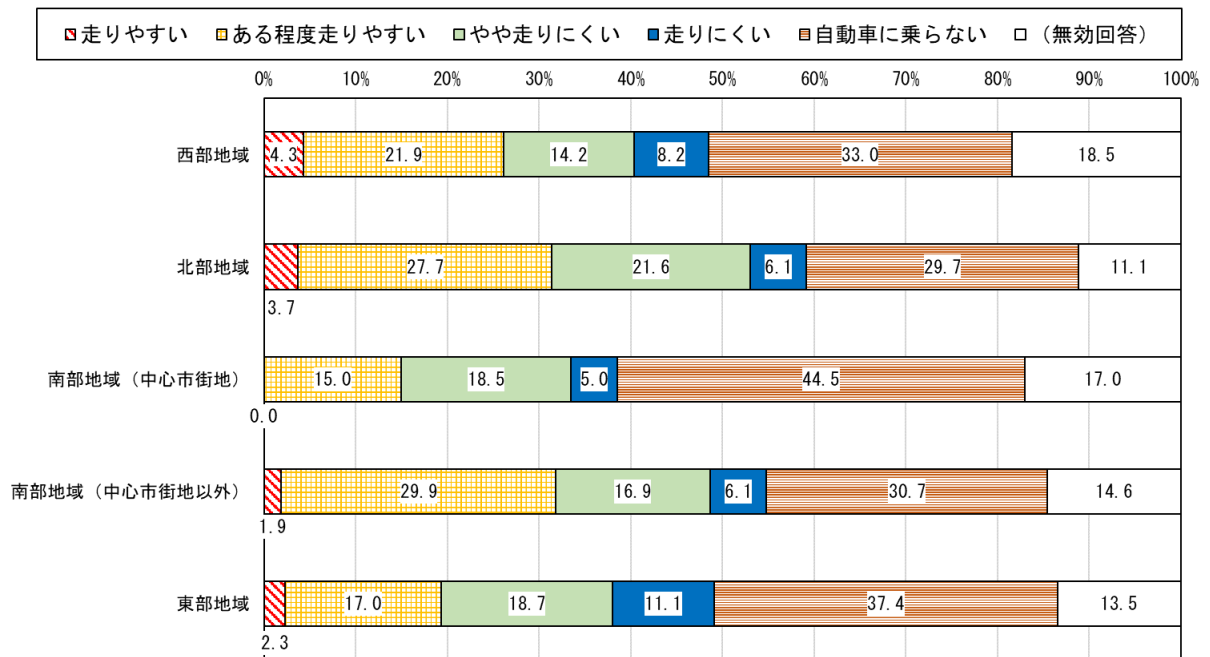
イ 自転車



ウ バイク

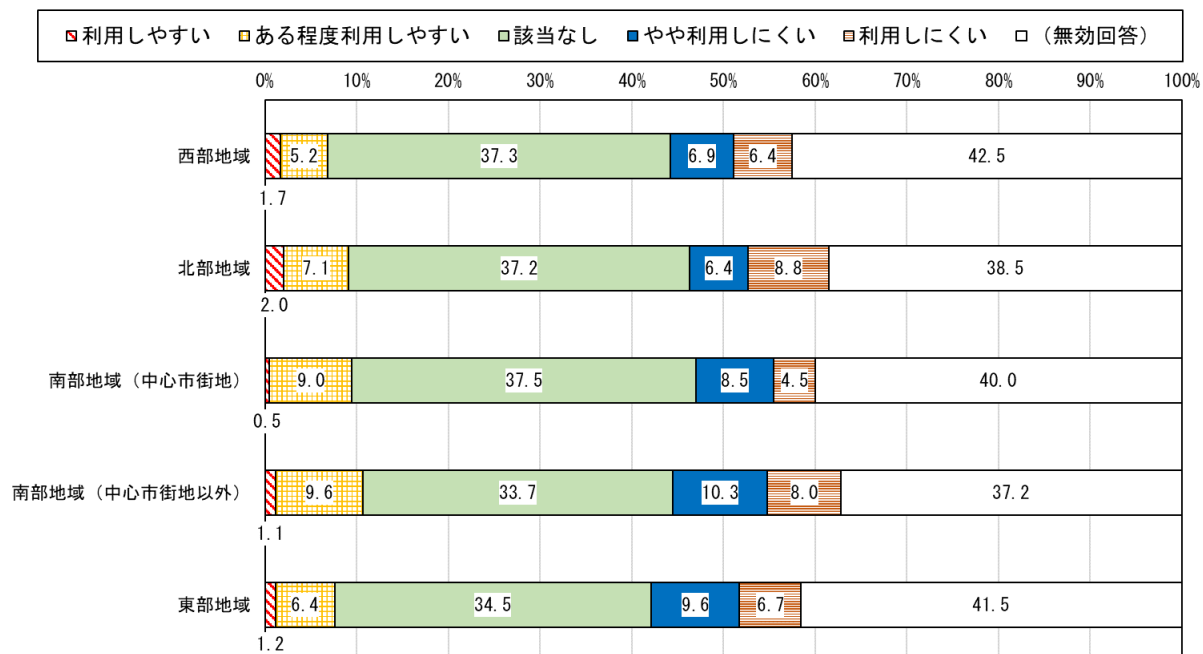


エ 自動車



第3章 調査結果<日ごろの意識や行動>

オ その他（車いすやベビーカーなど）

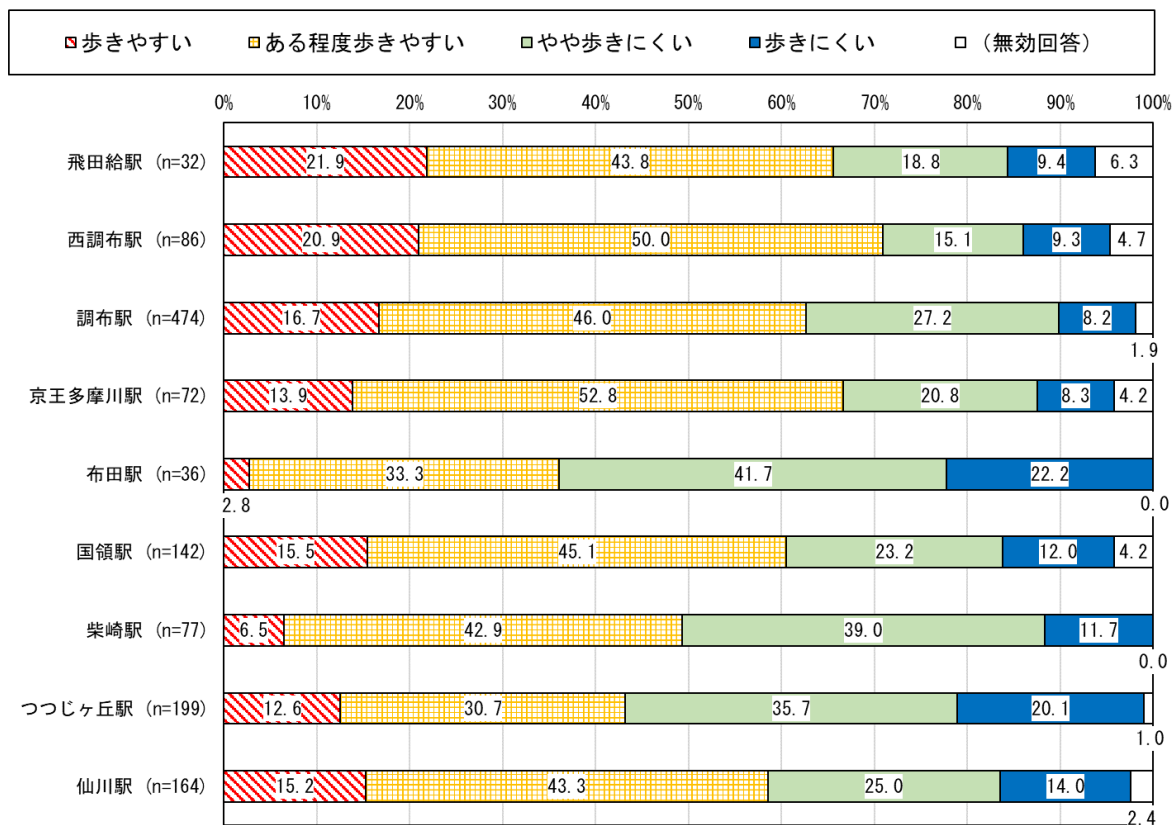


<利用駅別>

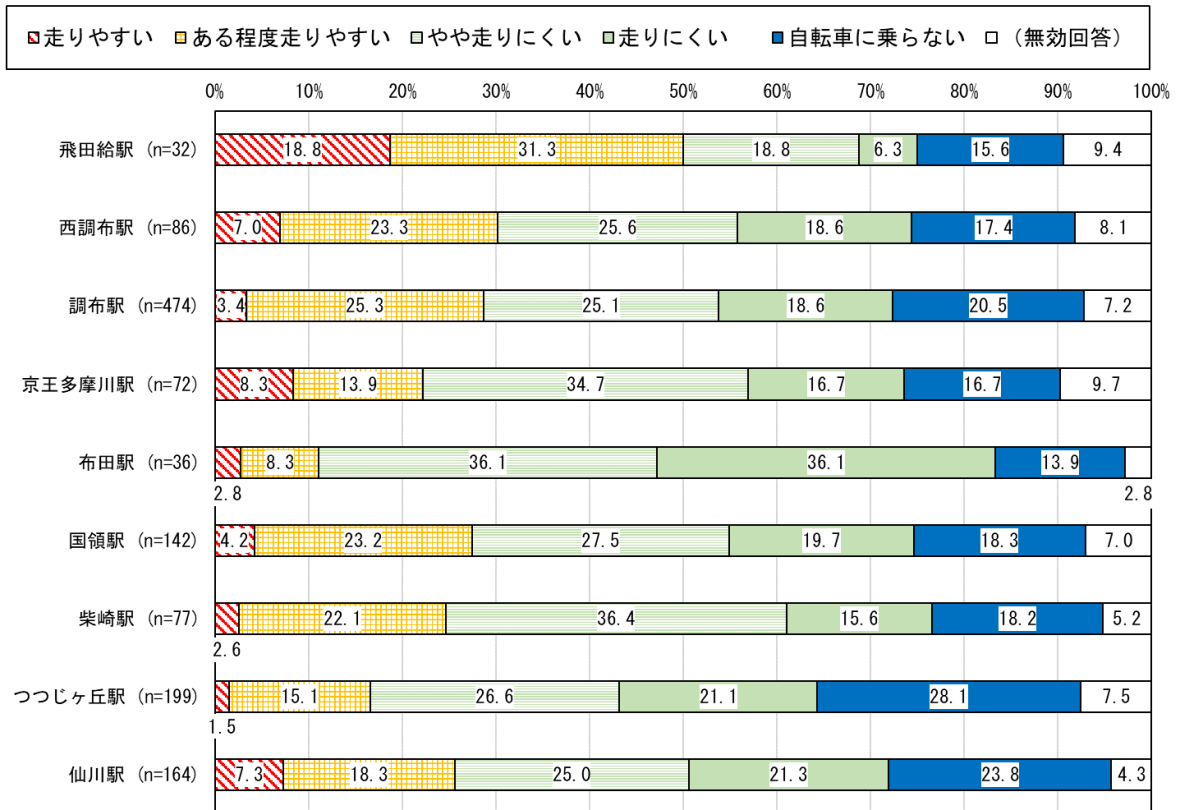
○徒歩について、布田駅では「やや歩きにくい」と「歩きにくい」の合計が63.9%を占めています。

○自転車においても、布田駅では「やや走りにくい」と「走りにくい」の合計が72.2%を占めています。

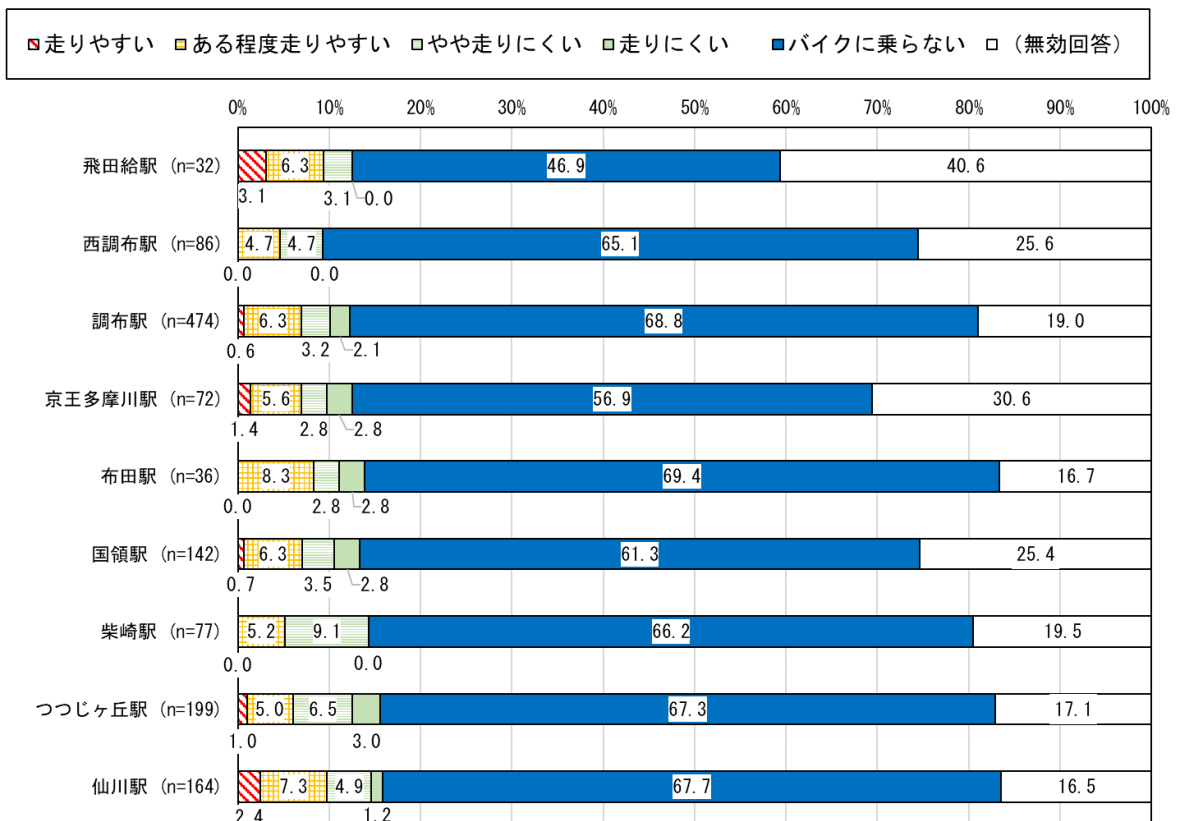
ア 徒歩



イ 自転車

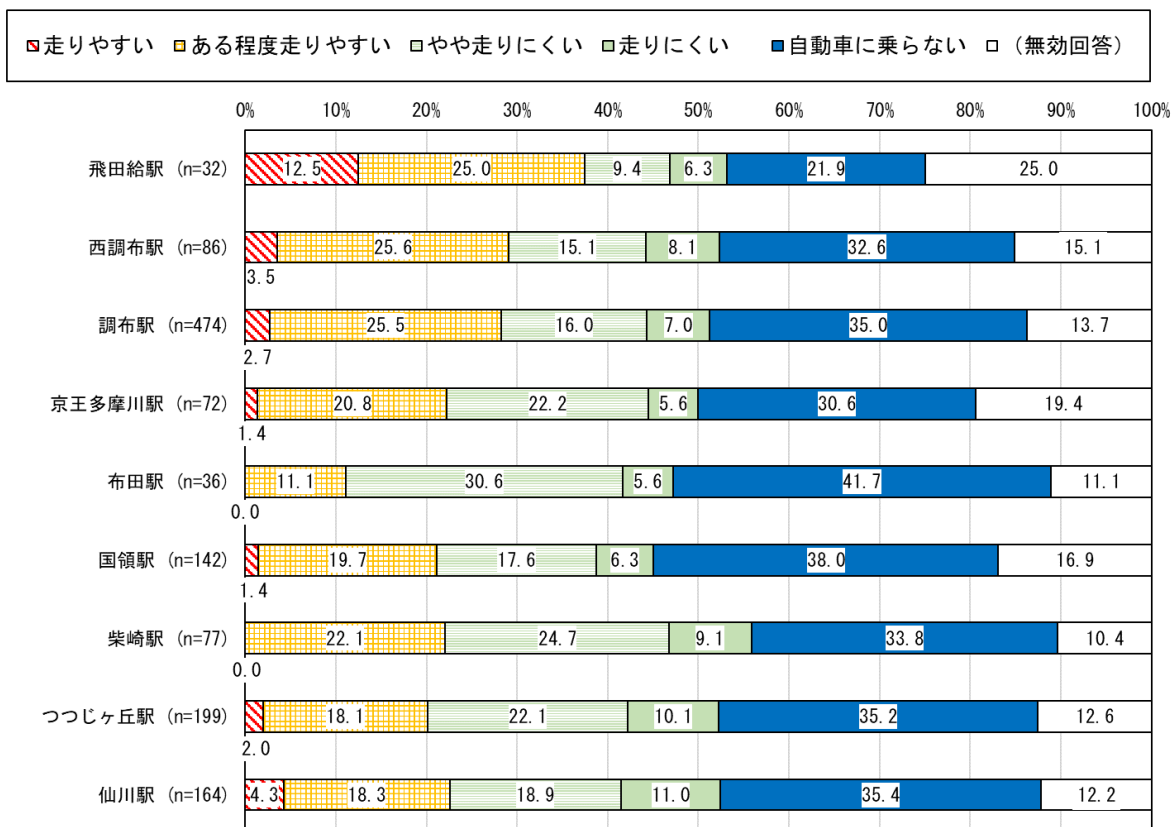


ウ バイク

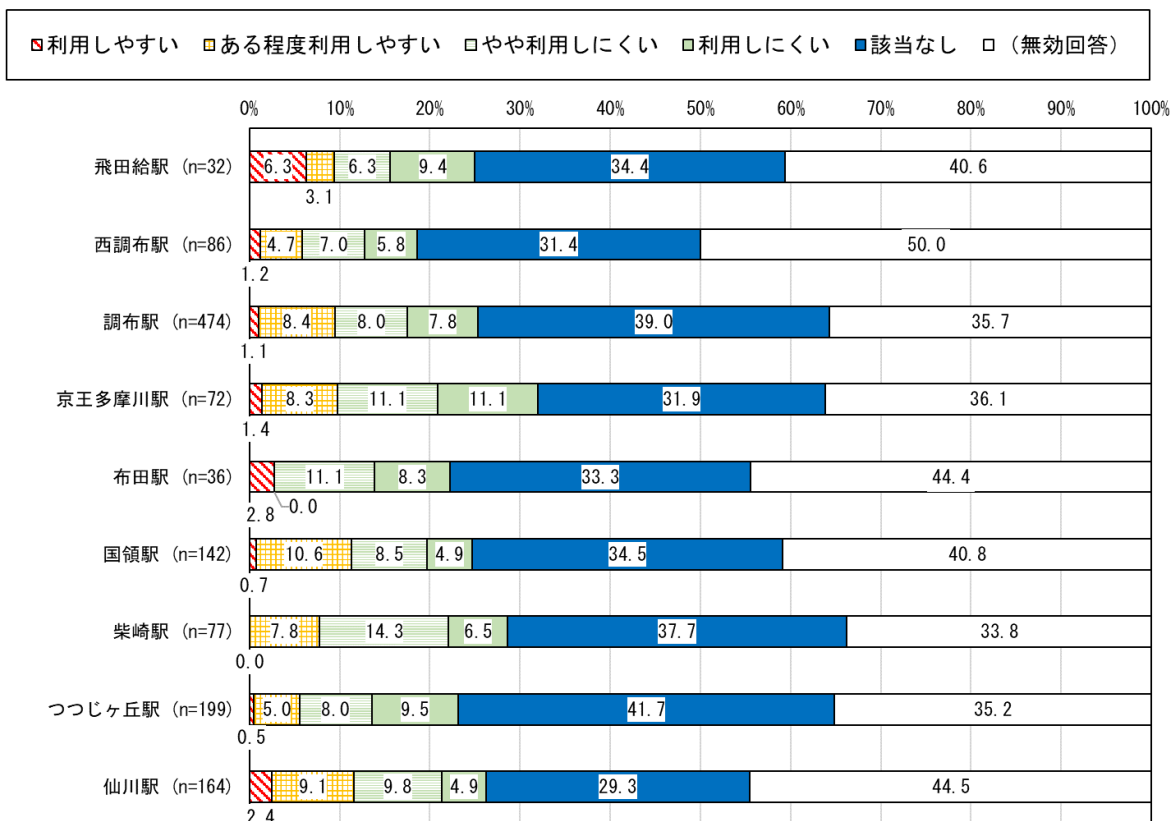


第3章 調査結果<日ごろの意識や行動>

エ 自動車



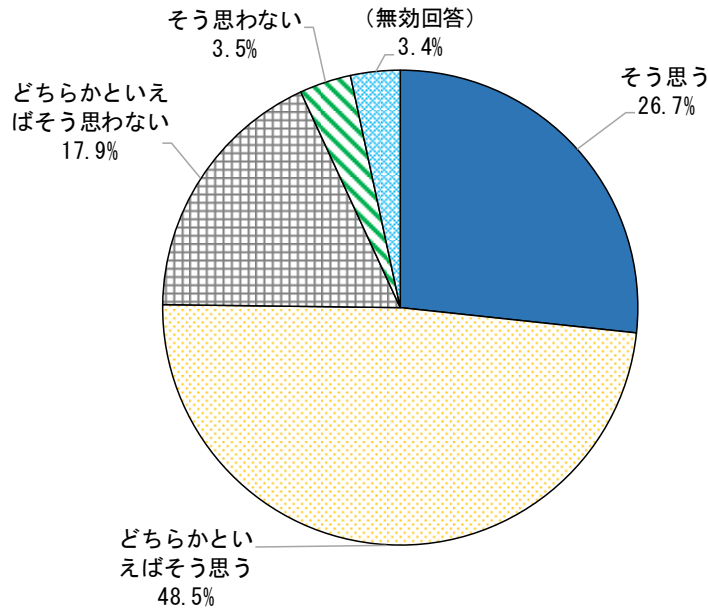
オ その他 (車いすやベビーカーなど)



問 55) あなたは、市内の公共交通機関（電車・路線バス・ミニバス）について利用しやすいと思いますか。

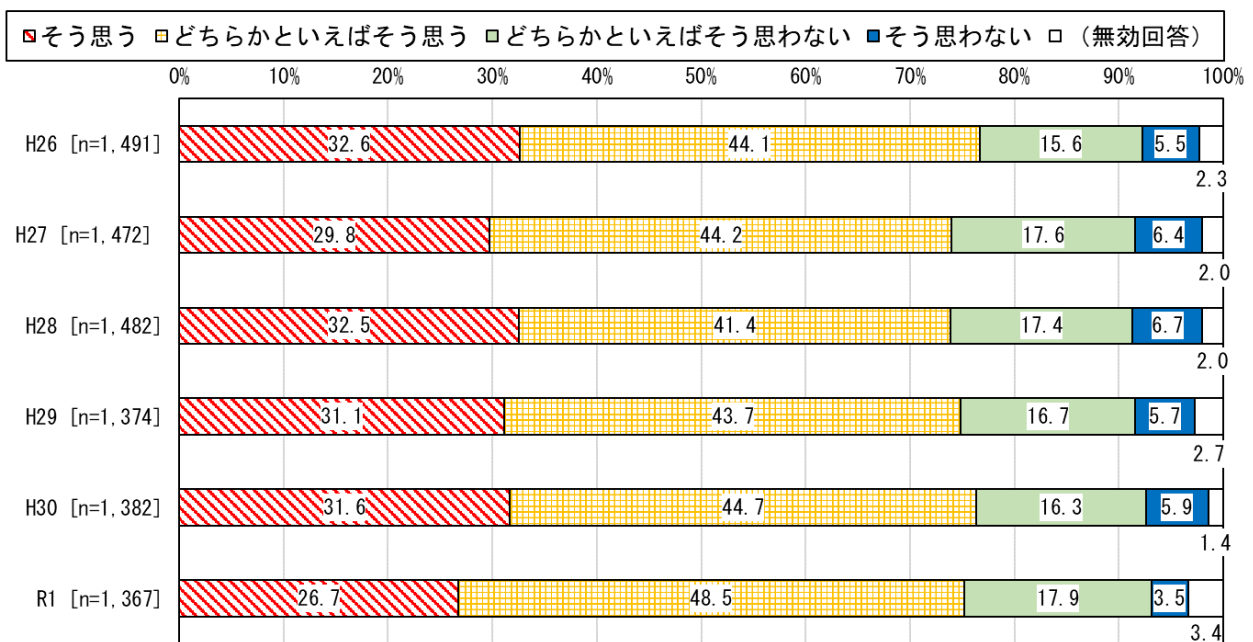
<全体 (n=1,367) >

○「そう思う」が26.7%、「どちらかといえばそう思う」が48.5%で、合計で75.2%を占めています。



<経年比較>

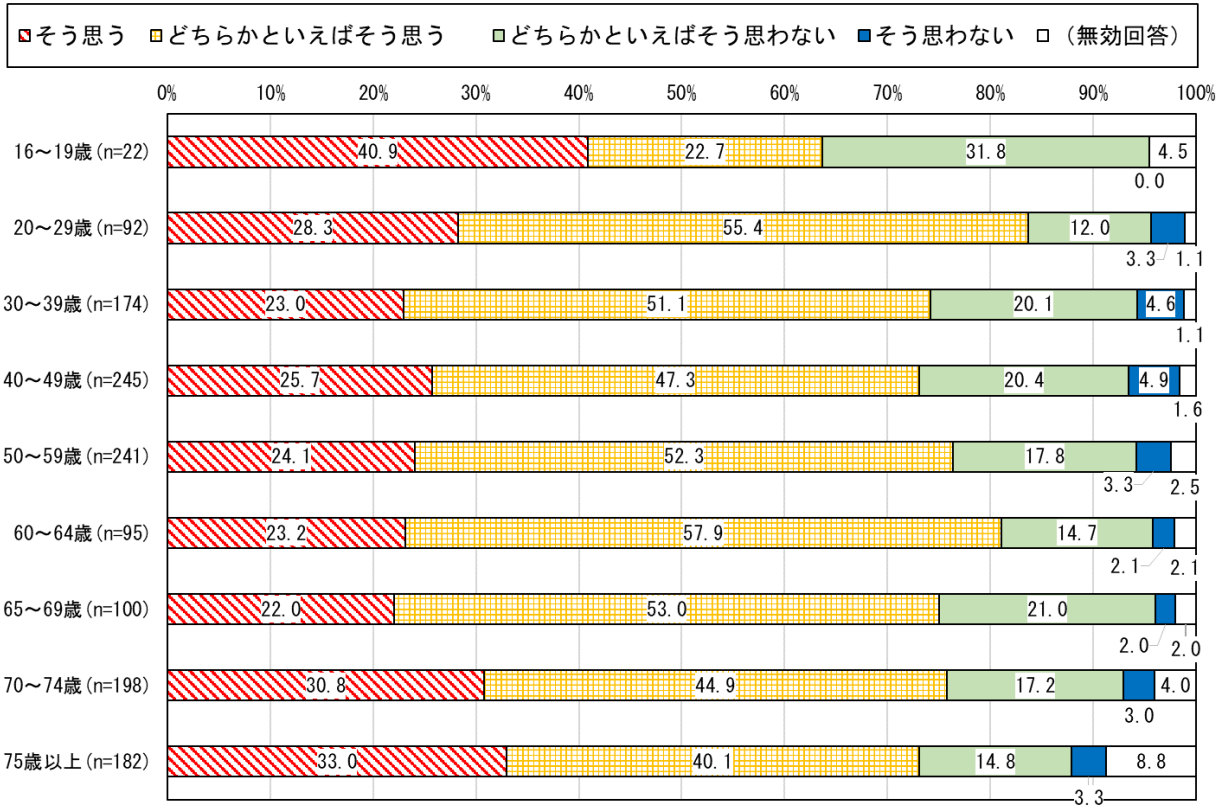
○「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計は、平成26年度以降、いずれも70%台で推移しています。



第3章 調査結果<日ごろの意識や行動>

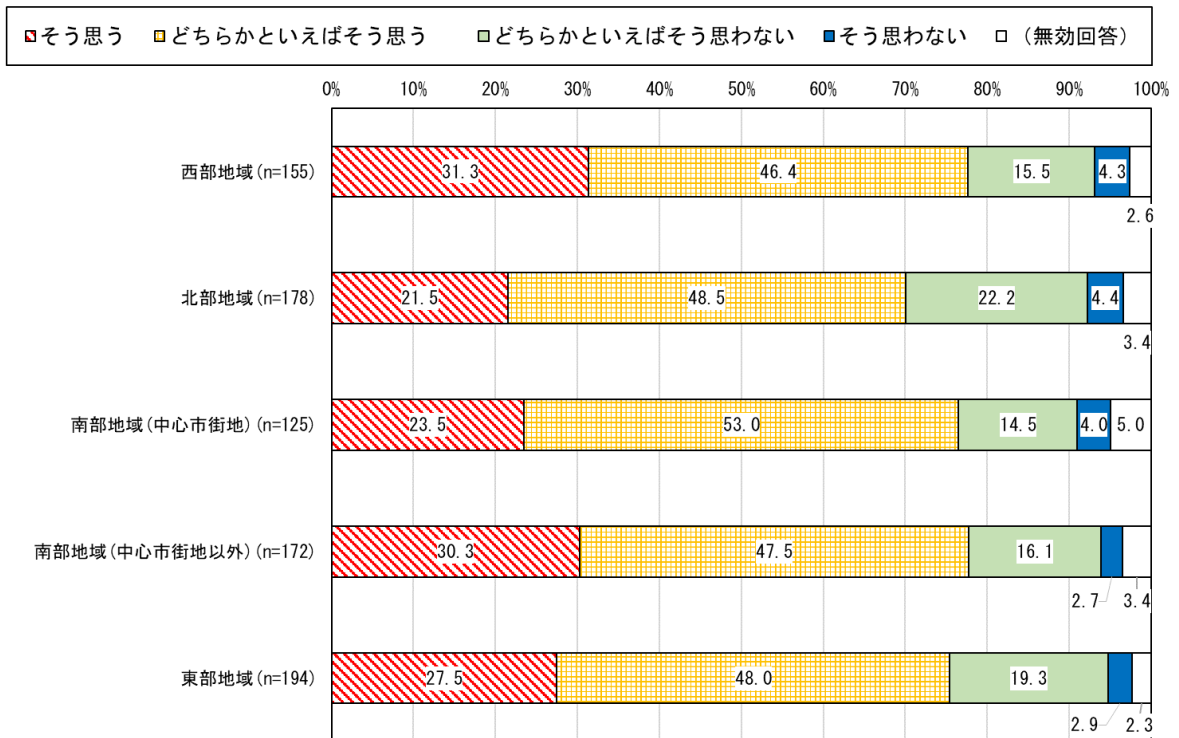
<年齢層別>

○20～29歳が、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計が83.7%と最も高く、次いで60～64歳の81.1%、50～59歳の76.4%の順となっています。



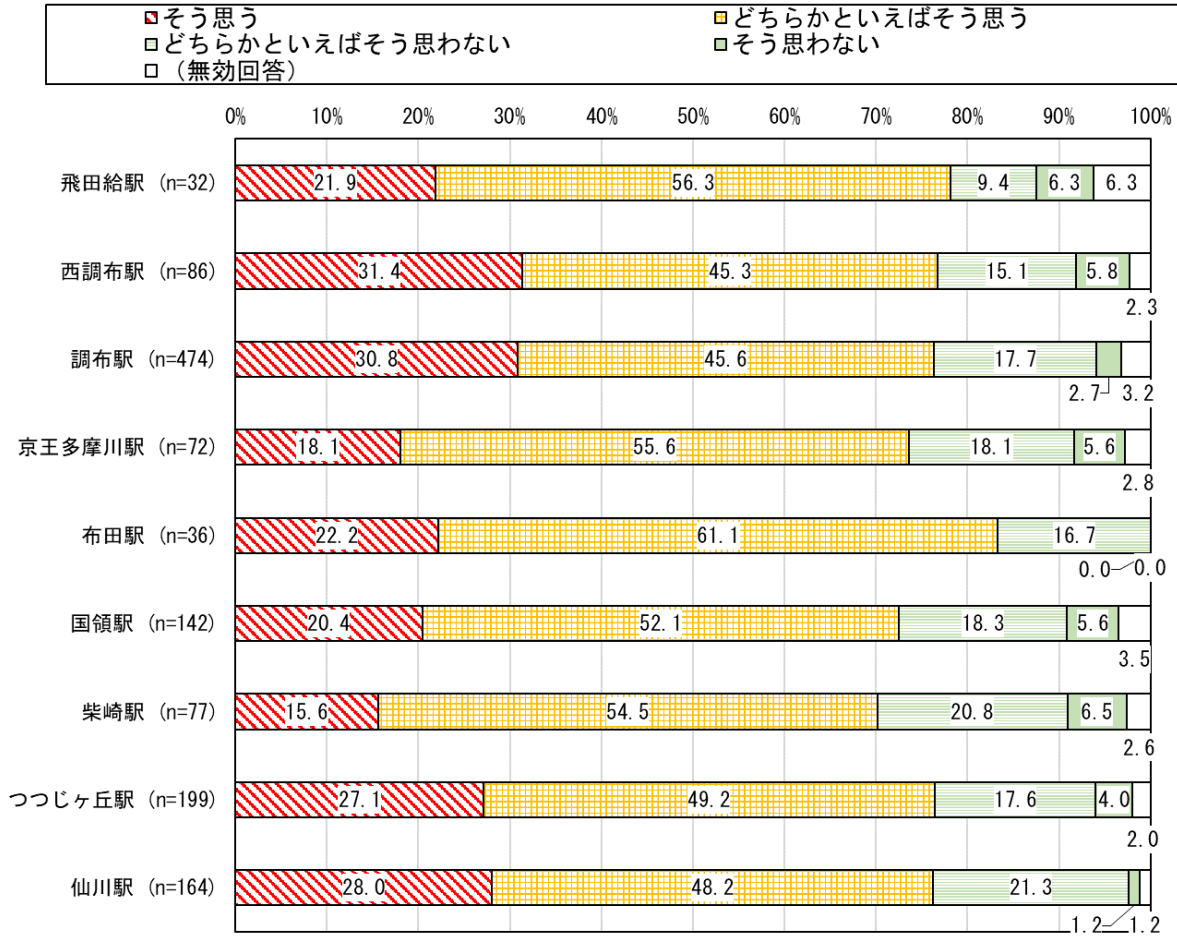
<地域別>

○いずれの地域でも、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計が70%台となっています。
 ○北部地域と東部地域では、「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」の合計が20%台で、他地域に比べて高くなっています。



<利用駅別>

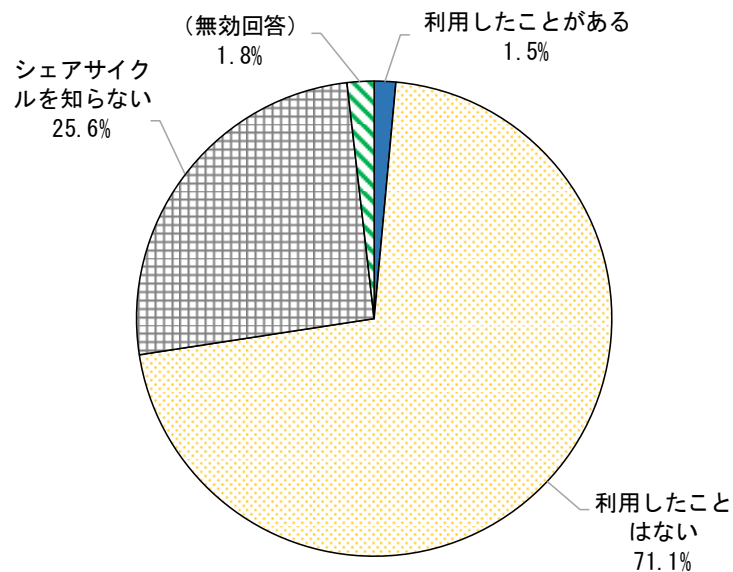
○いずれの駅でも、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計が70%以上を占めています。



問 56) あなたは、シェアサイクルを利用したことがありますか。

<全体 (n=1,367)>

○「利用したことはない」が71.1%で最も高く、「シェアサイクルを知らない」が25.6%でこれに次いでいます。

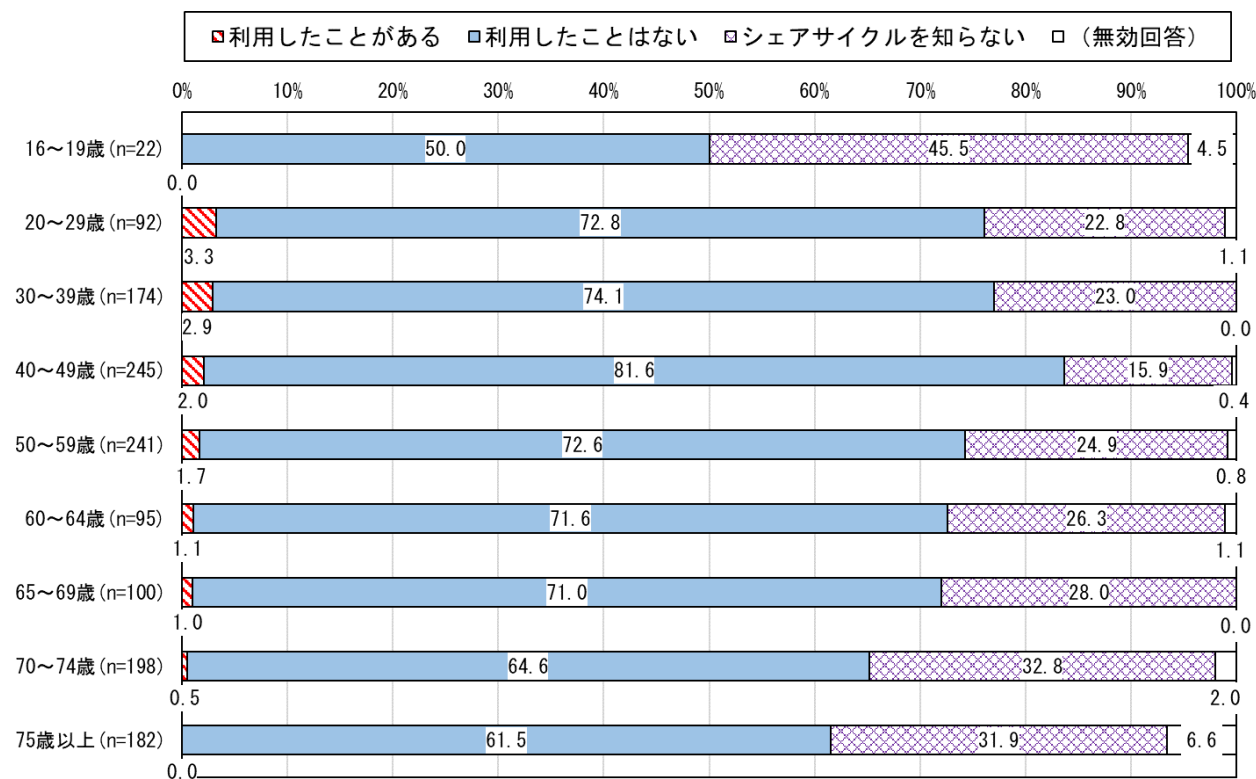


第3章 調査結果<日ごろの意識や行動>

<年齢層別>

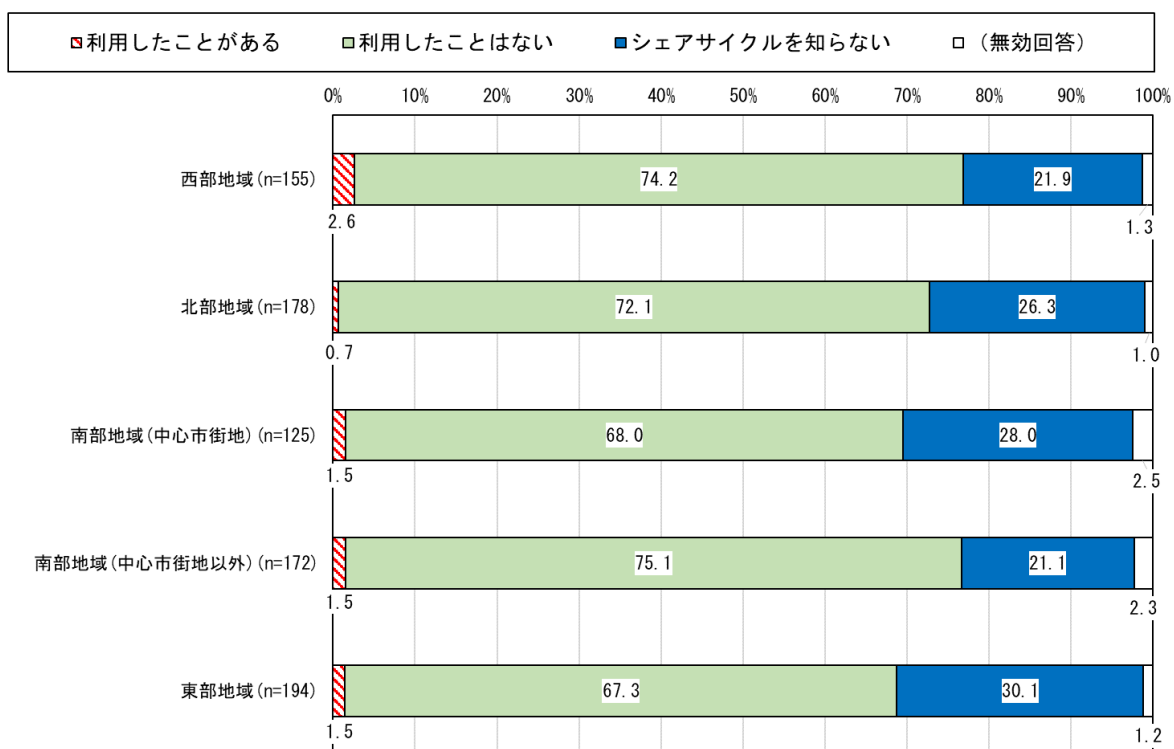
○いずれの年齢層についても、「利用したことがある」は5%未満となっています。

○40歳以降では、年齢層が上がるにつれて「シェアサイクルを知らない」が高くなっています。



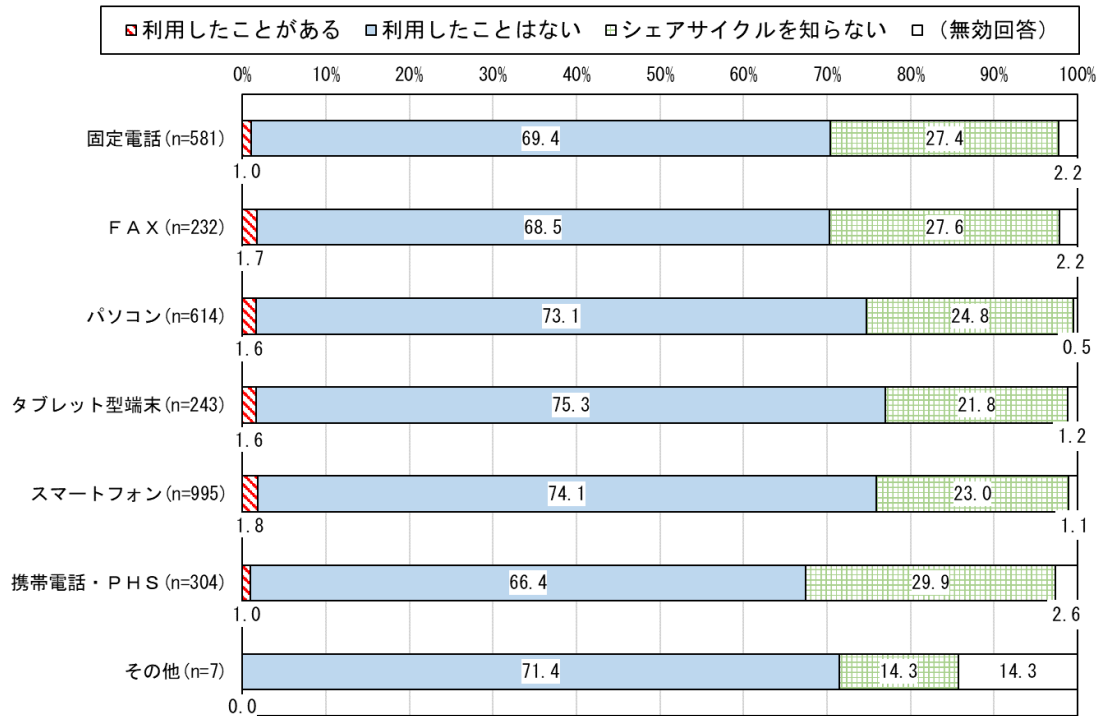
<地域別>

○シェアサイクルの利用経験の有無などに大きな地域差はありません。



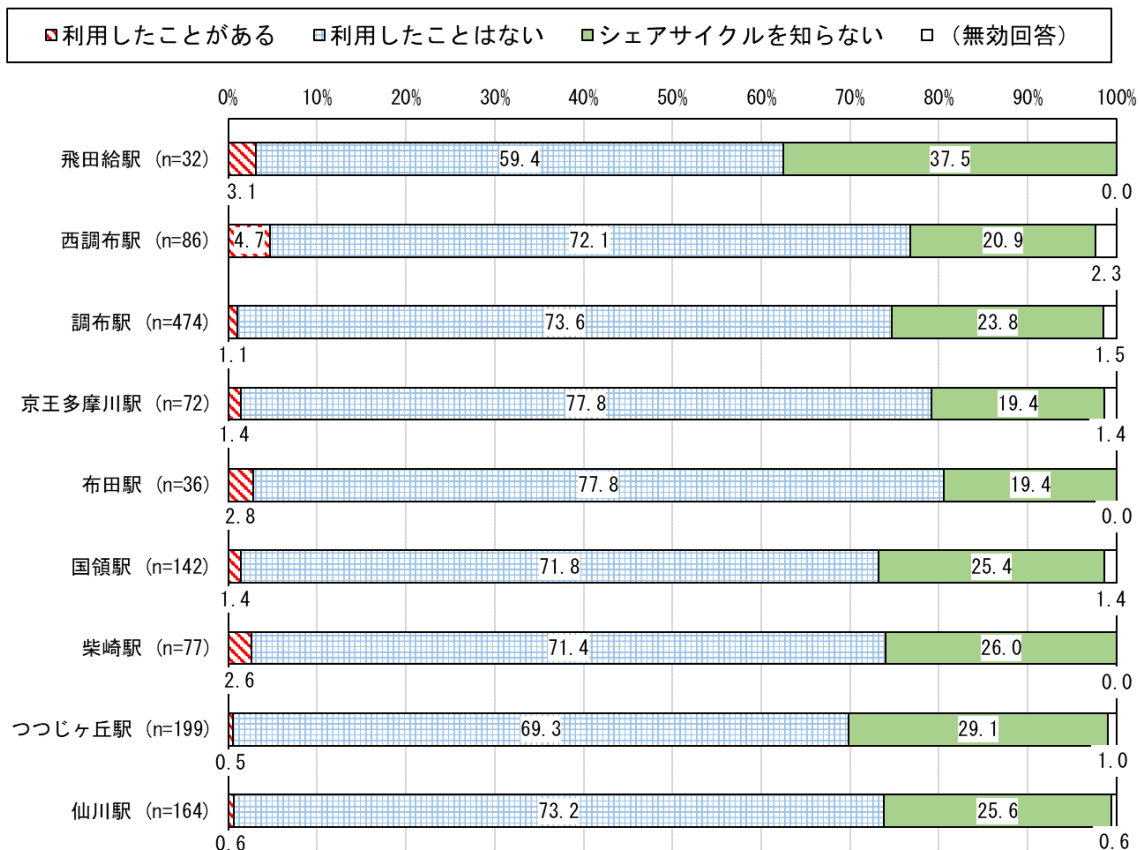
<情報通信機器別>

○主に使っている情報通信機器の違いによる、シェアサイクルの利用の有無に大きな差異はありません。



<利用駅別>

○西調布駅では「利用したことがある」が4.7%で、市内の駅の中では最も高くなっており、次いで、飛田給駅の3.1%となっています。一方、飛田給駅での「シェアサイクルを知らない」が37.5%と他の駅に比べて高くなってしています。

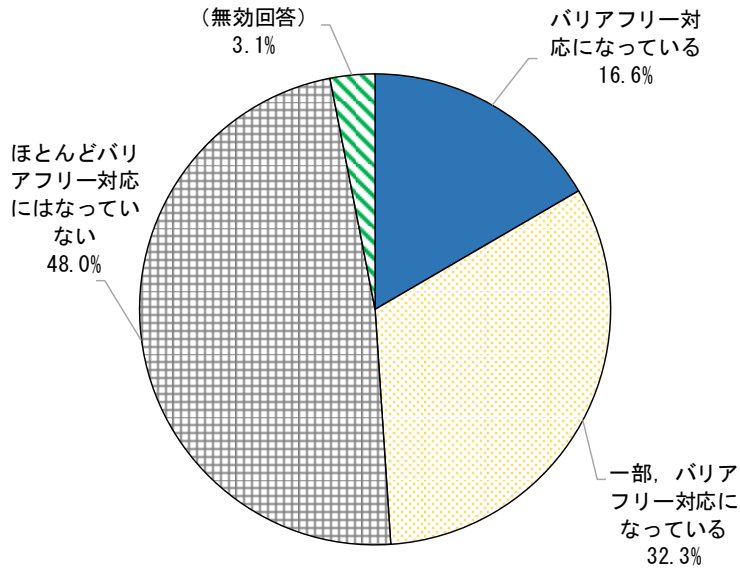


【住環境づくりについて】

問 57) あなたの住んでいる住居はバリアフリー（段差解消やスロープの設置など）対応になっていますか。

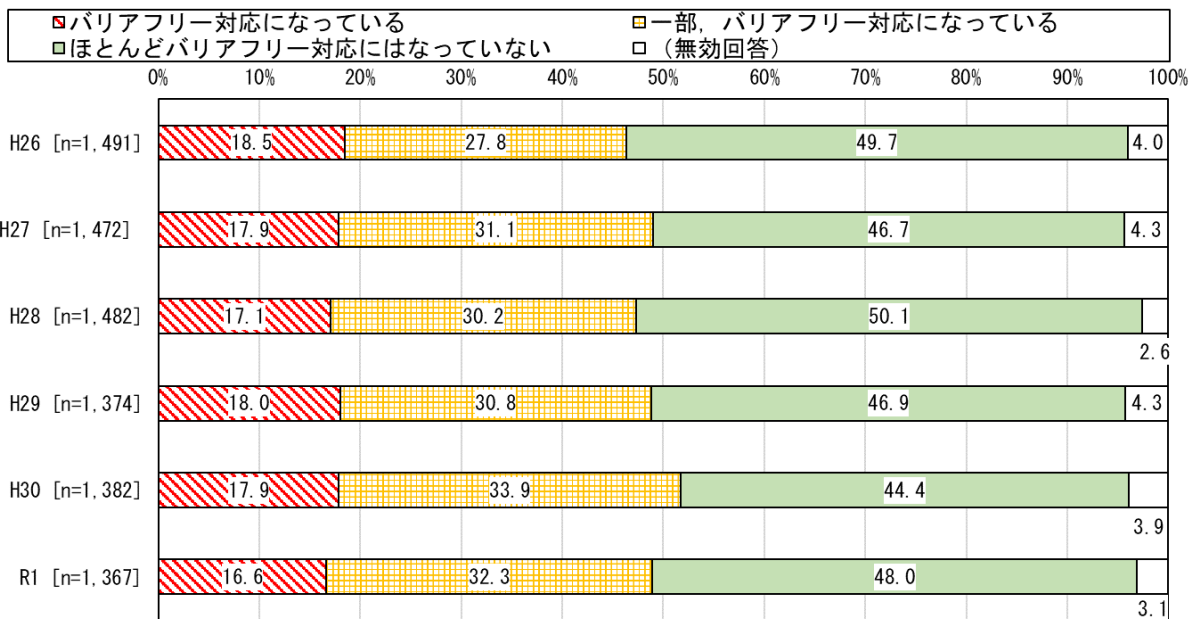
<全体 (n=1,367) >

○「バリアフリー対応になっている」が16.6%、「一部、バリアフリー対応になっている」が32.3%で、合計48.9%を占めています。



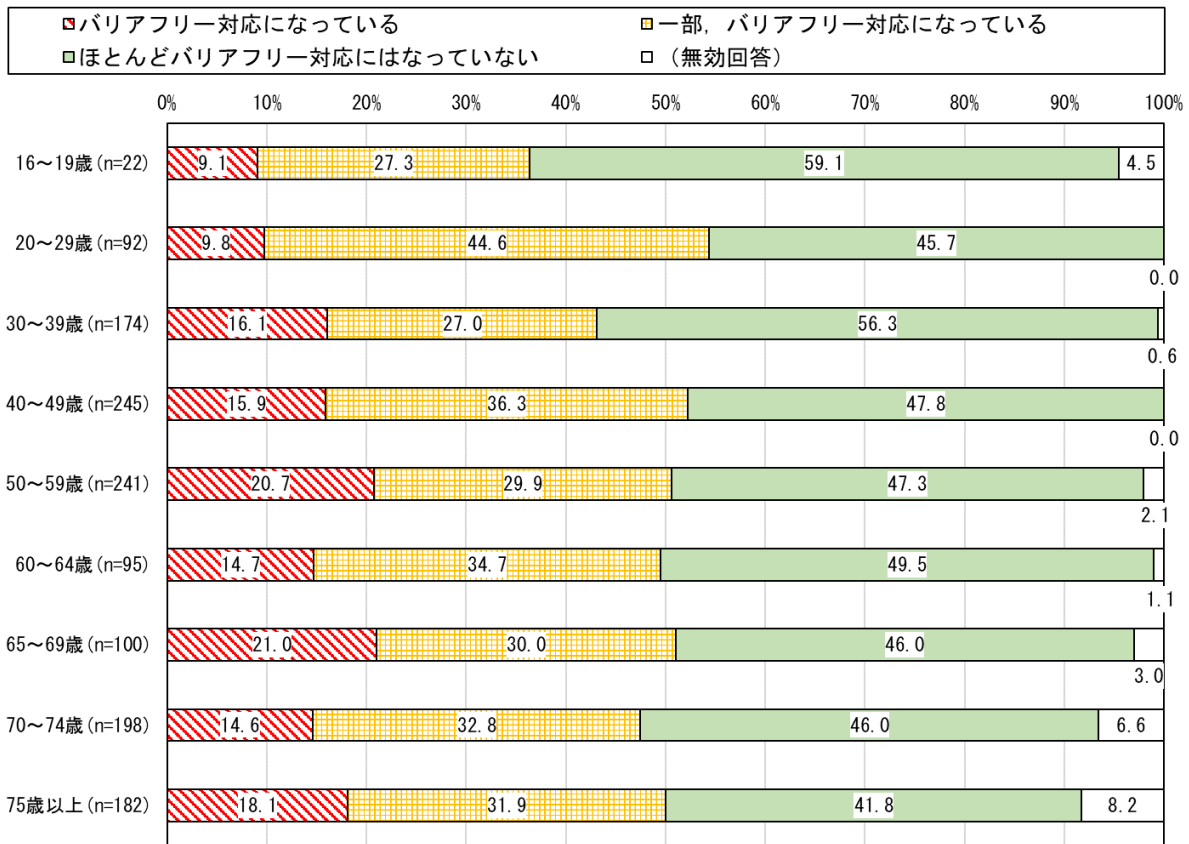
<経年比較>

○平成26～28年度までは、「バリアフリー対応になっている」と「一部、バリアフリー対応になっている」の合計は、「ほとんどバリアフリー対応にはなっていない」を下回っていたものの、平成29年度以降は逆転しています。



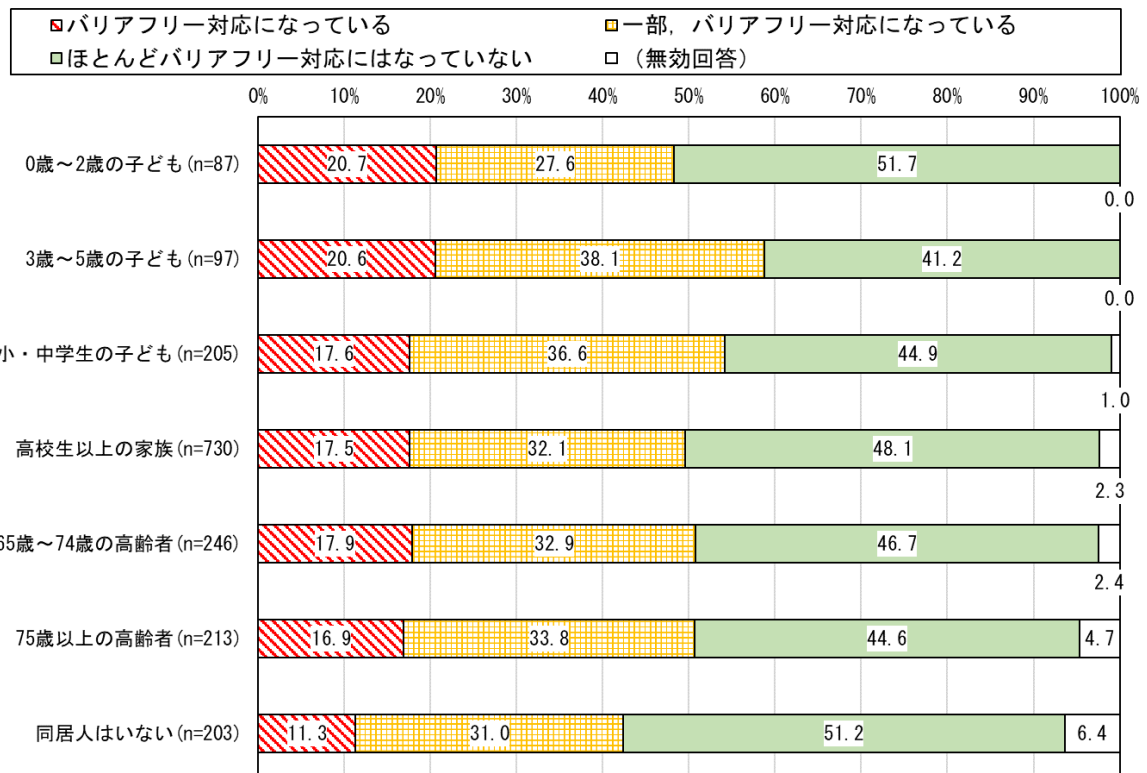
<年齢層別>

○20～29歳、40～59歳、65～69歳、75歳以上では、「バリアフリー対応になっている」と「一部、バリアフリー対応になっている」の合計が50%台となっています。



<家族構成別>

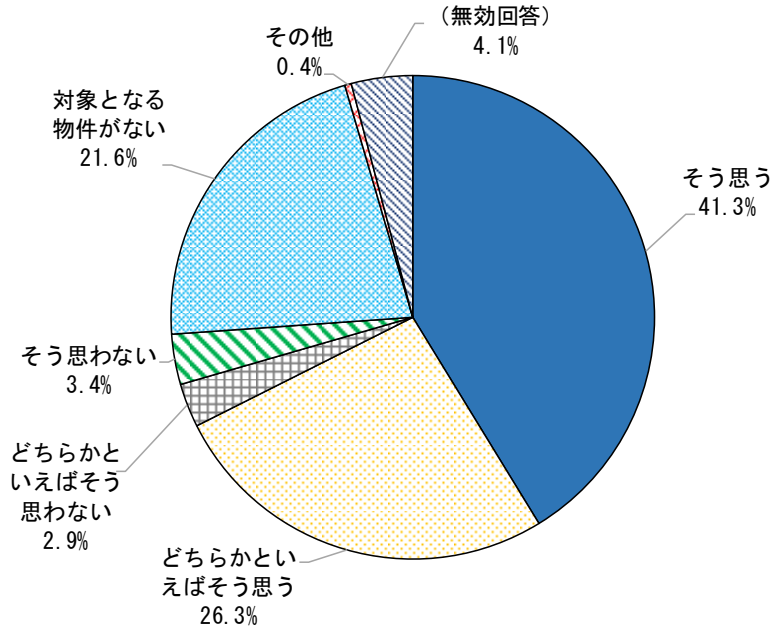
○「バリアフリー対応になっている」と「一部、バリアフリー対応になっている」の合計は、「3～5歳の子ども」が58.7%で最も高く、次いで「小・中学生の子ども」の54.2%の順となっています。



問 58) あなたは、あなた自身や家族・親戚が所有する市内の物件が、適切な管理が行われていない空き家とならないための対策が必要だと思いますか。

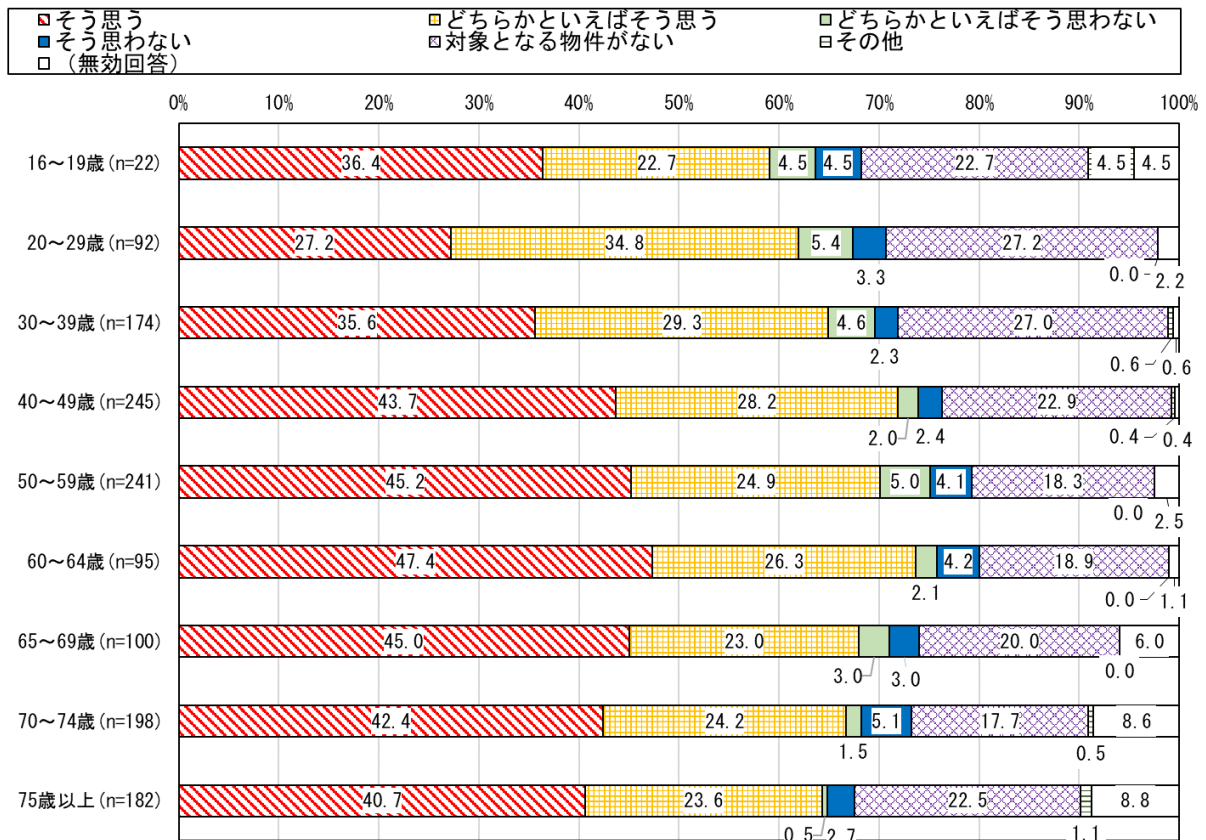
<全体 (n=1,367) >

○「そう思う」が41.3%、「どちらかといえばそう思う」が26.3%で、合計67.6%を占めています。



<年齢層別>

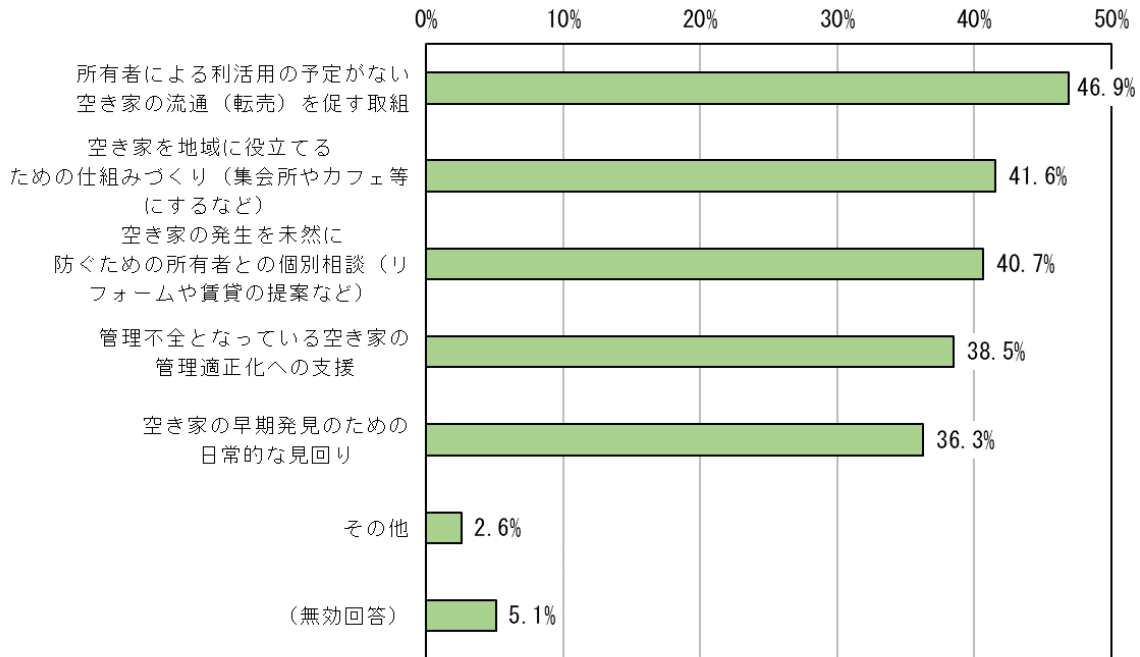
○40～64歳では、いずれも「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計が70%台となっています。



問 58-1) あなたは、空き家対策として、今後、市が優先して取り組むべきことは何だと思えますか。

<全体 (n=1,367)>

○「所有者による利活用の予定がない空き家の流通（転売）を促す取組」が 46.9%で最も高く、次いで「空き家を地域に役立てるための仕組みづくり（集会所やカフェ等にするなど）」の 41.6%、「空き家の発生を未然に防ぐための所有者との個別相談（リフォームや賃貸の提案など）」の 40.7%の順となっています。



<年齢層別>

○16～19歳、30～59歳、70～74歳では、「所有者による利活用の予定がない空き家の流通（転売）を促す取組」、60～69歳では、「管理不全となっている空き家の管理適正化（除草、建物除却など）への支援」が最も高くなっています。

選択肢	合計	16～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75歳以上
全体	1,367 100.0%	22 100.0%	92 100.0%	174 100.0%	245 100.0%	241 100.0%	95 100.0%	100 100.0%	198 100.0%	182 100.0%
所有者による利活用の予定がない空き家の流通（転売）を促す取組	641 46.9%	10 45.5%	36 39.1%	106 60.9%	120 49.0%	124 51.5%	43 45.3%	37 37.0%	88 44.4%	72 39.6%
空き家を地域に役立てるための仕組みづくり（集会所やカフェ等にするなど）	568 41.6%	4 18.2%	33 35.9%	80 46.0%	112 45.7%	105 43.6%	42 44.2%	40 40.0%	72 36.4%	74 40.7%
空き家の発生を未然に防ぐための所有者との個別相談（リフォームや賃貸の提案など）	556 40.7%	6 27.3%	39 42.4%	67 38.5%	104 42.4%	105 43.6%	40 42.1%	37 37.0%	78 39.4%	74 40.7%
管理不全となっている空き家の管理適正化（除草、建物除却など）への支援	526 38.5%	8 36.4%	27 29.3%	69 39.7%	98 40.0%	94 39.0%	47 49.5%	45 45.0%	69 34.8%	63 34.6%
空き家の早期発見のための日常的な見回り	496 36.3%	8 36.4%	34 37.0%	50 28.7%	90 36.7%	86 35.7%	33 34.7%	30 30.0%	84 42.4%	79 43.4%
その他	35 2.6%	3 13.6%	1 1.1%	6 3.4%	4 1.6%	6 2.5%	1 1.1%	5 5.0%	4 2.0%	4 2.2%
(無効回答)	70 5.1%	1 4.5%	2 2.2%	3 1.7%	2 0.8%	8 3.3%	2 2.1%	6 6.0%	20 10.1%	22 12.1%

(上段：実数(人)，下段：構成比)

回答割合が最も高い：

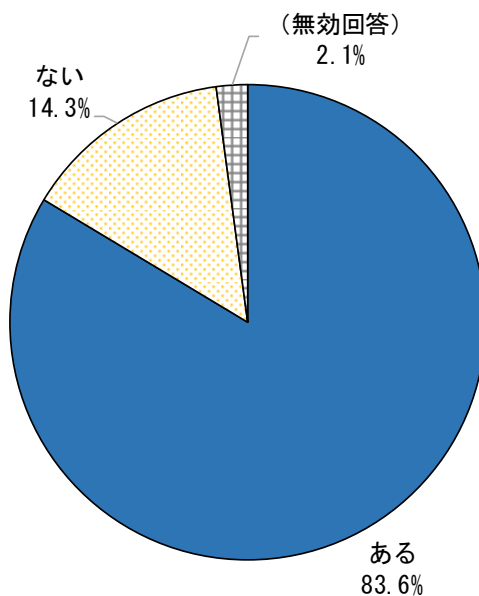
回答割合が2番目に高い：

【平和について】

問 59) あなたは、これまでに戦争中の話をしたり聞いたりしたことがありますか。

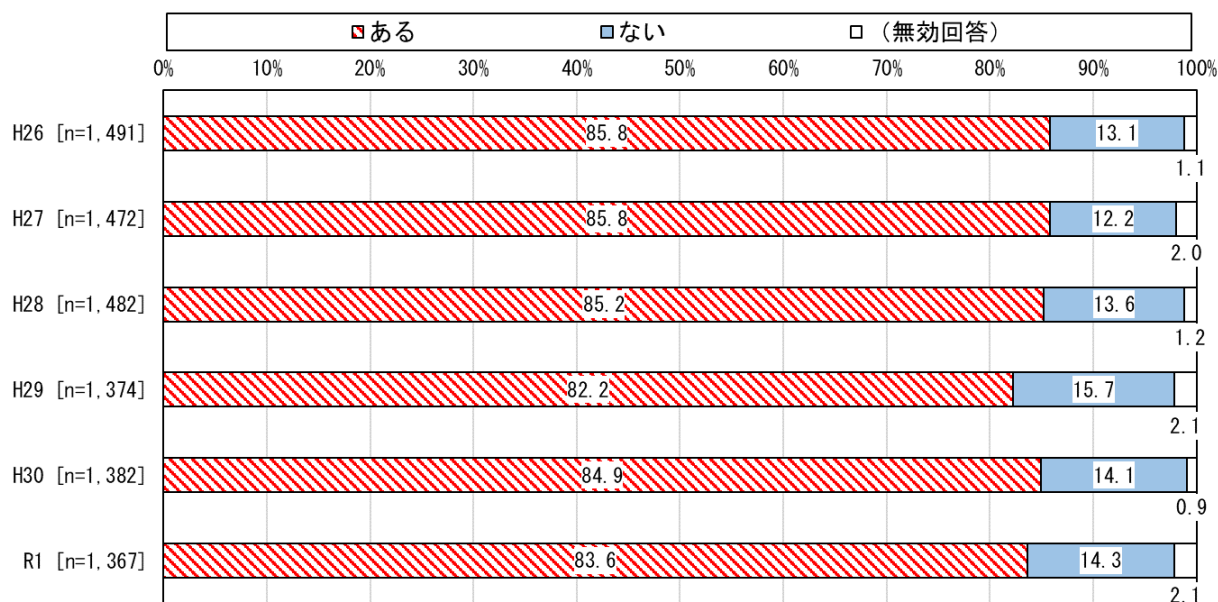
＜全体 (n=1,367)＞

○「ある」が83.6%、「ない」が14.3%となっています。



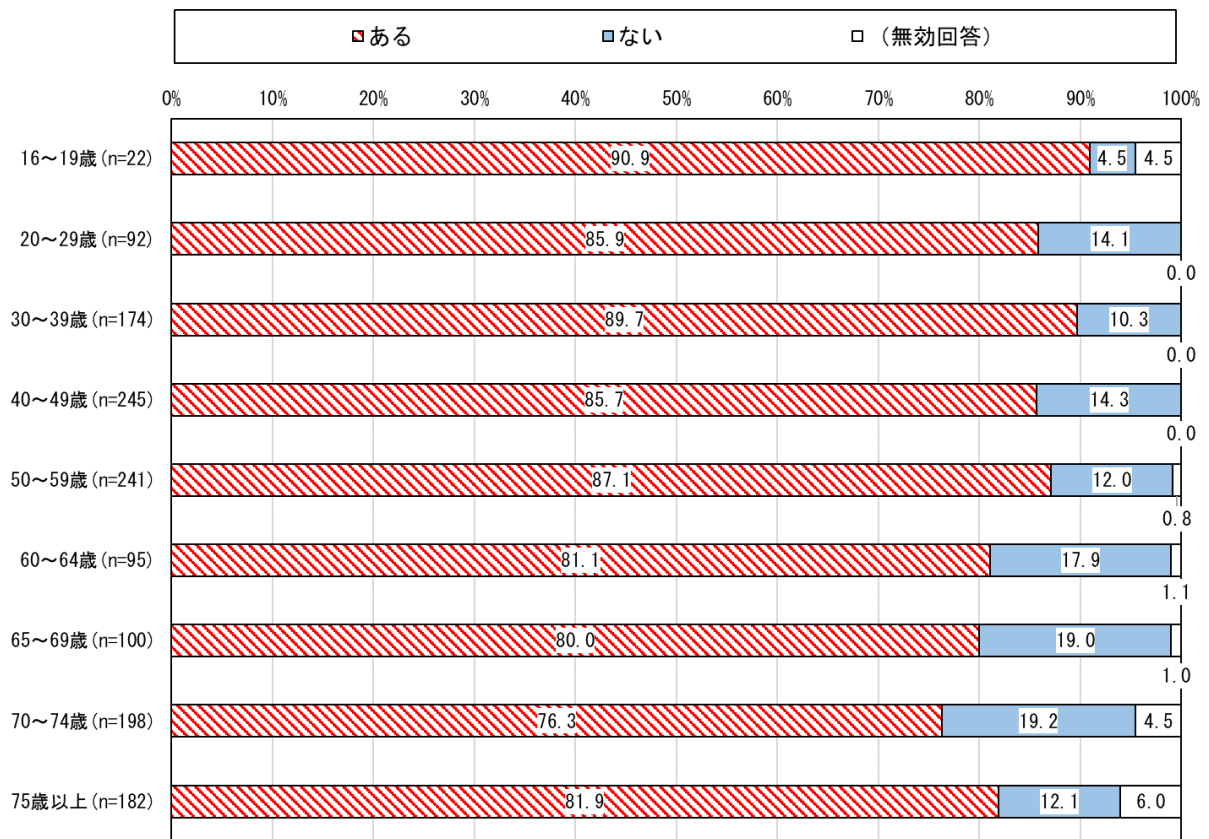
＜経年比較＞

○「ある」は、平成26年度以降、85%前後のおおむね横ばい傾向で推移しています。



<年齢層別>

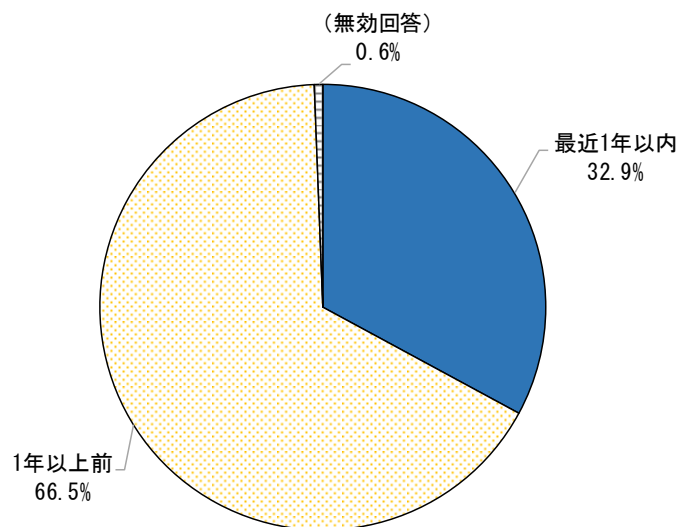
○いずれの年齢層も「ある」がおおむね80~90%となっています。



問 59-1) 戦争中の話をしたり聞いたりしたのはいつ頃ですか。

<全体 (n=1,143) >

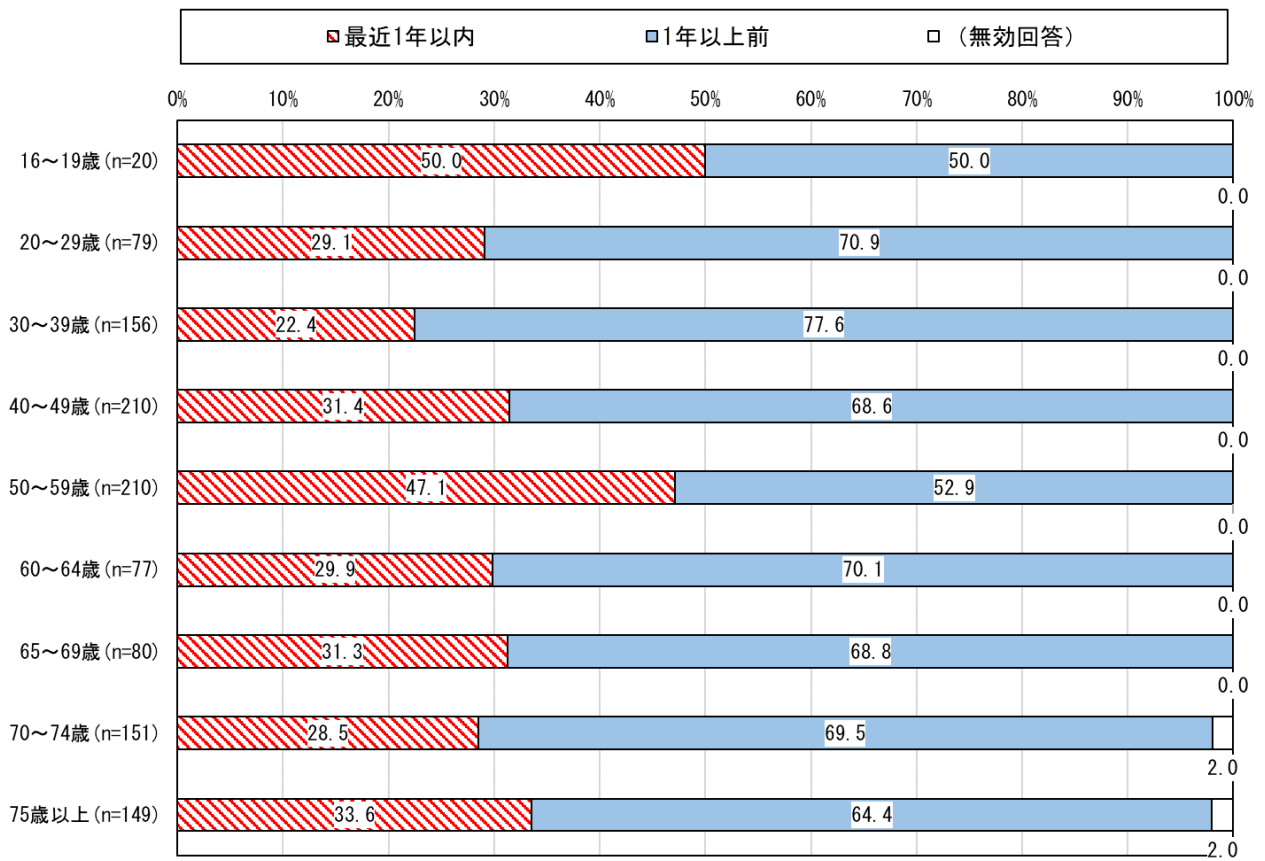
○時期については、「最近1年以内」が32.9%、「1年以上前」が66.5%となっています。



第3章 調査結果<日ごろの意識や行動>

<年齢層別>

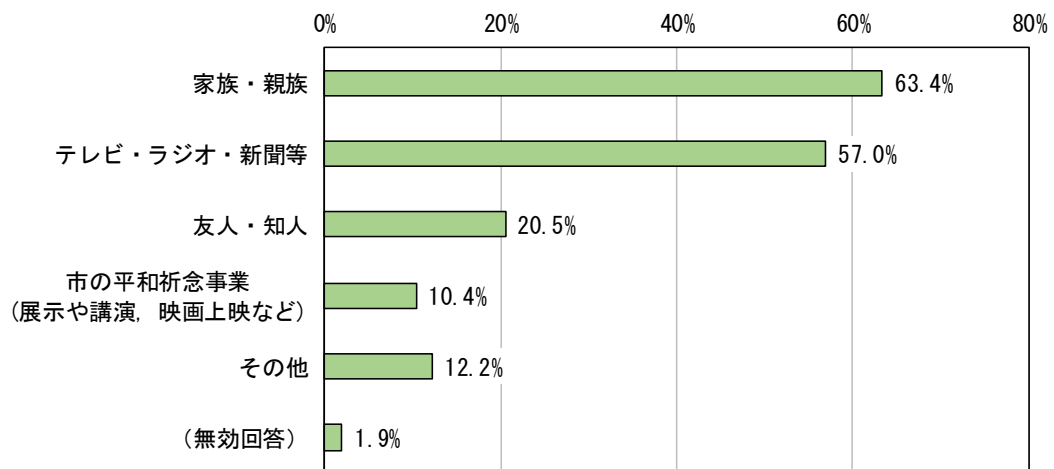
○「最近1年以内」では、16～19歳が50.0%と最も高く、次いで50～59歳の47.1%となっています。



問 59-2) 「誰と (誰から)」戦争中の話をしたり、聞いたりしましたか。

<全体 (n=1,136) >

○相手については、「家族・親族」が63.4%で最も高く、次いで「テレビ・ラジオ・新聞等」の57.0%、「友人・知人」の20.5%の順となっています。



<年齢層別>

○いずれの年齢層も、「家族・親族」と「テレビ・ラジオ・新聞等」が高くなっています。

選択肢	合計	16～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75歳以上
全体	1,136	20	79	156	210	210	77	80	148	146
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
家族・親族	720	8	37	88	130	148	58	54	97	95
	63.4%	40.0%	46.8%	56.4%	61.9%	70.5%	75.3%	67.5%	65.5%	65.1%
テレビ・ラジオ・新聞等	647	8	33	91	112	125	38	49	87	97
	57.0%	40.0%	41.8%	58.3%	53.3%	59.5%	49.4%	61.3%	58.8%	66.4%
友人・知人	233	0	7	18	23	46	8	20	45	65
	20.5%	0.0%	8.9%	11.5%	11.0%	21.9%	10.4%	25.0%	30.4%	44.5%
市の平和祈念事業(展示や講演, 映画上映など)	118	4	8	9	26	21	8	6	16	18
	10.4%	20.0%	10.1%	5.8%	12.4%	10.0%	10.4%	7.5%	10.8%	12.3%
その他	139	7	28	27	32	17	6	6	8	7
	12.2%	35.0%	35.4%	17.3%	15.2%	8.1%	7.8%	7.5%	5.4%	4.8%
(無効回答)	22	1	3	3	3	0	2	2	5	2
	1.9%	5.0%	3.8%	1.9%	1.4%	0.0%	2.6%	2.5%	3.4%	1.4%

(上段：実数(人)，下段：構成比)

回答割合が最も高い：

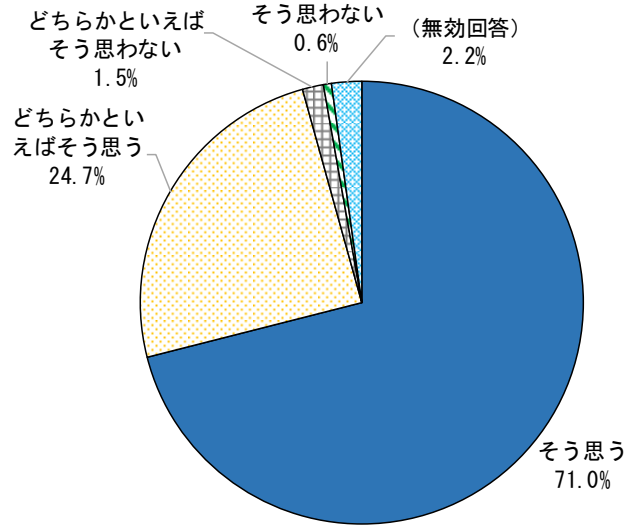
回答割合が2番目に高い：

【人権・男女共同参画について】

問 60) あなたは、家事・子育て・介護などの家庭内での役割は男女がともに担う必要があると思いますか。

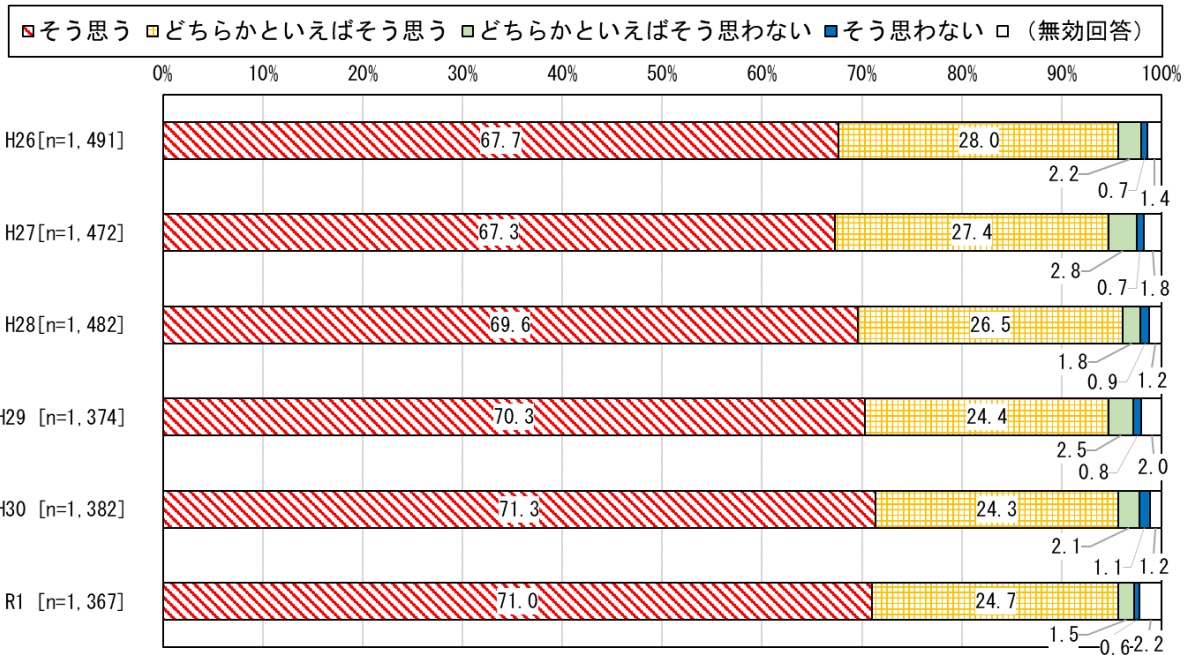
<全体 (n=1,367) >

○「そう思う」が71.0%、「どちらかといえばそう思う」が24.7%で、合計95.7%を占めています。



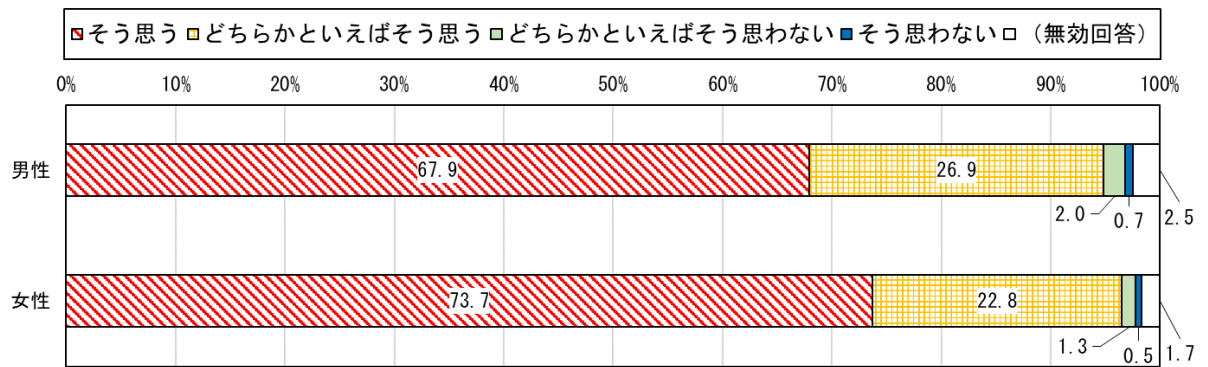
<経年比較>

○「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計は、平成26年度以降、一貫して95%前後で推移しています。



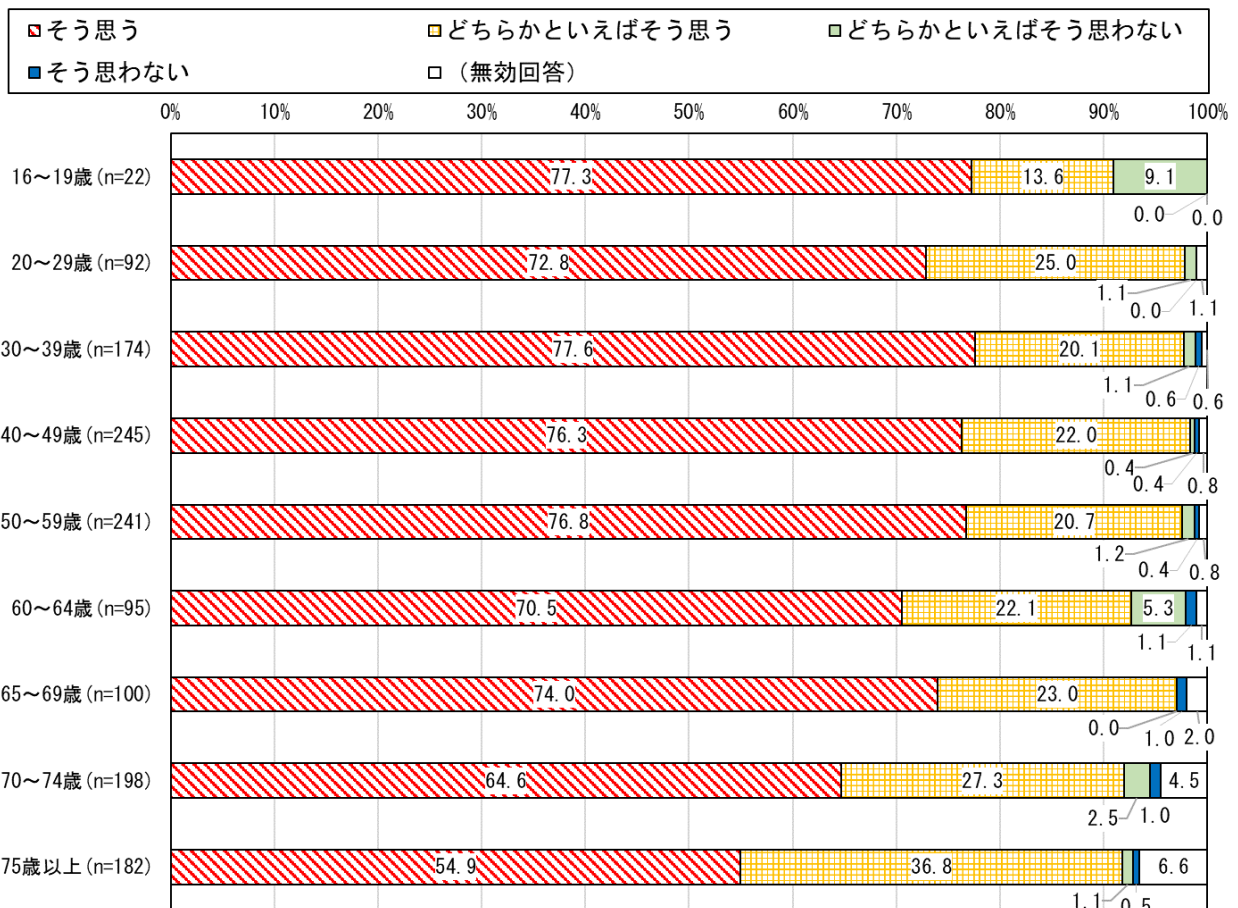
<性別>

○「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計は、男性が94.8%、女性が96.5%できつ抗していますが、「そう思う」は、女性が男性を11.8ポイント上回っています。



<年齢層別>

○いずれの年齢層でも、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計が90%台となっています。

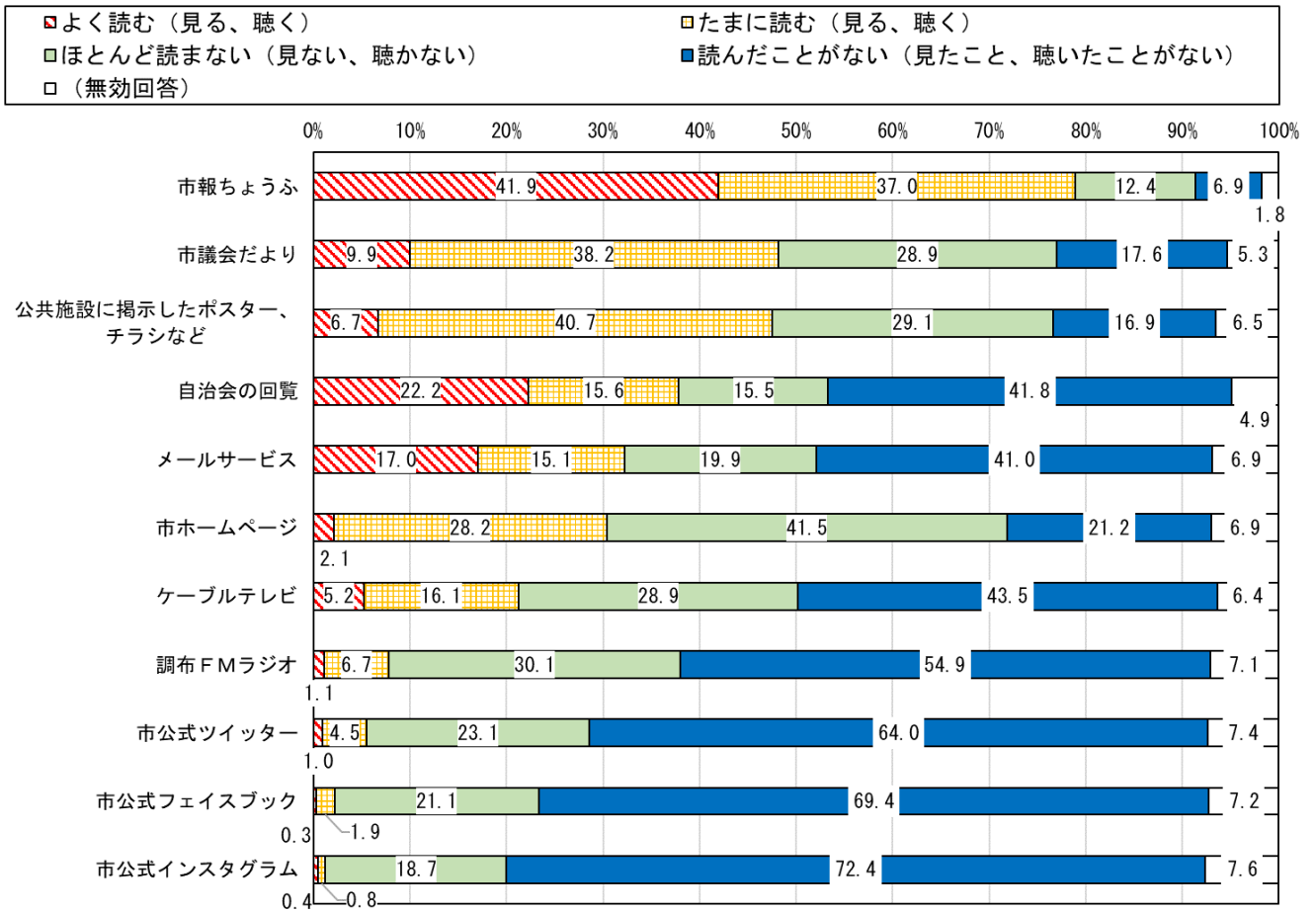


【市政等の情報について】

問 61) あなたの市政・まちづくりに関する情報の入手方法をうかがいます。

<全体 (n=1,367) >

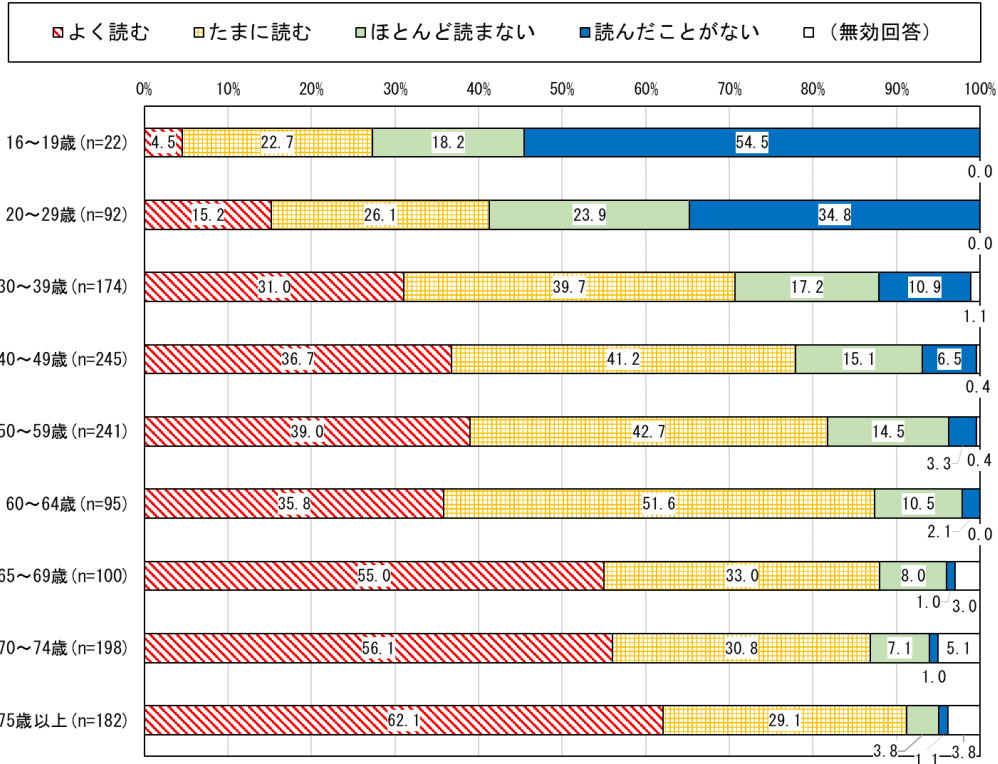
- 「よく読む・見る・聴く」と「たまに読む・見る・聴く」の合計は、「市報ちょうふ」が78.9%で最も高く、次いで「市議会だより」の48.1%、「公共施設に掲示したポスター、チラシなど」の47.4%の順となっています。
- 一方、「読んだことがない・見たことがない・聴いたことがない」と「ほとんど読まない・見ない・聴かない」の合計は、「市公式Instagram」が91.1%で最も高く、次いで「市公式フェイスブック」の90.5%の順となっています。



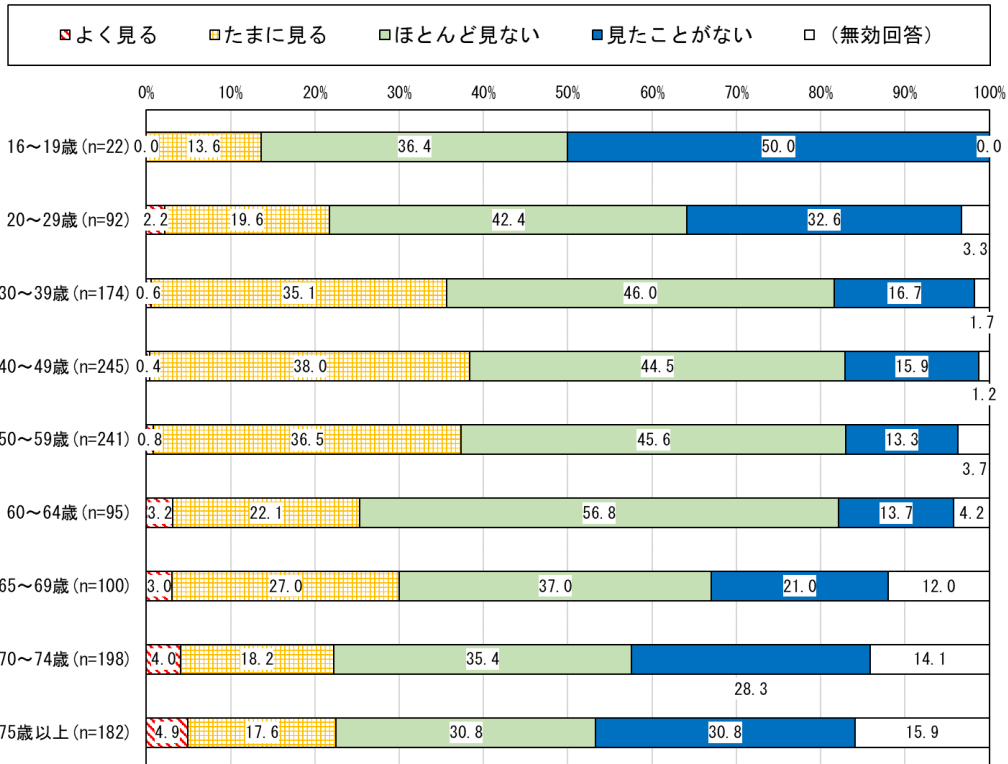
<年齢層別>

- 「市報ちようふ」と「市議会だより」については、年齢層が上がるにつれて「よく読む・見る・聴く」と「たまに読む・見る・聴く」の合計が高くなっており、特に50歳以上の年齢層では80%を超えています。
- 「メールサービス」では、30～59歳の年齢層の「よく読む・見る・聴く」と「たまに読む・見る・聴く」合計が、他の年齢層に比べて高くなっています。

ア 市報ちようふ

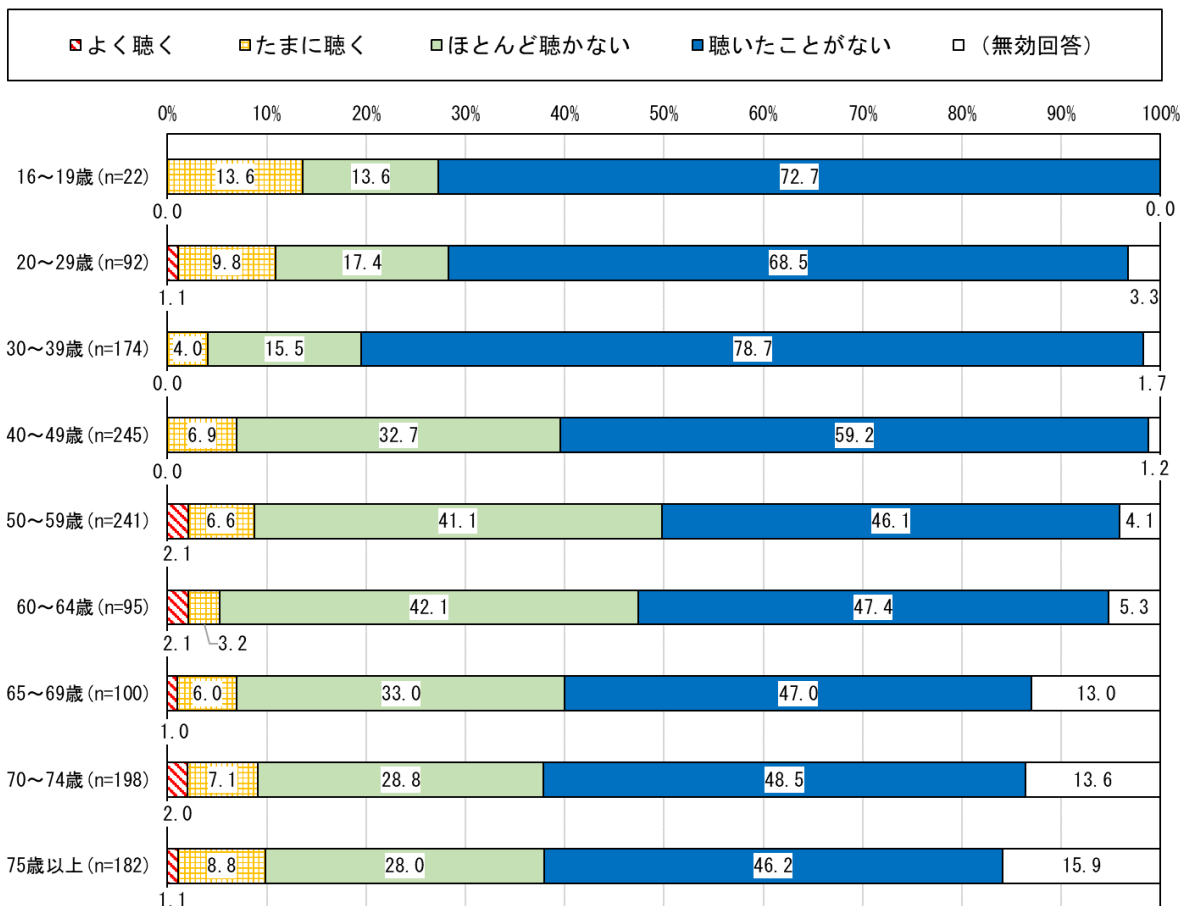


イ 市ホームページ

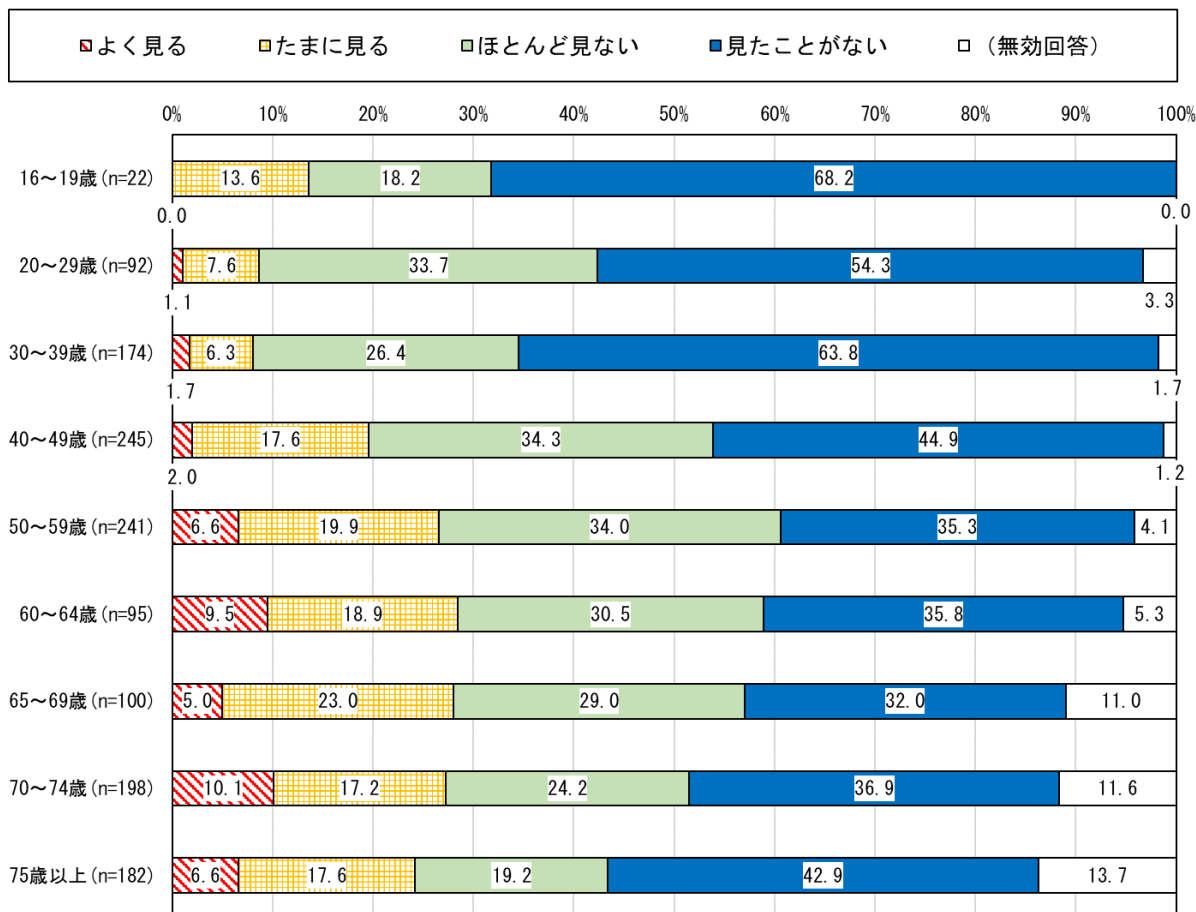


第3章 調査結果<日ごろの意識や行動>

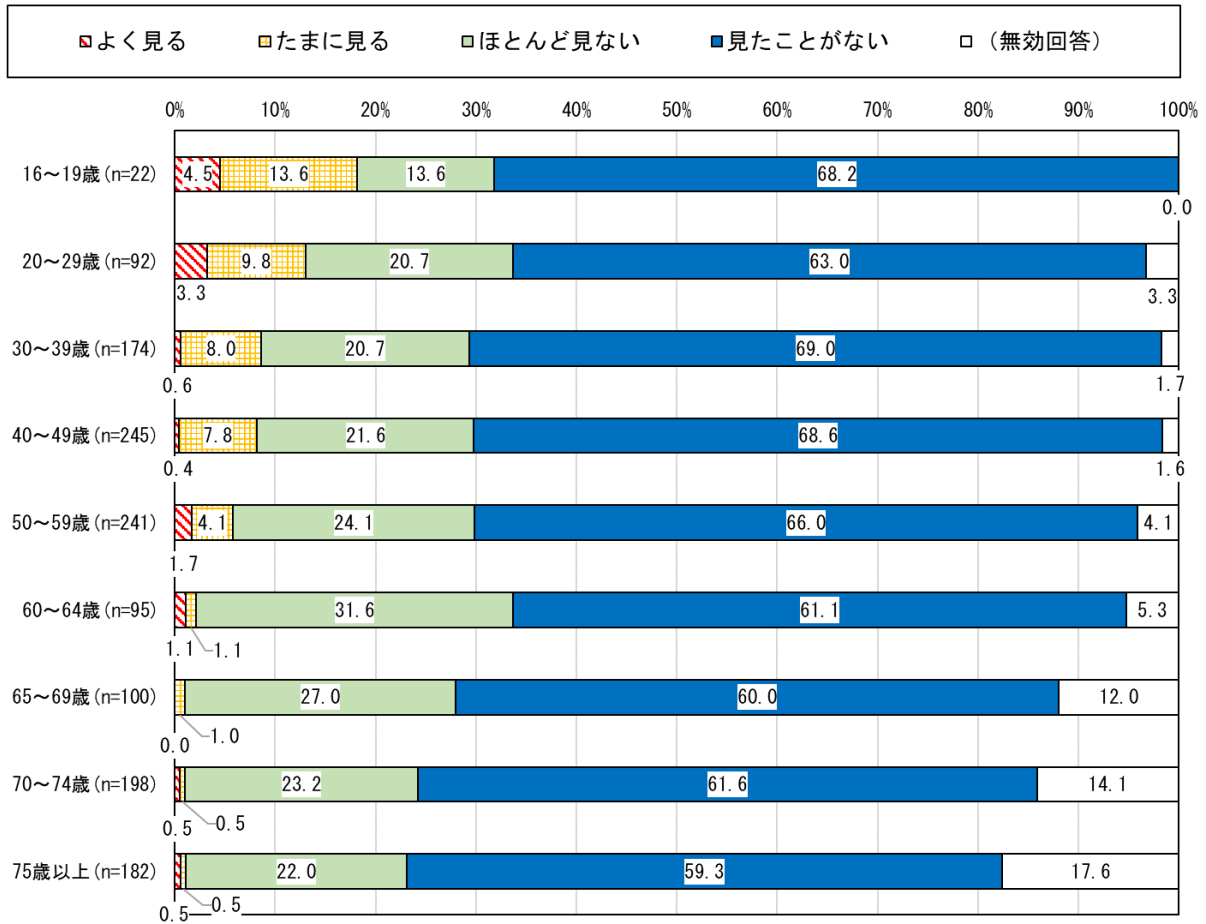
ウ 調布 FM ラジオ



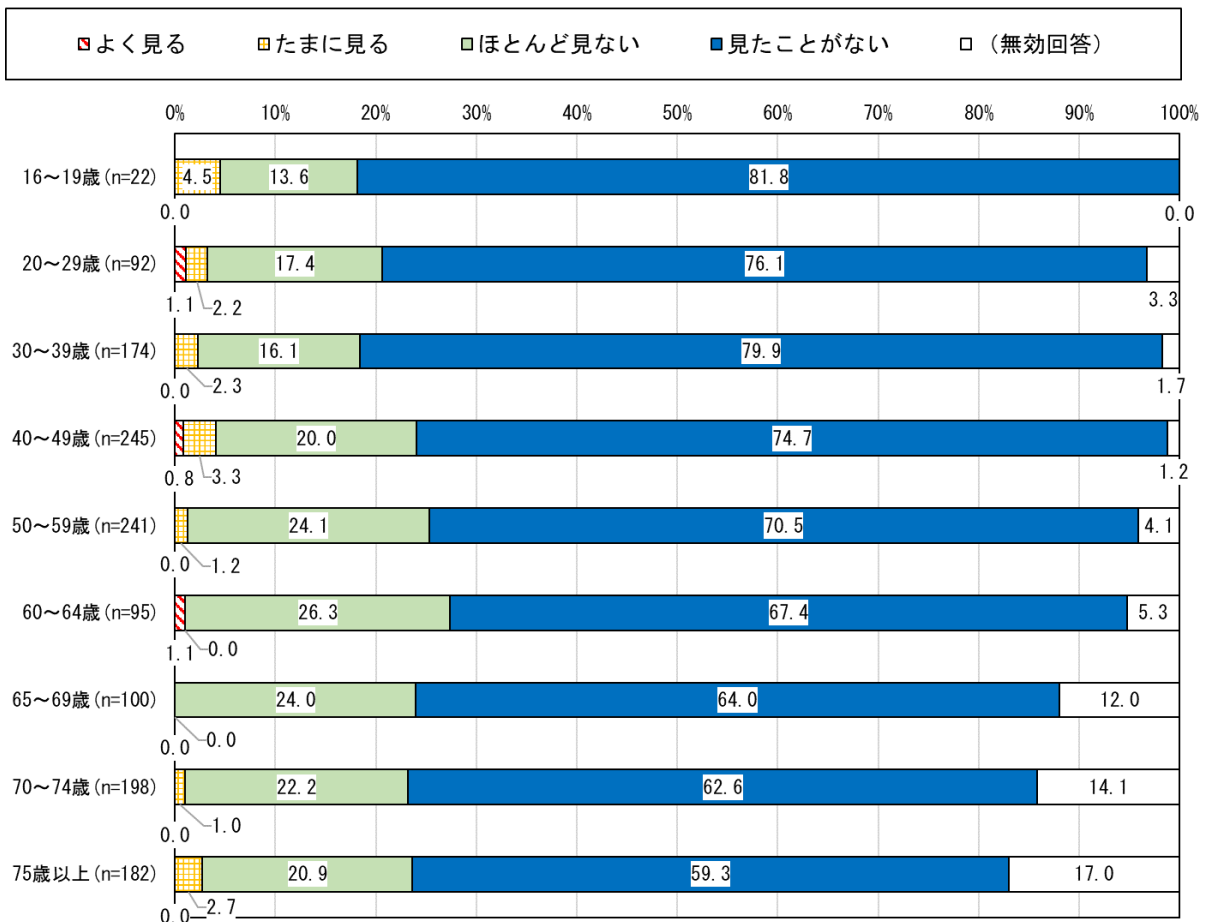
エ ケーブルテレビ



オ 市公式ツイッター

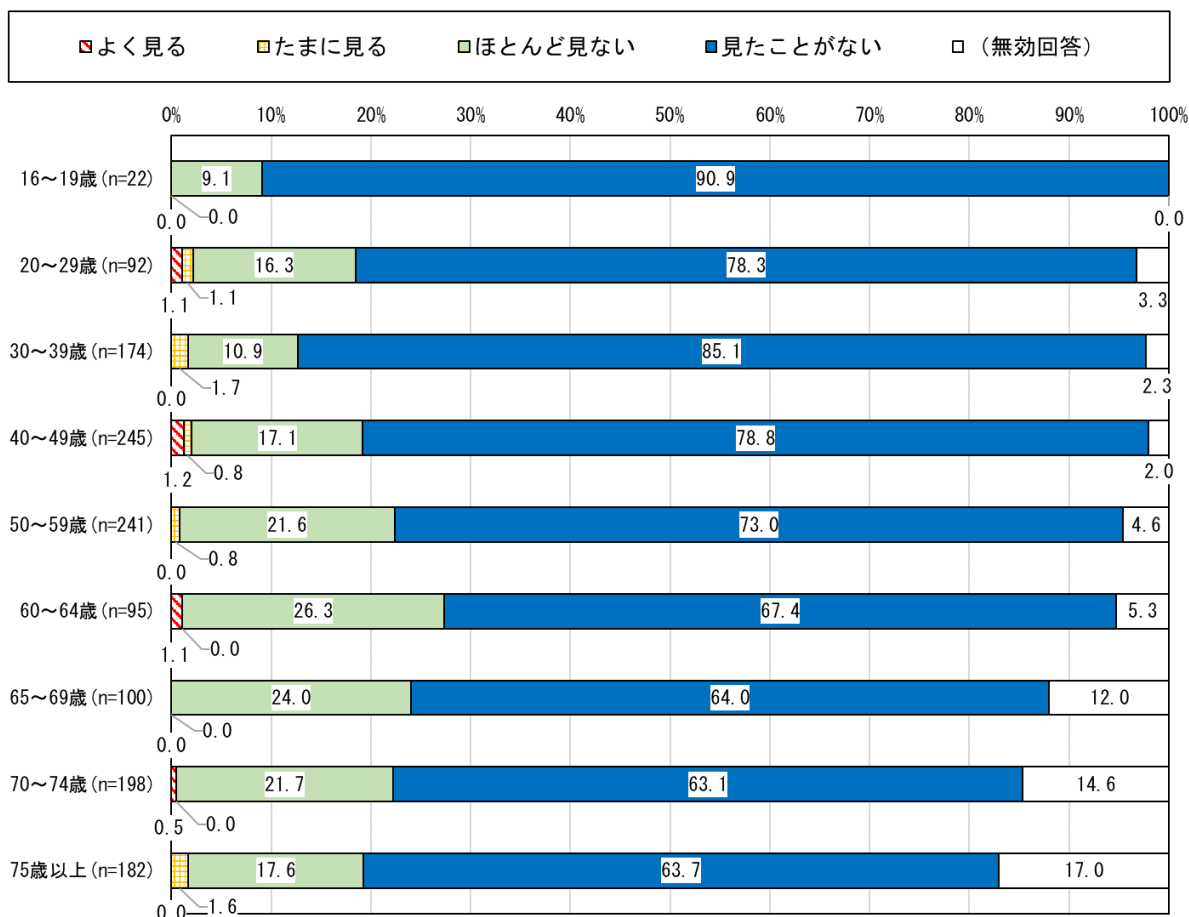


カ 市公式フェイスブック

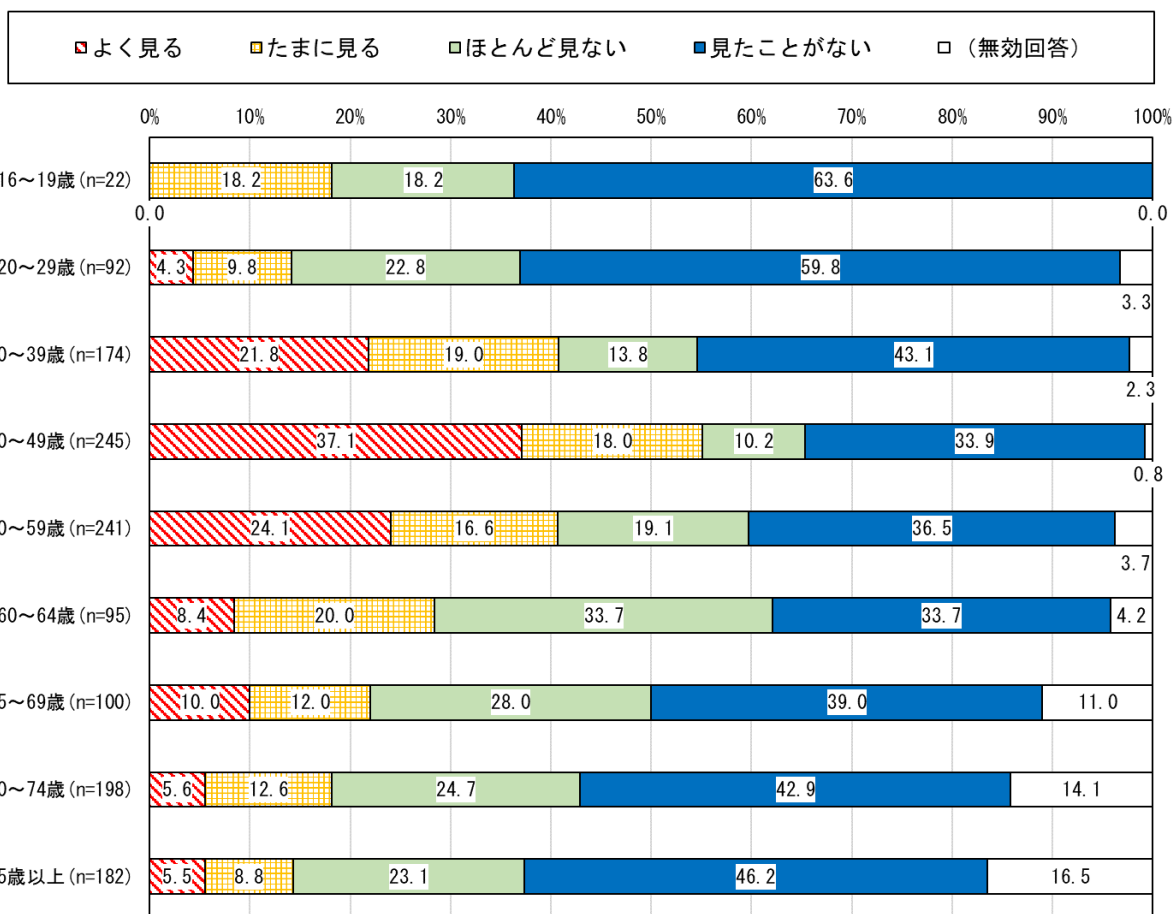


第3章 調査結果<日ごろの意識や行動>

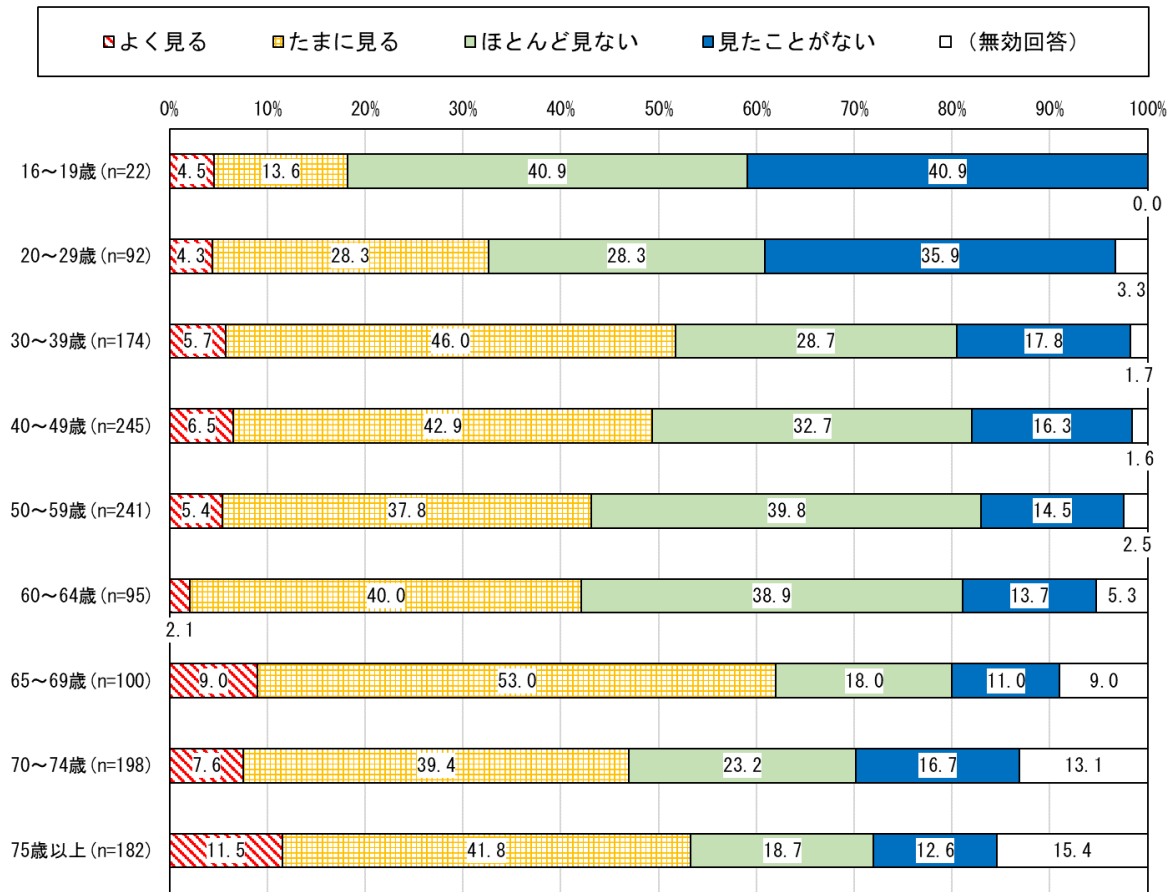
キ 市公式インスタグラム



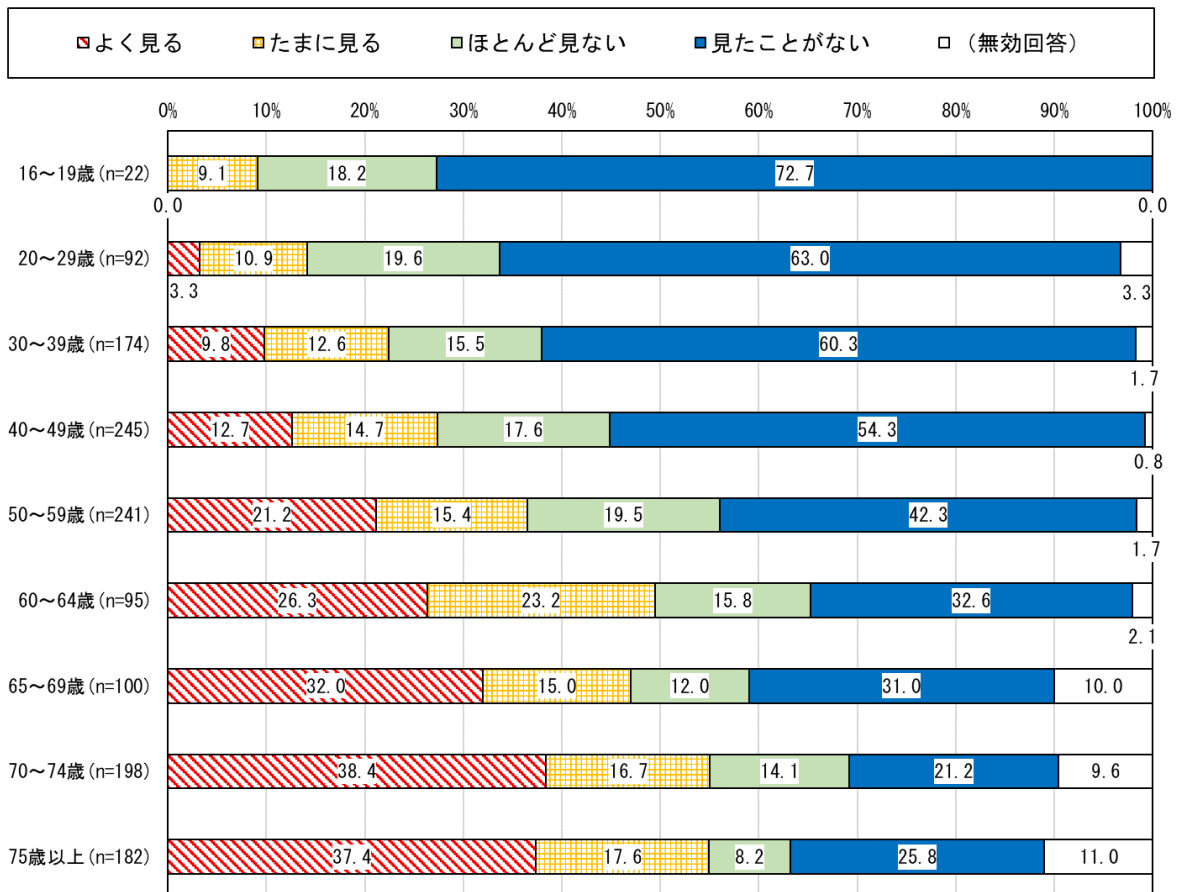
ク メールサービス



ケ 公共施設に掲示したポスター、チラシなど

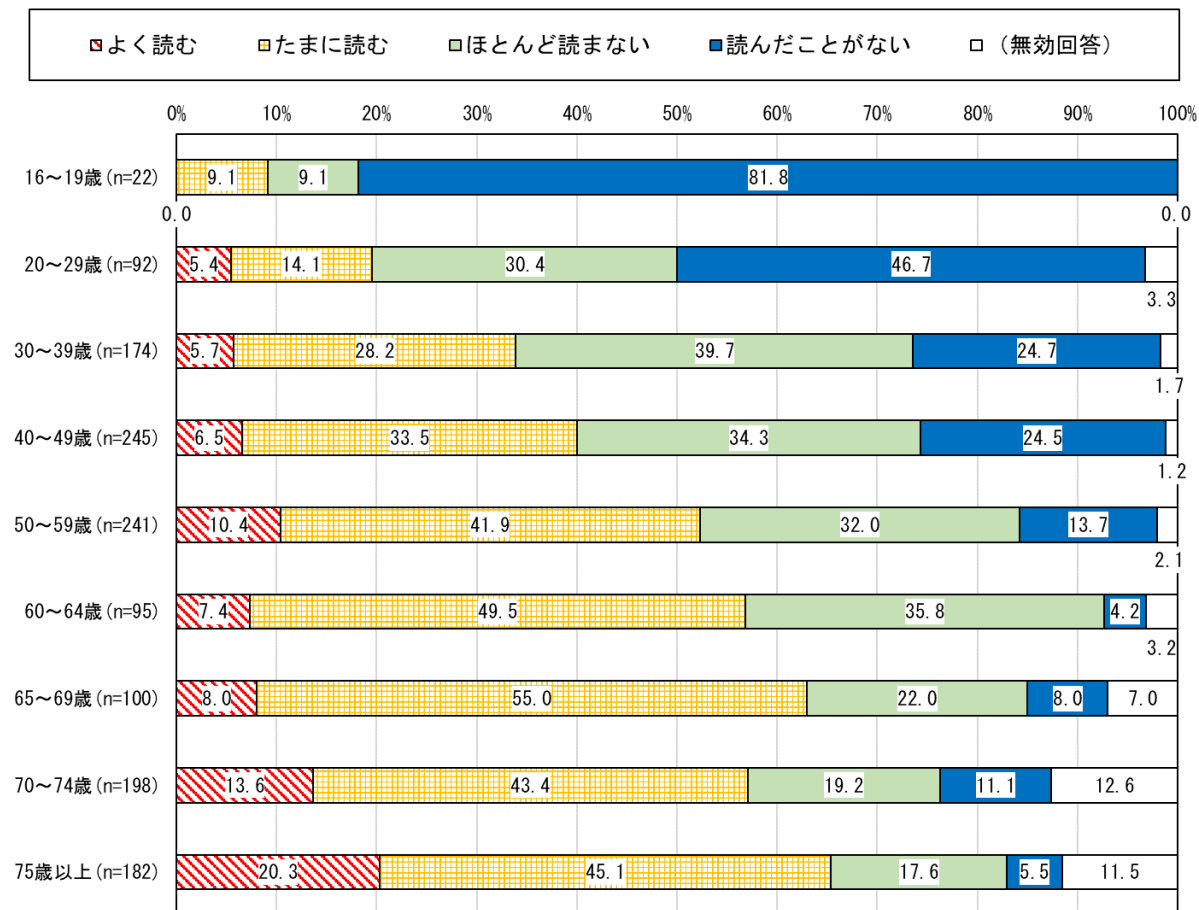


コ 自治会の回覧



第3章 調査結果<日ごろの意識や行動>

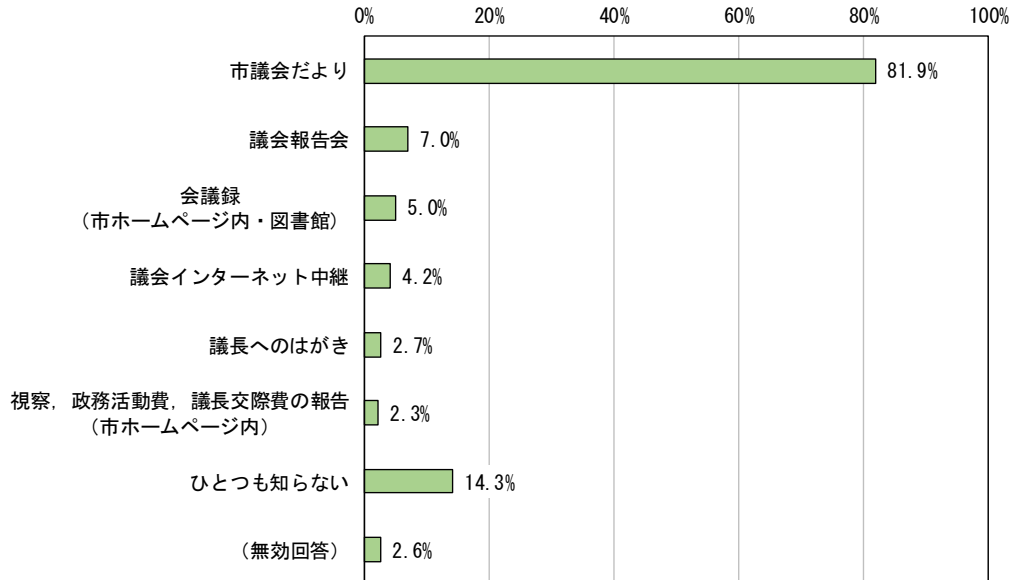
サ 市議会だより



問 62) 市議会が行っている広報、広聴活動のうち、あなたが知っているものはどれですか。

<全体 (n=1,367) >

○「調布市議会だより」が81.9%で最も高く、次いで「議会報告会」の7.0%、「会議録（市ホームページ内・図書館）」の5.0%の順となっています。



<年齢層別>

○いずれの年齢層でも、「調布市議会だより」が最も高くなっています。特に、40歳以上の年齢層では80%以上を占めています。

選択肢	合計	16~19歳	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~64歳	65~69歳	70~74歳	75歳以上
全体	1,367 100.0%	22 100.0%	92 100.0%	174 100.0%	245 100.0%	241 100.0%	95 100.0%	100 100.0%	198 100.0%	182 100.0%
市議会だより	1,120 81.9%	6 27.3%	48 52.2%	134 77.0%	204 83.3%	213 88.4%	89 93.7%	90 90.0%	162 81.8%	160 87.9%
議会報告会	96 7.0%	0 0.0%	2 2.2%	4 2.3%	14 5.7%	14 5.8%	5 5.3%	8 8.0%	20 10.1%	29 15.9%
会議録 (市ホームページ内・図書館)	69 5.0%	0 0.0%	7 7.6%	12 6.9%	11 4.5%	12 5.0%	5 5.3%	3 3.0%	8 4.0%	8 4.4%
議会インターネット中継	58 4.2%	1 4.5%	5 5.4%	6 3.4%	14 5.7%	17 7.1%	3 3.2%	4 4.0%	6 3.0%	1 0.5%
議長へのはがき	37 2.7%	1 4.5%	2 2.2%	2 1.1%	4 1.6%	11 4.6%	2 2.1%	3 3.0%	6 3.0%	5 2.7%
視察、政務活動費、議長交際費の報告 (市ホームページ内)	31 2.3%	0 0.0%	0 0.0%	5 2.9%	6 2.4%	6 2.5%	3 3.2%	1 1.0%	3 1.5%	6 3.3%
ひとつも知らない	195 14.3%	15 68.2%	38 41.3%	37 21.3%	38 15.5%	25 10.4%	5 5.3%	5 5.0%	20 10.1%	10 5.5%
(無効回答)	36 2.6%	0 0.0%	0 0.0%	3 1.7%	1 0.4%	2 0.8%	0 0.0%	5 5.0%	14 7.1%	9 4.9%

(上段：実数(人)，下段：構成比)

回答割合が最も高い：

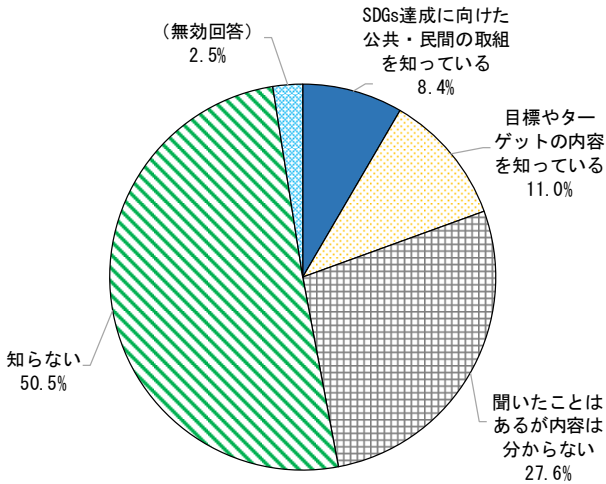
回答割合が2番目に高い：

【SDGsについて】

問 63) あなたは、国連で採択された持続可能な開発目標 SDGs を知っていますか。

<全体 (n=1,367) >

○「SDGs 達成に向けた公共・民間の取組を知っている」が 8.4%、「目標やターゲットの内容を知っている」が 11.0%で合計 19.4%、また、「知らない」は 50.5%となっています。



	R1	(参考) H30
SDGs達成に向けた公共・民間の取組を知っている	8.4%	4.3%
目標やターゲットの内容を知っている	11.0%	6.5%
聞いたことはあるが内容は分からない	27.6%	20.5%
知らない	50.5%	66.0%
(無効回答)	2.5%	2.6%

※平成 30 年度の値は「調布市基本計画策定に関する市民アンケート調査 平成 30 年度版」より引用

<年齢層別>

○「SDGs 達成に向けた公共・民間の取組を知っている」と「目標やターゲットの内容を知っている」の合計は、若い年齢層が高い傾向にあります。

